

北部清掃工場新揚水ポンプ所(仮称)新築本体その他工事							
図 面 目 録							
図面番号	図面名称	縮尺		図面番号	図面名称	縮尺	
		A3印刷時	A1印刷時			A3印刷時	A1印刷時
A-1	建築工事特記仕様書 5-1	—	—	S-19	部材リスト	1/60	1/30
A-2	建築工事特記仕様書 5-2	—	—	S-20	雑配筋図	1/60	1/30
A-3	建築工事特記仕様書 5-3	—	—	S-21	B通り架構詳細図	1/60	1/30
A-4	建築工事特記仕様書 5-4	—	—				
A-5	建築工事特記仕様書 5-5	—	—	H-1	機械基礎・箱抜穴明リスト、箱抜平面図	1/100	1/50
A-6	附近見取図	1/20, 000	1/10, 000	H-2	箱抜断面図	1/100	1/50
A-7	配置図（１）	1/3, 000	1/1, 500				
A-8	配置図（２）	1/200	1/100	AM-1	空調、換気設備、機器表、平面図、断面図	1/100	1/50
A-9	敷地面積求積図	1/2, 000	1/1, 000	AE-1	電灯コンセント設備、盤結線図、平面図、断面図	1/100	1/50
A-10	仕上表・求積図	1/200	1/100				
A-11	平面図	1/100	1/50				
A-12	立面図	1/100	1/50				
A-13	断面図	1/100	1/50				
A-14	部分詳細図(1)	図示	図示				
A-15	部分詳細図(2)	図示	図示				
A-16	部分詳細図(3)	図示	図示				
A-17	展開図・天井伏図	1/100	1/50				
A-18	建具配置図・建具表	1/100・200	1/50・100				
A-19	崖断面図（参考図）	1/400	1/200				
A-20	共通仮設計画図（参考図）	1/200	1/100				
A-21	舗装撤去範囲図	1/200	1/100				
S-1	構造細目共通図（複合構造物）（1）	—	—				
S-2	構造細目共通図（複合構造物）（2）	—	—				
S-3	構造細目共通図（複合構造物）（3）	—	—				
S-4	構造細目共通図（複合構造物）（4）	—	—				
S-5	構造細目共通図（複合構造物）（5）	—	—				
S-6	構造細目共通図（複合構造物）（6）	—	—				
S-7	構造細目共通図（複合構造物）（7）	—	—				
S-8	構造細目共通図（複合構造物）（8）	—	—				
S-9	構造細目共通図（複合構造物）（9）	—	—				
S-10	構造細目共通図（複合構造物）（10）	—	—				
S-11	構造細目共通図（複合構造物）（11）	—	—				
S-12	構造細目共通図（複合構造物）（12）	—	—				
S-13	深層混合処理工法特記仕様書	—	—				
S-14	ボーリング柱状図	図示	図示				
S-15	基礎伏図・屋根伏図-1	1/100	1/50				
S-16	屋根伏図-2	1/100	1/50				
S-17	軸組図-1	1/100	1/50				
S-18	軸組図-2	1/100	1/50				

章 適用	項 目	特 記 事 項	章 適用	項 目	特 記 事 項	章 適用	項 目	特 記 事 項																																					
1 各 章 共 通 事 項	○ 1. 適 用 基 準 等	○ 建築工事標準詳細図：国土交通省大臣官房官庁営繕部監修(令和4年版) ・敷地調査共通仕様書：国土交通省大臣官房官庁営繕部監修(令和元年版) ○ 公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)：国土交通省大臣官房官庁営繕部監修(令和4年版) ○ 公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)：国土交通省大臣官房官庁営繕部監修(令和4年版) ・公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編)：国土交通省大臣官房官庁営繕部監修(令和4年版) ・公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編)：国土交通省大臣官房官庁営繕部監修(令和4年版) ○ 公共建築設備工事標準図(電気設備工事編)：国土交通省大臣官房官庁営繕部監修(令和4年版) ○ 公共建築設備工事標準図(機械設備工事編)：国土交通省大臣官房官庁営繕部監修(令和4年版) ○ 営繕工事写真撮影要領(平成31年版)・同解説 ○ 工事写真撮影ガイドブック(建築工事及び解体工事編)：国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 ・営繕工事における工事関係図書等に関する効率化実施方針：国土交通省大臣官房官庁営繕部制定 ・営繕工事における工事関係図書等に関する効率化実施要領：関東地方建設局営繕部作成 ※適用する 監督員と協議を行うこと。	○ 18. 品 質 計 画	建築基準法により定められた風速 Vo(※38・) 地表面粗度区分・Ⅰ・Ⅱ○Ⅲ・Ⅳ 適用工種・コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事・防水工事 ・石工事・屋根及びとい工事・金属工事	○ 1. 一 般 事 項	コンクリートの種類 ※Ⅰ類・Ⅱ類 (6.2.1) 気乾単位容積質量による種類 ○普通コンクリート・軽量コンクリート (6.2.1) 設計基準強度(Fc) (6.2.2)																																							
	○ 2. 電気保安技術者		19. 住 宅 性 能 評 価	・適用するしない 住宅の品質確保の促進等に関する法律第3条第1項の規定に基づく評価方法基準の下記項目ごとに示した等級基準を満たすこと。 <table><tr><th>性能評価項目</th><th>等級評価説明</th><th>等級</th></tr><tr><td>劣化の軽減</td><td>劣化対策等級(構造躯体等)</td><td>※3・()</td></tr><tr><td>維持管理への配慮</td><td>維持管理対策等級</td><td>※2・()</td></tr><tr><td>温熱等級</td><td>省エネルギー対策等級</td><td>※4・()</td></tr><tr><td>空気環境</td><td>ホルムアルデヒド対策</td><td>※3・()</td></tr><tr><td>音環境</td><td>重量床衝撃音対策</td><td>※2・()</td></tr><tr><td>等価損失等級(外壁開口部)</td><td></td><td></td></tr><tr><td>高齢者等への配慮</td><td>高齢者等配慮対策等級</td><td>※3・()</td></tr></table>	性能評価項目	等級評価説明	等級	劣化の軽減	劣化対策等級(構造躯体等)	※3・()	維持管理への配慮	維持管理対策等級	※2・()	温熱等級	省エネルギー対策等級	※4・()	空気環境	ホルムアルデヒド対策	※3・()	音環境	重量床衝撃音対策	※2・()	等価損失等級(外壁開口部)			高齢者等への配慮	高齢者等配慮対策等級	※3・()	6 コ ン ク リ ー ト 工 事	<table><tr><th colspan="2">普通コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm²)</th><th colspan="2">種類</th></tr><tr><td>15</td><td>18</td><td>21</td><td>24</td></tr><tr><td>27</td><td>30</td><td>36</td><td></td></tr></table> 軽量コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm ²)・15・18・21・24・27・() (6.2.2) ※構造体強度補正值(普通ポルトランドセメント) その他のセメント種類は(表6.3.2)による コンクリート打込みから材齢28日までの予想平均気温θの範囲(℃) 0≤θ<8 8≤θ (6.3.2) <table><tr><th colspan="2">構造体強度補正值 (N/mm²)</th></tr><tr><td>6</td><td>3</td></tr></table>	普通コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm ²)		種類		15	18	21	24	27	30	36		構造体強度補正值 (N/mm ²)		6
性能評価項目	等級評価説明	等級																																											
劣化の軽減	劣化対策等級(構造躯体等)	※3・()																																											
維持管理への配慮	維持管理対策等級	※2・()																																											
温熱等級	省エネルギー対策等級	※4・()																																											
空気環境	ホルムアルデヒド対策	※3・()																																											
音環境	重量床衝撃音対策	※2・()																																											
等価損失等級(外壁開口部)																																													
高齢者等への配慮	高齢者等配慮対策等級	※3・()																																											
普通コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm ²)		種類																																											
15	18	21	24																																										
27	30	36																																											
構造体強度補正值 (N/mm ²)																																													
6	3																																												
○ 3. 施 工 条 件				○ 2. コンクリートの品質	普通コンクリート気乾単位容積質量 ※2.3t/m3程度・() (6.2.3) スランブ (6.2.4) <table><tr><th>打込み箇所</th><th>基礎、基礎梁、土間スラブ</th><th>柱、梁、スラブ、壁</th></tr><tr><td>所要スランブ(cm)</td><td>※15・18・</td><td>※18・</td></tr></table> 部材の位置及び断面寸法の許容差並びにその測定方法 ※6.2.5(1)・() (6.2.5) 合板使用打直し仕上り種別 (6.2.5)(6.8.2) <table><tr><th>種別</th><th>適用箇所</th><th>J A S 種 別</th><th>合板厚さ</th><th>塗 装</th></tr><tr><td>・ A 種</td><td></td><td>※表面加工品</td><td>・ B-C</td><td>※12・15</td><td>※有・無</td></tr><tr><td>○ B 種</td><td>図示</td><td>・表面加工品</td><td>※ B-C</td><td>※12・15</td><td>・有 ※無</td></tr><tr><td>○ C 種</td><td>図示</td><td>・表面加工品</td><td>※ B-C</td><td>※12・15</td><td>・有 ※無</td></tr></table> 平たんさ ※表6.2.5・() (6.2.5)	打込み箇所	基礎、基礎梁、土間スラブ	柱、梁、スラブ、壁	所要スランブ(cm)	※15・18・	※18・	種別	適用箇所	J A S 種 別	合板厚さ	塗 装	・ A 種		※表面加工品	・ B-C	※12・15	※有・無	○ B 種	図示	・表面加工品	※ B-C	※12・15	・有 ※無	○ C 種	図示	・表面加工品	※ B-C	※12・15	・有 ※無											
打込み箇所	基礎、基礎梁、土間スラブ	柱、梁、スラブ、壁																																											
所要スランブ(cm)	※15・18・	※18・																																											
種別	適用箇所	J A S 種 別	合板厚さ	塗 装																																									
・ A 種		※表面加工品	・ B-C	※12・15	※有・無																																								
○ B 種	図示	・表面加工品	※ B-C	※12・15	・有 ※無																																								
○ C 種	図示	・表面加工品	※ B-C	※12・15	・有 ※無																																								
4. 技 能 士	・鉄筋施工(鉄筋組立作業)・コンクリート圧送施工・型枠施工・とび・ブロック建築 (1.5.2) ・鉄工・構造物鉄工作业・製缶作業・エーシールパネル施工・石材施工(石張り作業) ・防水施工(・ウルトラゴム系塗膜防水工作業・シーリング防水工作業・合成ゴムシート防水工作業 ・アスファルト防水工作業・アクリルゴム系塗装防水工作業)・タイル張り・建築大工・かわらぶき ・建築板金(内外装板金作業)・左官・サツシ工・ガラス施工・カーテンウォール施工 ・建具製作・木製建具 手加工作業・アルミ製室内建具製作作業・木製建具 機械加工作業) ・内装仕上り施工(・ボード仕上り工作業・鋼製下地工作業・プラスチック系床仕上り工作業 ・カーペット系床仕上り工作業)・塗装(建築塗装作業)・畳製作・表装・造園 ・熱絶縁施工(吹付硬質ウレタンフォーム断熱工作業)・樹脂接着剤注入施工				○ 3. コンクリートの材料	セメント ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種・() (6.3.1)(表6.3.1) ○ (高炉セメント)(適用箇所・基礎) ・普通ポルトランドセメントは、JIS R 5210ポルトランドセメントに示された規定の他、右の規定に適合しなければならない。全アルカリの算出は、JIS R 5210ポルトランドセメント(低アルカリ形)による。 <table><tr><th>水和熱(J/g)</th><th>7日</th><th>352以下</th></tr><tr><th>全アルカリ(%)</th><th>0.75以下</th><th></th></tr><tr><th>塩 素(%)</th><th>0.02以下</th><th></th></tr></table> 骨材 フェノキッセルスラグ骨材及び銅スラグ細骨材 (・使用する・使用しない) アルカリシリカ反応性区分(※A・B) (6.3.1) 混和材料・混和剤(・AE剤・AE減水剤・高性能AE減水剤・) ・混和材(・フライアッシュⅠ種・フライアッシュⅡ種○高炉スラグ微粉末 ・コンクリート用膨張材・) (6.3.1)	水和熱(J/g)	7日	352以下	全アルカリ(%)	0.75以下		塩 素(%)	0.02以下																															
水和熱(J/g)	7日	352以下																																											
全アルカリ(%)	0.75以下																																												
塩 素(%)	0.02以下																																												
○ 5. 工 事 実 績 情 報 の 登 録	受注者は、受注時又は変更時において工事請負代金額が500万円以上の工事について、工事実績情報システム(CORINS)に基づき、受注・変更・完成・訂正時に工事実績情報として「通知書」を作成し監督員の確認を受けたうえ、受注時は契約後10日以内に、登録内容の変更時は変更があった日から10日以内に、完成時は工事完成後10日以内に、(一財)日本建設情報総合センターに登録しなければならない。 また、登録完了後は、(一財)日本建設情報総合センター発行の「登録内容確認書」を、監督員に提出しなければならない。なお、変更時と完成時の間が10日間を満たさない場合は、変更時の登録申請を省略できる。 (ただし、期間には、行政機関の休日に定める法律(昭和63年法律第91号)に定める行政機関の休日(は含まない)	○ 2. 仮 設 工 事	※ 設ける(規模：・1号(10m ² 程度)・2号(20m ² 程度)・3号(35m ² 程度)・4号(65m ² 程度) (2.3.1) ・5号(100m ² 程度) ○ 設けない ・仮設便所・工事用電力・設置する備品の種類及び数量(監督員との協議による) 仕上りは下表を標準とする。 <table><tr><th>部位等</th><th>仕 上 げ</th></tr><tr><td>床</td><td>合板張り又はビニル床シート張り</td></tr><tr><td>内壁、天井</td><td>合板又はせっこうボード張り、合成樹脂エマルジョンペイント塗り</td></tr><tr><td>屋根</td><td>塗装溶融垂鉛めっき鋼板張り、又は鉄板張り、調合ペイント塗り</td></tr></table>	部位等	仕 上 げ	床	合板張り又はビニル床シート張り	内壁、天井	合板又はせっこうボード張り、合成樹脂エマルジョンペイント塗り	屋根	塗装溶融垂鉛めっき鋼板張り、又は鉄板張り、調合ペイント塗り		○ 3. 1. 鉄 骨 製 作 工 場	※製作工場(グレード・H・M・R・J・指定なし) (7.1.3) 施工管理技術者 ※適用する・適用しない (7.1.4)																															
部位等	仕 上 げ																																												
床	合板張り又はビニル床シート張り																																												
内壁、天井	合板又はせっこうボード張り、合成樹脂エマルジョンペイント塗り																																												
屋根	塗装溶融垂鉛めっき鋼板張り、又は鉄板張り、調合ペイント塗り																																												
○ 6. 建 築 材 料 等	本工事に使用する建築材料等のうち、特定のものが特記された場合は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は、監督員の承諾を受ける。なお、「評価名簿による」と特記されたものについては、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿(最新版)」による。また、評価を受けたものを使用する場合は、評価書の写しを監督員に提出し、その確認をもって、品質・性能の確認があったものとして行うことができる。	○ 2. 工 事 用 水	構内既存の施設 ※利用できない○利用できる (※有償・無償) 構内既存の給水設備を利用する場合は、水道局へ臨時給水の申請を行い、水道メーターを設置すること。		○ 2. 材 料	鋼材 <table><tr><th>種 類 の 記 号</th><th>使 用 箇 所</th><th>規 格 等</th></tr><tr><td>SS400</td><td>図面による</td><td>※JIS規格</td></tr><tr><td></td><td></td><td>※JIS規格</td></tr><tr><td></td><td></td><td>※JIS規格</td></tr><tr><td></td><td></td><td>※JIS規格</td></tr></table> 高力ボルト (7.2.2) ※トルシア形高力ボルト(セットの種類2種(S 10 T))・JIS形高力ボルト(セットの種類2種(F 10 T)) ・溶融亜鉛めっき高力ボルト(セットの種類1種(F 8 T相当)) 径() 普通ボルト (7.2.3)(表7.2.3) ボルト(※六角ボルト・) ナット(※六角ナット・) ボルト径() アンカーボルト (7.2.4) 構造用材質 (※SNR400・) 建方用材質 (※SS400・) 形状及び寸法() ターンバックル (7.2.6) ターンバックル胴の種類： ※割弁式・() ターンバックルボルトの種類： ※羽子板ボルト・() デッキプレート (7.2.7) 構造用材質() 形状及び寸法() スタッド (7.2.8) 種類() 柱底均しモルタル (7.2.9) ・無収縮モルタル(製造所・評価名簿による) スカラップ (7.2.10) ※改良型(国土交通省大臣官房官庁営繕部「建築鉄骨設計基準」別図3.11)・() 材料試験 ※規格品証明書提出	種 類 の 記 号	使 用 箇 所	規 格 等	SS400	図面による	※JIS規格			※JIS規格			※JIS規格			※JIS規格																								
種 類 の 記 号	使 用 箇 所	規 格 等																																											
SS400	図面による	※JIS規格																																											
		※JIS規格																																											
		※JIS規格																																											
		※JIS規格																																											
○ 7. 特別な材料の工法	建築工事共通仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。	○ 3. 工 事 用 電 力	構内既存の施設 ※利用できない・利用できる (※有償・無償)		○ 3. 工 作 一 般	仮組・実施する ※実施しない (7.3.10) 高力ボルト及び普通ボルトのゲージ、ピッチ、ヘリあき等(国土交通省大臣官房官庁営繕部「建築鉄骨設計基準」による)																																							
○ 8. 発生材の処理等	建設副産物の処理 1. 本工事より発生する建設副産物については、再生資源の活用を行うことを原則とし、「廃棄物処理法」、「資源の有効な利用の促進に関する法律」(リサイクル法)、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」(建設リサイクル法)、「建設工事公衆災害防止対策要綱」及び「建設副産物適正処理推進要綱」を遵守するとともに、マニフェストシステムにより適正処理を行うこと。 2. 建設発生土及び建設廃棄物にあたっては、建設副産物適正処理推進要綱や関係法令を遵守すること。 3. 建設発生土及び建設廃棄物処理に起因する災害及び苦情については、受注者の責任において処理すること。 4. 建設廃材処分場は、不燃物は最寄りの処分場、可燃物は最寄りの焼却施設とする。 5. 建設廃棄物のうち、再生資材として有効利用できるコンクリート・アスファルト塊、金属くず、木くず等については、最寄りの再資源化施設(許可を受けた施設)へ搬出すること。 6. マニフェスト(管理票)の備考欄にせっこうボードの有無を明記するとともに、せっこうボードが含まれている場合は製造会社名等を明記すること。 7. 特別管理産業廃棄物の種類及び処理方法は図示による。	○ 4. 敷 地 調 査	平板、周辺設備マンホール等の取り合い。																																										
各 章 共 通 事 項	○ 9. 施工図等の取扱い	施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。	○ 5. そ の 他	※表示板の大きさ等： ※図による。 設置位置は監督員との協議による。また、取付けは、強風等に対し安全な工法とする。 (参考例) <table><tr><td>市章 150×150程度</td><td></td><td>シンボ 150×150程度以上</td></tr><tr><td>工事名</td><td>〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇新築本体工事</td><td></td></tr><tr><td>発注者</td><td>鹿児島市長</td><td></td></tr><tr><td>設計者</td><td>鹿児島市〇〇局〇〇部〇〇課</td><td></td></tr><tr><td>監理者</td><td>鹿児島市〇〇局〇〇部〇〇課</td><td></td></tr><tr><td>施工者</td><td>〇〇〇〇建設株式会社 連絡先 〇〇</td><td></td></tr><tr><td>工 期</td><td>令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日</td><td></td></tr></table>	市章 150×150程度		シンボ 150×150程度以上	工事名	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇新築本体工事		発注者	鹿児島市長		設計者	鹿児島市〇〇局〇〇部〇〇課		監理者	鹿児島市〇〇局〇〇部〇〇課		施工者	〇〇〇〇建設株式会社 連絡先 〇〇		工 期	令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日		○ 1. 埋戻し及び盛土	種別・A種 ※B種・C種・D種 (3.2.3)(表3.2.1) 各層厚さ ※300mm程度ごとに締め固める																		
市章 150×150程度		シンボ 150×150程度以上																																											
工事名	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇新築本体工事																																												
発注者	鹿児島市長																																												
設計者	鹿児島市〇〇局〇〇部〇〇課																																												
監理者	鹿児島市〇〇局〇〇部〇〇課																																												
施工者	〇〇〇〇建設株式会社 連絡先 〇〇																																												
工 期	令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日																																												
○ 10. 設備工事との取扱い	施工範囲 図示した鉄筋コンクリート梁の貫通孔及び鉄筋コンクリート部で、補強を必要とする貫通孔、開口部の補強、壁、天井の仕上材、下地材の補強、駆動装置が電動による建具類の2次配線及び操作スイッチ並びに自動開閉装置取付け箇所の切込み及び補強は標準詳細図などのとおりとし、本工事とする。 なお、細部については監督員と協議する。 施工図 設備機器の位置、取合いなどの検討のできる施工図を提出して、監督員の承諾を受ける。	○ 2. 地 均 し	工事完了後の整地は建物周囲2m程度の範囲について水はけよく地均しを行う。 ただし、仮設等で使用した範囲については原形に復する。																																										
○ 11. 完 成 図 等	・完成図等を作成する。 (1) 電子データ ⅰ) データ提出媒体：「CD-R」又は「DVD-R」とする。 ⅱ) データ保存形式：CADデータ(国土交通省の「官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕業務編】」のCADデータ交換標準に対応したもの)及び画像データ。 ただし、原則に依りがたい場合は、事前に監督員の承諾を得るものとする。 2 つ折製本(A3判)2部を監督員に提出する。装丁や文字の仕上りについては監督員と協議。 ・保全に関する資料 部数1部(監督員の指定する様式)・取扱い説明書 部数 部 (建設戸数+2戸分)	○ 3. 建設発生土の処理	※(南東秀)処分場へ搬出するものとする。その他処分場にて投棄処分を行う場合は、必ず処理場変更願承諾申請書を提出し、監督員にその承諾を得るものとする。 ・構内指示の場所にたい種・構内指示の場所に敷き均し ・存置する ※存置しない (3.3.3)																																										
○ 12. 工 事 写 真	<table><tr><th>区 分</th><th>分類</th><th>規格</th><th>撮影枚数</th><th>部数</th><th>原画の大きさ</th><th>備 考</th></tr><tr><td>※着工前</td><td>※カラー・</td><td>※L版程度・</td><td></td><td>※1部・</td><td>24×36以上</td><td></td></tr><tr><td>※工事中</td><td>※カラー・</td><td>※L版程度・</td><td></td><td>※1部・</td><td>24×36以上</td><td></td></tr><tr><td>※完成時</td><td>※カラー・</td><td>※L版程度・</td><td>枚</td><td>※1部・</td><td>・60×90以上 ・24×36以上</td><td>外観4面 主要内部</td></tr></table> ・実績報告用写真(2部)を監督員に提出する。 着工前と完成時の外観4面及び完成時の主要内部その他監督員の指示する工種の状況及び完成写真、その他監督員の指示する工種の状況及び完成写真	区 分	分類	規格	撮影枚数	部数	原画の大きさ	備 考	※着工前	※カラー・	※L版程度・		※1部・	24×36以上		※工事中	※カラー・	※L版程度・		※1部・	24×36以上		※完成時	※カラー・	※L版程度・	枚	※1部・	・60×90以上 ・24×36以上	外観4面 主要内部	○ 4. 山 留 め	・存置する ※存置しない (3.3.3)														
区 分	分類	規格	撮影枚数	部数	原画の大きさ	備 考																																							
※着工前	※カラー・	※L版程度・		※1部・	24×36以上																																								
※工事中	※カラー・	※L版程度・		※1部・	24×36以上																																								
※完成時	※カラー・	※L版程度・	枚	※1部・	・60×90以上 ・24×36以上	外観4面 主要内部																																							
○ 13. 竣 工 写 真	竣工写真は下記業者の撮影とし、箇所及び方法については監督員の指示による。 撮影業者 ※監督員の承諾する撮影業者(ただし、建築竣工写真撮影の実績のある業者とする。) ・完成後(解体工事の場合は、着工前及び完成後)の航空写真及びその電子データを提出すること。 撮影業者 ※監督員の承諾する撮影業者(ただし、建築竣工写真撮影の実績のある業者とする。)	○ 1. 砂 利 地 業	材料 ○再生クラッシュラン ・切込砂利及び切込砕石 (4.6.2) 厚さ ※60 ○(図示) (4.6.3) 再生クラッシュランは、原則としてかごま認定リサイクル製品認定制度の認定を受けた製品を使用すること。 (4.6.3) ○ 2. 砂 地 業																																										
○ 14. 既 存 建 物 と の 取 合 い	工事中、取合部その他本工事範囲外の部分に汚損又は損傷した場合は監督員に報告するとともに承諾を受けて現状に準じて補修する。	○ 3. 捨コンクリート地業	厚さ ※50 ○(図示) (4.6.2)(4.6.4) ○ 4. 床 下 防 湿 層	施工箇所 ※建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下(ビット下を除く) (4.6.2)(4.6.5) 材料 ※ポリエチレンフィルム・() 厚さ ※0.15・() 重ね合せ及び基礎梁際の折り下がり、は、250mm程度とする。																																									
○ 15. 揮発性有機化合物の室内濃度の測定	揮発性有機化合物の室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、報告すること。 また、指針値を上回った場合は、引渡しをするまでの間、換気の繰り返し又はベーク外等により濃度の低下に努め、指針値以下になるようにすること。なお、住宅については「住宅の品質確保の促進等に関する法律」の評価方法基準第5の6-3の(3)の定めにより測定等を行うこと。 測定対象 ・住宅 (建設戸数の1割以上(10戸未満の場合は1戸以上)で、各住戸2室以上) ・非住宅 測定対象室() 測定項目 ・5項目(ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、ステレン) ・6項目(上記5項目及びバニリン・プロペンゼン)	○ 5. 鉄 筋 の 種 類	※JISG3112・JIS3117 (5.2.1)(表5.2.1) <table><tr><th>種 類 の 記 号 呼 び 名 (mm)</th><th></th></tr><tr><td>・SD295</td><td>D16以下</td></tr><tr><td>・SD345</td><td>D19以上</td></tr><tr><td>・SD390</td><td>D29以下</td></tr><tr><td>・</td><td></td></tr></table> ・高強度せん断補強筋(建築基準法第37条認定を受けたもの、種別、使用部位、加工：()) ※図面による	種 類 の 記 号 呼 び 名 (mm)		・SD295	D16以下	・SD345	D19以上	・SD390	D29以下	・																																	
種 類 の 記 号 呼 び 名 (mm)																																													
・SD295	D16以下																																												
・SD345	D19以上																																												
・SD390	D29以下																																												
・																																													
○ 16. 部 分 使 用	・有(部分使用の場所等) ()	○ 2. 溶 接 金 網	・鉄線の形状、網目寸法及び鉄線の径： ※図示による (5.2.2)																																										
○ 17. 指 定 部 分	・有(範囲、時期については監督員の指示による) ()	○ 3. 継 手 及 び 定 着	柱及び梁の主筋 (※D19以上・)・重ね継手 ※ガス圧接 (5.3.4) その他の鉄筋 (※D16以下・)・重ね継手・()																																										

株式会社NJS
一級建築士 第 293963号
島 哲郎

北部清掃工場新揚水ポンプ所(仮称)新築本体その他工事
建築工事特記仕様書 5-2
鹿児島市建設局建築部建築課
Ver.R701003

A-02

章		適用		項目		特記事項		章		適用		項目		特記事項			
7 鉄骨 工事	4. 溶 接 接 合	開先形状(国土交通省大臣官庁営繕部「建築鉄骨設計基準」による) ・レ形 ・K形 ・() (7. 6. 4) 余盛り高さ ※鉄骨精度検査基準による ・() (7. 6. 7) ・鋼製エンドタブを切断する箇所及び範囲 () 溶接部の試験 (7. 6. 12) ※外観試験 (a)() (b)() ※超音波探傷試験 ※行う AOQL(工場溶接) ※4.0% ・2.5% 検査水準 ※第6水準 ・() 耐火被覆材の接着する面の塗装範囲() (7. 8. 2) 耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲() 種別 鋼製スリーブ内面(※A種 ・B種) (7. 8. 4)(表18. 3. 1) 耐火被覆材の接着面 () (7. 8. 4) (7. 9. 2)						11 タイル 工事	○	1. 共 通 事 項	伸縮調整目地及びびひ割れ誘発目地 (11. 1. 3) 位置 外壁(※表11. 1. 1 ・図示による) 屋内(・) 寸法 ※9. 7. 3 ・()		12 木工 工事	○	2. 防 腐 ・ 防 蟻 ・ 防 虫 処 理	しろあり防除工事 鹿児島県土木部建築課監修 鹿児島県しろあり防除工事特記仕様書により、社団法人日本しろあり対策協会鹿児島支所登録施工業者が施工する。(使用薬剤は、非有機リン系薬剤とする) 土壌処理 ※行う(範囲:) ・行わない 木材処理 ※行う(範囲:各階のFL+1m以下の下地材(合板等除く)) ・行わない 防腐・防蟻処理 ・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理 (12. 3. 1) ・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理 防虫処理 ・行う ※行わない (12. 3. 2) 土壌処理、木材処理共に行った際は、受注者と白蟻防除工事施工業者連帯の5年保証書を提出する。 木材処理のみ行った際は、白蟻防除工事施工業者による施工証明書を提出する。	
		3. RC造等の内部間仕切軸組及び床組	木材 間仕切軸組に用いる製材 ・杉 ・松 ・() 床組に用いる製材(土間スラブ類の土台、転ばし大引、転ばし根太 ・ひのき ・保存処理木材 ・() 床組に用いる製材(上記以外) ・杉 ・松 ・()														
		4. 窓、出入口その他	木材 窓、出入口、その他に用いる製材 吊元枠、水掛りの下枠、敷居 ※ひのき ・() (12. 5. 1) その他 ・松 ※杉 ・()														
		5. 床 板 張 り	木材 縁甲板、上がりがまちに用いる製材 ※ひのき ・() ・図示による (12. 6. 1)														
	6. 壁 及 び 天 井 下 地	木材 ・杉 ・松 ・() ・図示による (12. 7. 1)															
	5. 錆 止 め 塗 装	耐火被覆材の接着する面の塗装範囲() (7. 8. 2) 耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲() 種別 鋼製スリーブ内面(※A種 ・B種) (7. 8. 4)(表18. 3. 1) 耐火被覆材の接着面 () (7. 8. 4) (7. 9. 2)						○	5. 有機系接着剤によるタイル張り	・外装タイルにおける目地詰め (・行う ・行わない) (11. 3. 3) ○下地及びタイルごしらえ (・MCR工法 ○目荒し工法) (11. 3. 5)							
		6. 耐 火 被 覆	種類 () 材料 () 工法 () 耐火性能() (7. 9. 3)														
	7. 工 事 現 場 施 工	建方精度 ※鉄骨精度検査基準による ・() (7. 10. 2) アンカーボルト ・構造用アンカーボルト 形状()寸法() (7. 10. 3) ・アンカーフレーム 形状()寸法() ・建方用アンカーボルト 保持及び埋込工法(・A種 ※B種 ・C種) (表7. 10. 1) 柱底均しモルタル工法 工法(※A種 ・B種) 厚さ() (7. 11. 2) ボルト接合 ※普通ボルト接合 ・() (7. 12. 4)(表14. 2. 2)						12 木工 工事	○	1. 材 料	木材 木材については、市内で生産・加工された木材の使用に努めること。市内産材の確保が (12. 2. 1) 難しい場合でも、可能な限り県産材の使用に努めること。 ・地域産材の場所 ()地域 ただし、次の部位については「認証かごしま材」又は「認証かごしま材」と同等の基準を満足している市内産材を使用すること。 なお、「認証かごしま材」同等材の使用にあたっては、下記の条件を満足したものとす。 ア. 認証かごしま材の品質(乾燥、寸法、面材品質)と同等の基準を満足している旨及び原木の生産地を記載した旨の出荷証明書が添付されたもの イ. 監督員の立会い検査により、上記アの品質が確認されたもの 指定部分 ・構造材全て ・その他(・) 含水率 構造材 ※20％以下とする。 下地材 ※A種 ・B種 造作材 ※A種 ・B種						
		2. 材 料	「JAS1083」による製材 下地用針葉樹製材 樹種、等級、寸法、形状、含水率、保存処理及び材面の品! ※図示による等級 ・図示による ※2級 造作用針葉樹製材 樹種、寸法、等級、形状、含水率、保存処理及び材面の品質 ※図示による板類における等級 ※枠、額縁、敷居、かまひ、かまちの類の見え掛り面は上小節、それ以外は小節以上 ・図示による 広葉樹製材 樹種、寸法、保存処理及び材面の品質 ※図示による等級 ※1等 ・図示による ・() 含水率 ※10％以下 ・図示による ・()														
	8. 軽 量 形 鋼	ボルト接合 ※普通ボルト接合 ・() (7. 11. 2)						13 屋根 及び とい 工事	○	1. 共 通 事 項	※公共建築木造工事標準仕様書(平成31年版)5章の規定による。 ※建築基準法施行令第46条第4項表1に掲げる軸組を用いて、同4項の壁量を満たす建築物 木構仕(5. 1. 1) 部材寸法、その他 木構仕(5. 2. 2)						
9. 溶融亜鉛めっき工		亜鉛めっき種類 材 料 適用部位 A 種 最小板厚6.0mm以上の形鋼、鋼板類 B 種 最小板厚3.2mm以上、6.0mm未満の形鋼、鋼板類 C 種 最小板厚1.6mm以上、3.2mm未満の形鋼、鋼板類 普通ボルト・ナット類及びアンカーボルト類 高力ボルト接合摩擦面 ・プラスチック処理 ・() (7. 12. 5)		製材 「JAS1083」による製材 下地用針葉樹製材 樹種、等級、寸法、形状、含水率、保存処理及び材面の品! ※図示による等級 ・図示による ※2級 造作用針葉樹製材 樹種、寸法、等級、形状、含水率、保存処理及び材面の品質 ※図示による板類における等級 ※枠、額縁、敷居、かまひ、かまちの類の見え掛り面は上小節、それ以外は小節以上 ・図示による 広葉樹製材 樹種、寸法、保存処理及び材面の品質 ※図示による等級 ※1等 ・図示による ・() 含水率 ※10％以下 ・図示による ・()	2. 木 材	柱 : (120*120) @ 950 間柱 : (120*60) @ 455 胴縁 : (13*45) @ 455 木摺 : (13*75) @ 455 天井 吊木受 : (45*120～150) @ 950 吊木 : (45*45) @ 950 野縁受 : (45*45) @ 950 野縁 : (45*45) @ 455 ※但し、下地材の間隔は、使用材料の規格寸法にあわせる。 構造材及び下地材に対する釘の打ち込み本数等 木構仕(5. 2. 4) ※木構仕5章の規定以外は図示による。 ボルトの径 (※図示 ・()) ※木構仕5章の規定以外は図示による。 ボルトが受ける応力の種類 ・引張りを受けるボルト (※図示 ・()) ・せん断力を受けるボルト (※図示 ・()) 複合金物の工法等を木材に接合するためのボルト等の種類、形状、寸法及び本数 ※図示及び木構仕5章各節の規定による。 ・() ※構造金物はZマーク品又は(公財)日本住宅・木材技術センターにより認定されたものを使用する。 ※「木造の継手及び仕口の構造方法を定める件」(平成12年5月31日 建設省告示第1460号) 木構仕(5. 4. 2)による。											
9	防水 工事	1. 合成高分子系ルーフィングシート防水 (9. 4. 2～3)(表9. 4. 1) 工 程 種 別 適用箇所 仕 上 げ 塗 料 塗 り 厚 さ ・ S-F1 ・ カラー ・ シルバー ※1.2mm ・ ・ S-F2 ※1.5mm ・ ・ S-M1 ・ カラー ・ シルバー ※1.5mm ・ ・ S-M2 ※1.5mm ・ 機械的固定方法 建築基準法に基づく風圧力に対応した工法とし監督員の承諾を受けること (9. 4. 4) 可塑性移行防止用シート ※免泡ポリエチレンシート ・()						○	2.	塗 膜 防 水		ウレタンゴム系塗膜防水 (9. 5. 3)(表9. 5. 1～2) 工 程 種 別 施 工 箇 所 備 考 ・ X-1 ※ 屋根 (絶縁工法) ○ X-2 ※ 屋根 (密着工法) ゴムアスファルト系塗膜防水 工 程 種 別 施 工 箇 所 備 考 ・ Y-1 地下外壁 ・ Y-2 屋内 保護層 ・適用する ・適用しない					
		3. シ ー リ ン グ	シーリングの種類は、表9. 7. 1による (9. 7. 2)(表9. 7. 1) 目地寸法 ※9. 7. 3(1)(ア～ウ) ・() (9. 7. 3) 接着性試験 ※簡易接着性試験 ・引張接着性試験 (9. 7. 5) 屋上等の活性進化防水剤入りコンクリートタンピング金ゴて押入(防水剤は6章 コンクリート工事による)														
10 石工 工事	1. 共 通 事 項	石の割付け ・() ・図示による (10. 1. 3) 石材の加工 粗面仕上げの場合 ・監督員と協議 ・図示による ワックスの使用 ・使用する ・使用しない (10. 1. 5) テラゾ (10. 2. 1) 種類及び大きさ ※大理石(1.5～12mm) ・() テラゾブロック 形状 ・平物 ・役物 仕上げ面 ・片面 ・両面 寸法 (図示による) 表面仕上げ ・粗磨き ・水磨き ・本磨き						○	2. 材 料	天然木化粧合板 厚さ、接着の程度、化粧板に使用する単板の樹種名、防虫処理 ※図示による 特殊加工化粧合板 品目、厚さ、接着の程度、単板の樹種名、化粧加工の方法、防虫処理 ※図示による パーティクルボード 表裏面の状態による区分、難燃性による区分及び厚さ ※図示による 曲げ強さによる区分、耐水性による区分、厚さ ※厚さ15mm、曲げ強さ13タイプ、耐水性MR1(M)又はMR2(P)タイプ 構造用パネル 品名、厚さ ※図示による M D F 表表面の状態による区分、曲げ強さによる区分、接着剤による区分 ※図示による 難燃性による区分、厚さ ※図示による							
		株式会社NJS 一級建築士 第 293963号 島 哲 郎		北部清掃工場新揚水ポンプ所(仮称)新築本体その他工事 建築工事特記仕様書 5－3 鹿児島市建設局建築部建築課													
														A－03			

14
金属
工事

1. 一般事項

2. 表面処理

あと施工アンカー施工後の確認引張試験 ・ 実施する ・ 実施しない (14. 1. 3)

・ アルミニウム及びアルミニウム合金 (14. 2. 1)(表14. 2. 1)

種類	施工箇所
・ AB-1種(無着色)	
・ AB-2種(・ ブラウン系 ・ ブラック ・ ステンカラー)	
・ AC-1種(無着色)	
・ AC-2種(・ ブラウン系 ・ ブラック ・ ステンカラー)	
・ BA-1種(無着色)	
・ BA-2種(・ ブラウン系 ・ ブラック ・ ステンカラー)	
※ BB-1種(無着色)	アルミ建具
・ BB-2種(・ ブラウン系 ・ ブラック ・ ステンカラー)	
・ BC-1種(無着色)	
・ BC-2種(・ ブラウン系 ・ ブラック ・ ステンカラー)	
・ C種	

陽極酸化皮膜着色方法 ※ 二次電解着色 (色合:) ・ ()

・ 鉄鋼の亜鉛めっき (14. 2. 2)(表14. 2. 2～4)

表面処理方法	種類	施工箇所
熔融亜鉛めっき	・ A種	
	・ B種	
	・ C種	
電気亜鉛めっき	・ D種	
	・ E種	
	・ F種	

15
左官
工事

○ 1. モルタル塗り

○ 2. 仕上塗材仕上げ

材料 ○ 現場調合材料 ・ 既調合材料(材料は監督員の承諾による)

モルタルの防水剤

製造所(監督員の承諾を得るものとする。)

・ 既製目地材 形状()

材料 JIS A 6909(建築用仕上塗材) (15. 6. 2)(表15. 6. 1～2)

種類	呼び名	仕上げ形状等
○ 薄付け仕上塗材	※ 外装薄塗材E	○ 砂壁状 ・ 着色骨材砂壁状
・ 複層仕上塗材	※ 複層塗材E ・ 複層塗材RE ・ 防水形複層塗材E	※ ゆず肌状 ・ 凸凹処理 ・ 凹凸状 耐候性 ※ 耐候形3種 上塗材 溶媒 ※ 水系 ・ 溶剤系 樹脂 ※ アクリル系 外観 ※ つやあり ・ つやなし ・ メタリック

16
建具
工事

○ 1. アルミニウム製建具

(16. 2. 2.4.5)(表16. 2. 1. 2)

種別	外部に面する建具	内部建具	特見込み(mm)
※ 普通ドア セツ、サツ	・ A種 ○ B種		※ 70 ・
	・ C種		※ 100 ・ 図示
・ 木下地	・ D種 ・ E種		※ 70
・ 防音ドアセット	遮音性の等級()		
・ 断熱ドアセット	断熱性の等級()		
・ 耐震ドアセット	面内変形追随性の等級()		
表面処理(表14.2.1による)	※ BB-1種 ・	※ AC-1種 ・	

網戸防虫網 ※ 合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス(SUS316)製 (16. 2. 3)

製造所 (監督員の承諾を得るものとする。)

18
塗装
工事

1. 材料

2. 素地ごしらえ

3. 塗料塗り

※ 屋内の壁及び天井の塗装仕上げ材は、防火材料の指定がある場合は建築基準法に基づき、指定又は認定を受けたものとする。基材同等の認定表示のあるものとする。

・ 木部 不透明塗料塗り (※ A種 ・ B種) (18. 2. 2)(表 18. 2. 1)

透明塗料塗り (・ A種 ※ B種) (18. 2. 3)(表 18. 2. 2)

・ 鉄鋼面 (・ A種 ・ B種 ※ C種) (18. 2. 4)(表 18. 2. 3)

・ 亜鉛めっき鋼面 (・ A種 ・ B種) (18. 2. 5)(表 18. 2. 4)

・ モルタル及びせつこうプaster面 (・ A種 ※ B種) (18. 2. 6)(表 18. 2. 5)

・ コンクリート及びALCパネル及び押出成形セメント板面 (・ A種 ※ B種) (18. 2. 7)(表 18. 2. 6)

(耐候性塗料塗り(DP)、2液形ポリウレタンエナル塗り、アクリルシリコン樹脂エナル塗り、常温乾燥形ふっ素エナル塗りについては、表18. 2. 6による)

・ せつこうボード及びその他ボード面 継目処理工法 (※ A種 ・ B種) (18. 2. 7)(表 18. 2. 7)

その他 (・ A種 ※ B種)

・ 錆止め塗料塗り (18. 3. 2～3)(表 18. 3. 1～6)

下地	塗料種別	塗り種別
鉄鋼面	SOP ※ A種	見え掛り部分 ※ A種 ・ B種
	EP-G ・ A種 ※ B種	見え隠れ部分 ・ A種 ※ B種
	DP 1回目 ※ C種	表18. 3. 4
	2・3回目 ※ D種	
亜鉛めっき鋼面	SOP ※ A種 ・ B種	鋼製建具 ※ A種 ・ B種
	EP-G ※ C種	その他 ・ A種 ※ B種
	DP ※ B種	

・ 合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)

塗料種類 ※ 1種 ・ 2種 (18. 4. 2)

木部塗り種別 (屋外) ※ A種 ・ B種 (18. 4. 3)

(屋内) ・ A種 ※ B種 (多孔質広葉樹の場合を除く)

鉄鋼面塗り種別 ・ A種 ※ B種 (18. 4. 4)

・ クリヤラッカー塗り(CL) (18. 5. 2)(表 18. 5. 1)

塗り種別 ・ A種 ※ B種

・ アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(NAD) (18. 6. 2)(表 18. 6. 1)

塗り種別 ・ A種 ※ B種

19
内装
工事

1. ビニル床シート、
ビニル床タイル及び
ゴム床タイル張り

2. カーペット敷き

3. 合成樹脂塗床

4. フローリング張り

5. 畳敷き

接着剤 壁紙、ビニル床タイル、ビニル床シート、ビニル幅木に使用する接着剤は、ホルマリン不検出のもので、水性形のものとする。
接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする(水廻り及び湿度の高い箇所を除く)。

ビニル床シート

種類	色柄	厚さ	工法	備考
※ FS	・ 無地	※ 2.0	※ 熱溶接	・ 防滑性ビニル床シート
・	・ 模様	・	・ 突付け	・

ビニル床タイル

種類	色柄	厚さ(mm)	備考
・ 単層ビニル床タイル(TT)	・ 無地	※ 2	・ 防滑性床タイル
・ 複層ビニル床タイル(FT)	・ 模様	・ 3	
・ コンポジションビニル床タイル(KT)			

特殊機能床材

帯電防止床シート又は床タイル 種類() 性能() 厚さ()

視覚障害者用床タイル 種類() 形状()

耐動荷重性床シート 種類() 厚さ()

ビニル幅木 厚さ(※ 1.5mm以上) 高さ(※ 60mm ・ 100mm) 種類()

ゴム床タイル 種類() 厚さ() 色柄() 寸法()

下地がセメント系及び木質系以外の場合の接着剤種別 ビニル床シート、タイル()

ゴム床タイル()

・ 織じゅうたん 種別 (・ A種 ・ B種 ・ C種) 織り方()(19. 3. 2～3)(表19. 3. 1～2)

バイル形状 (・ カットバイル ・ ループバイル)

帯電性(人体帯電圧 ※ 3kv以下)

・ タフテッドカーペット バイル形状 (・ カットバイル ・ ループバイル)

バイル長 () 帯電性(人体帯電圧 ※ 3kv以下)

工法 (・ グリッパ ー ・ 全面接着)

・ タイルカーペット 種類 (※ 第1種) バイル形状(※ ループバイル)

寸法 (※ 500mm角) 総厚さ(※ 6.5mm)

平場敷き方 (※ 市松敷き)

階段敷き方 (※ 模様流し)

下敷き材 (※ JIS L 3204 第2種2号 呼び厚さ8mm)

取付け用付属品 見切り 材質 () 種類() 形状()

押え金物 材質 () 種類() 形状()

(19. 4. 2～3)(表19. 4. 4～8)

材料	種類	仕上げの種類
・ 厚膜型塗床材	・ 弾性ウレタン樹脂系塗床材	※ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ ・ つや消し仕上げ
	・ エポキシ樹脂系塗床材	・ 薄膜流しのべ工法 (※ 平滑 ・ 防滑) ・ 厚膜流しのべ工法 (※ 平滑 ・ 防滑) ・ 樹脂モルタル工法 (※ 平滑 ・ 防滑)
	・ 薄膜型塗床材	・ エポキシ樹脂系塗床材

(19. 5. 2～7)(表19. 5. 1～5)

工法	フローリング種類	寸法等	樹種	
※ 釘留め工法 (接着剤併用)	※ 根太張り工法	単層	※ フローリングボード 表19. 5. 1	・ なら
		複合	・ A種 ・ B種 ※ C種	表19. 5. 2
	・ 直張り工法	単層	※ フローリングボード 表19. 5. 3	・ なら
		複合	・ A種 ・ B種 ・ C種	表19. 5. 4
・ 接着工法	単層	・ フローリングブロック ※ 図示による	・ なら	
		・ フローリングボード 表19. 5. 5	・ さくら ・	
		・ A種 ・ B種 ・ C種	表19. 5. 6	

(19. 6. 2)(表 19. 6. 1)

畳の種別 (和室) ・ A種 ・ B種 ・ C種 (19. 6. 2)(表 19. 6. 1)

・ D種 (・ KT-I ・ KT-II ・ KT-III ・ KT-K ・ KT-N)

(柔道場) 製造所 (監督員の承諾を得るものとする。)

株式会社NJS

一級建築士 第 293963号

島 哲郎

北部清掃工場新湯水ポンプ所(仮称)新築本体その他工事

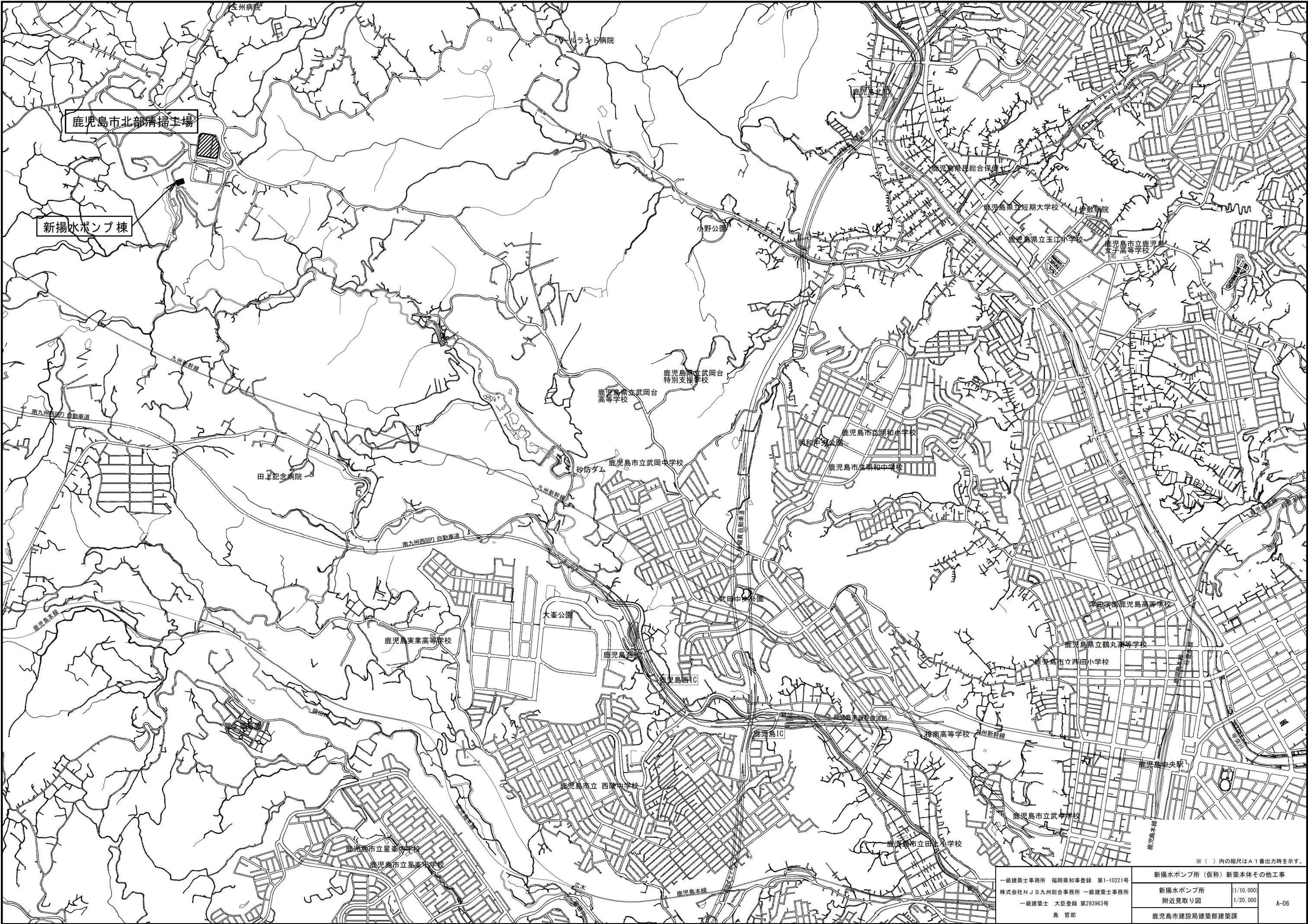
建築工事特記仕様書 5-4

鹿児島市建設局建築部建築課

A-04

Ver.B701003

章 適用		項 目		特 記 事 項		章 適用		項 目		特 記 事 項		章 適用		項 目		特 記 事 項																							
19 内装工事	6. せっこうボード、 その他ボード及び 合板張り	せっこうボード、その他ボード類 (19. 7. 2～3)(表 19. 7. 1～5)						6. 階 段 滑 り 止 め	材種 ※ SUS ・ () (20. 2. 7) 形状 ※ ビニルタイヤ又は合成ゴムタイヤ入り ・ ゴムタイヤなし 両端フラットエンド ・ 無 ※ 有 幅(mm) ・ 35 ※ 40 取付け工法 ※ 接着工法 ・ 埋込み工法(溶接)																														
		・ せっこうボード							7. 床 目 地 棒	床仕上げの異なる箇所には目地棒を入れる。 (20. 2. 8) ・ 黄銅製 4×12 ・ ステンレス製 4×12 ※ ステンレス製 H 型 (幅40 内外厚さ2)																													
		・ 化粧せっこうボード								8. 黒 板 及 び ホワイ ト ホ ー ト	(20. 2. 9) <table><tr><td></td><td>種 類</td><td>寸 法(mm)</td><td>色 彩</td><td>備 考</td></tr><tr><td>・ 黒板</td><td>※ 研出し ・ 焼付け</td><td></td><td>※ 緑 ・ 黒 ※ 緑 ・ 黒</td><td>※ 曲面 ・ スクリーン付引分け</td></tr><tr><td>・ ホワイトボード</td><td>※ ほうろう白板</td><td></td><td>※ 白 ※ 白</td><td>・ 曲面 ・ スクリーン付引分け</td></tr></table> 黒板及びホワイトボードについて5年保証書を提出すること。なお、保証書は受注者と施工業者の連帯とする。 (製品には、製造年月、製作所記名プレートを取り付ける。)							種 類	寸 法(mm)	色 彩	備 考	・ 黒板	※ 研出し ・ 焼付け		※ 緑 ・ 黒 ※ 緑 ・ 黒	※ 曲面 ・ スクリーン付引分け	・ ホワイトボード	※ ほうろう白板		※ 白 ※ 白	・ 曲面 ・ スクリーン付引分け								
			種 類	寸 法(mm)	色 彩	備 考																																	
		・ 黒板	※ 研出し ・ 焼付け		※ 緑 ・ 黒 ※ 緑 ・ 黒	※ 曲面 ・ スクリーン付引分け																																	
		・ ホワイトボード	※ ほうろう白板		※ 白 ※ 白	・ 曲面 ・ スクリーン付引分け																																	
		・ 無石綿けい酸カルシウム板							9. 鏡	厚さ ※ 5mm ・ (20. 2. 10)																													
		・ 木毛セメント板								10. 表 示	・ 対人衝突防止表示 ※ 図示(市販品 ※ ステンレス製 径約30mm ・) ・ 無し ・ 誘導標識、非常用進入口等の表示は消防法に適合する市販品とし、その他は共通詳細図による(20. 2. 11) ・ 室名表示 ※ 図示による																												
		合板類							11. ブ ラ イ ン ド		(20. 2. 13) <table><tr><td></td><td>形 式</td><td>スラットの材種</td><td>開 閉 方 式</td><td>スラットの幅 (mm)</td><td>ヘッドボックス及びボトムレール</td></tr><tr><td rowspan="2">・ 普通合板</td><td>・ 生地そのまま又は透明塗料塗りの場合 (・ ラワン ・ しな ・)</td><td>・ 5.5 ・ 9 ・ 12</td><td>・ A種 ※ B種</td><td rowspan="2">・ 25 ・ ・ 80 ・ 100</td><td rowspan="2">※ 鋼製</td></tr><tr><td>・ 不透明塗料塗りの場合 (・ ラワン ・ しな ・)</td><td>・ 5.5 ・ 9 ・ 12</td><td>・ A種 ※ B種</td></tr><tr><td rowspan="2">・ 特殊合板</td><td>・ 天然木化粧合板の化粧単板 (・ ラワン ・ しな ・)</td><td>化粧単板厚 ※ 0.3未満 ・ 板厚 ・ 4.2 ・</td><td>・ A種 ※ B種</td><td rowspan="2">・ 15 ・ 20 ※ 25 ・ 30 ・ 40 ・ 50</td><td rowspan="2">監督員の承諾による工場</td></tr><tr><td>・ 特殊加工化粧合板の仕上げの種類 (・)</td><td>板厚 ・ 4.0 ・</td><td>・ A種 ※ B種</td></tr></table>							形 式	スラットの材種	開 閉 方 式	スラットの幅 (mm)	ヘッドボックス及びボトムレール	・ 普通合板	・ 生地そのまま又は透明塗料塗りの場合 (・ ラワン ・ しな ・)	・ 5.5 ・ 9 ・ 12	・ A種 ※ B種	・ 25 ・ ・ 80 ・ 100	※ 鋼製	・ 不透明塗料塗りの場合 (・ ラワン ・ しな ・)	・ 5.5 ・ 9 ・ 12	・ A種 ※ B種	・ 特殊合板	・ 天然木化粧合板の化粧単板 (・ ラワン ・ しな ・)	化粧単板厚 ※ 0.3未満 ・ 板厚 ・ 4.2 ・	・ A種 ※ B種	・ 15 ・ 20 ※ 25 ・ 30 ・ 40 ・ 50	監督員の承諾による工場	・ 特殊加工化粧合板の仕上げの種類 (・)	板厚 ・ 4.0 ・
			形 式	スラットの材種	開 閉 方 式	スラットの幅 (mm)	ヘッドボックス及びボトムレール																																
・ 普通合板	・ 生地そのまま又は透明塗料塗りの場合 (・ ラワン ・ しな ・)	・ 5.5 ・ 9 ・ 12	・ A種 ※ B種	・ 25 ・ ・ 80 ・ 100	※ 鋼製																																		
	・ 不透明塗料塗りの場合 (・ ラワン ・ しな ・)	・ 5.5 ・ 9 ・ 12	・ A種 ※ B種																																				
・ 特殊合板	・ 天然木化粧合板の化粧単板 (・ ラワン ・ しな ・)	化粧単板厚 ※ 0.3未満 ・ 板厚 ・ 4.2 ・	・ A種 ※ B種	・ 15 ・ 20 ※ 25 ・ 30 ・ 40 ・ 50	監督員の承諾による工場																																		
	・ 特殊加工化粧合板の仕上げの種類 (・)	板厚 ・ 4.0 ・	・ A種 ※ B種																																				
下地 ・ 軽量鉄骨下地 ・ 木下地 ・						21. 排 水 工 事	1. 屋 外 雨 水 排 水 材料 ※ 図示による																																
							2. 縁 石 及 び 側 溝 材料 ※ 図示による																																
20 ユニット及びその他の工事	7. 壁 紙 張 り	施工箇所 壁紙の種類 防火性能の級別 素地ごしえ (19. 8. 2～3) <table><tr><td>紙</td><td>織物</td><td>ビニル</td><td>化学繊維</td><td>無機質</td><td>※ 1級 ・ 級 ・ A種 ※ B種</td></tr><tr><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>※ 1級 ・ 級 ・ A種 ※ B種</td></tr><tr><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>※ 1級 ・ 級 ・ A種 ※ B種</td></tr></table>						紙	織物	ビニル	化学繊維	無機質	※ 1級 ・ 級 ・ A種 ※ B種	・	・	・	・	・	※ 1級 ・ 級 ・ A種 ※ B種	・	・	・	・	・	※ 1級 ・ 級 ・ A種 ※ B種	1. 路 盤	・ 厚さ: ※ 図面による (22. 3. 2) ・ 材料: ※ 再生クラッシャーラン RC-40 ・ クラッシャーラン C-40 ・ 図面による (22. 3. 3) 再生クラッシャーランは、原則としてかごしま認定リサイクル製品認定制度の認定を受けた製品を使用すること。												
		紙	織物	ビニル	化学繊維	無機質	※ 1級 ・ 級 ・ A種 ※ B種																																
		・	・	・	・	・	※ 1級 ・ 級 ・ A種 ※ B種																																
		・	・	・	・	・	※ 1級 ・ 級 ・ A種 ※ B種																																
		・ 普通合板						2. アスファルト舗装	・ 構成及び厚さ: ※ 図面による (22. 4. 2) ・ 再生アスファルトの種類 ・ 60～80 ・ 80～100 ・ () ・ シールコートの適用: ・ 行う ※ 行わない (22. 4. 3) ・ 表層の加熱アスファルトの混合物の種類: ・ () (22. 4. 4) ・ 切取り検査: ・ 行う ※ 行わない (22. 4. 6) ・ アスファルト混合物等の抽出試験: ・ 行う ※ 行わない																														
		・ 特殊合板							3. コンクリート舗装	・ 構成及び厚さ: ※ 図面による (22. 5. 2) ・ 寒冷期に施工する場合で早強セメントを用いる場合: ※ 用いない ・ 用いる (22. 5. 3) ・ 注入目地材料のタイプ: ※ 低弾性タイプ ・ () ・ 溶接金網の網目の形状寸法、鉄線の径: ※ 鉄線径 6mm 網目 150mm																													
										4. 透 水 性 アスファルト 舗 装	・ 構成及び厚さ: ※ 図面による (22. 7. 2) ・ 路盤材料: フィルター層は良質なシラスとする																												
									5. ブロック系舗装		・ 種類: ・ コンクリート平板舗装 ・ インターロッキングブロック舗装 ・ 鋪石舗装 (22. 8. 1) ・ 構成及び厚さ: ※ 図面による (22. 8. 2) ・ ブロックの敷設パターン: ※ 監督員の指示による ・ ()																												
								6. 砂 利 敷 き		・ 構成及び厚さ: ※ 図面による (22. 9. 2) ・ 種別: ・ A種 ・ B種 再生クラッシャーランは、原則としてかごしま認定リサイクル製品認定制度の認定を受けた製品を使用すること。																													
20 ユニット及びその他の工事	1. フリーアクセス フロア	床面から仕上げ材天端までの寸法 ※ 100 ・ 110 ・ (20. 2. 2) 表面仕上材 ※ カーペット ・ 帯電防止ビニル床タイル (・ 置敷タイプ ・ パネル一体タイプ) 床パネルの材質 ※ アルミ合金ダイカスト製 ・ スチール製又は複合材等 ・ 寸法 ※ 450角以上、600角以下 ・ 適用地震時水平震度(Ks) (1階及び地階) ※ 0.6以上 ・ (中間階) ※ 0.6以上、1.0以下 ・ (最上階) ※ 1.0以上 ・ 耐荷重性能 ※ 3,000N(製造所は評価名簿による) ・ 5,000N ・ 空調用孔あきパネル 枚数 () 材質 () コンセント開口 適用室 () コンセント部分以外にフリーアクセスフロア内からフロア面上へ配線取り出し開口を全パネルに有すること。 試験方法は、JIS A 1450(フリーアクセスフロア試験方法)による。 特記以外の仕様は製造所の仕様とする。																																					
		2. 可 動 間 仕 切 (既製間仕切) (20. 2. 3) <table><tr><td>構造形式</td><td>表面板及び厚さ</td><td>パネル仕上</td><td>パネル見込み</td></tr><tr><td>※ パネル式</td><td>鋼板厚さ(mm) ※ 0.5以上 ・</td><td>※ 焼付塗装(常備色程度) ・</td><td>※ 60以上 ・ 50</td></tr><tr><td>・ スタッド式</td><td>鋼板厚さ(mm) ※ 0.5以上 ・</td><td>※ 焼付塗装(常備色程度) ・</td><td>※ 30以上 ・</td></tr></table> スタッド アルミニウム製 40角 品質 JIS A 6512 又は 評価名簿による							構造形式	表面板及び厚さ	パネル仕上	パネル見込み	※ パネル式	鋼板厚さ(mm) ※ 0.5以上 ・	※ 焼付塗装(常備色程度) ・	※ 60以上 ・ 50	・ スタッド式	鋼板厚さ(mm) ※ 0.5以上 ・	※ 焼付塗装(常備色程度) ・	※ 30以上 ・																			
		構造形式	表面板及び厚さ	パネル仕上	パネル見込み																																		
		※ パネル式	鋼板厚さ(mm) ※ 0.5以上 ・	※ 焼付塗装(常備色程度) ・	※ 60以上 ・ 50																																		
		・ スタッド式	鋼板厚さ(mm) ※ 0.5以上 ・	※ 焼付塗装(常備色程度) ・	※ 30以上 ・																																		
		3. 移 動 間 仕 切 (スライディングウォール) (20. 2. 4) パネル操作方法 () パネル表面材の材質 (※ 鋼板 ・) パネル表面材仕上げ (・ 焼付け塗装 ・ 壁紙張り ・) パネル圧接装置操作方法 () 遮音性能 (・ 一般タイプ(36dB未満) ・ 遮音タイプ(36dB以上)) ハンガーレール 取付下地補強方法 ※ 20. 2. 4(3)(ウ) ・ 固定方法 (・ あと施工アンカー(材質: ・ 、寸法:) ・ 製造所 評価名簿による																																					
		4. ト イ レ ブ ー ス (20. 2. 5) 表面仕上げ材 ※ メラミン樹脂系化粧板同等品以上(標準色 アルミ製コーナーエッジ付き) ・ ポリエステル樹脂系化粧板 脚部 ※ 幅木タイプ ・ 足金物型 製造所 評価名簿による																																					
		○ 5. 手すり及びタラップ (20. 2. 6)(20. 2. 12) <table><tr><td>種 類</td><td>材 料 の 種 別</td><td>表面処理(14.2.1～3、表14.2.1～2による)</td></tr><tr><td rowspan="2">◎ 手すり</td><td>※ ステンレスSUS304</td><td>※ HL程度 ・ 鏡面程度 ・ #400</td></tr><tr><td>・ 鉄(亜鉛めっき)</td><td>(外部) ※ C種 ・ (内部) ・</td></tr><tr><td rowspan="2">◎ タラップ</td><td>◎ アルミ</td><td>(外部) ◎ BB-1種 (内部) ・</td></tr><tr><td>※ ステンレスSUS304</td><td>※ 研磨無し ・</td></tr><tr><td>・ 鉄(亜鉛めっき)</td><td>(内外部) ※ C種 ・</td><td></td></tr></table> ステンレスSUS430を使用する箇所 (図示)							種 類	材 料 の 種 別	表面処理(14.2.1～3、表14.2.1～2による)	◎ 手すり	※ ステンレスSUS304	※ HL程度 ・ 鏡面程度 ・ #400	・ 鉄(亜鉛めっき)	(外部) ※ C種 ・ (内部) ・	◎ タラップ	◎ アルミ	(外部) ◎ BB-1種 (内部) ・	※ ステンレスSUS304	※ 研磨無し ・	・ 鉄(亜鉛めっき)	(内外部) ※ C種 ・																
		種 類	材 料 の 種 別	表面処理(14.2.1～3、表14.2.1～2による)																																			
		◎ 手すり	※ ステンレスSUS304	※ HL程度 ・ 鏡面程度 ・ #400																																			
・ 鉄(亜鉛めっき)	(外部) ※ C種 ・ (内部) ・																																						
◎ タラップ	◎ アルミ	(外部) ◎ BB-1種 (内部) ・																																					
	※ ステンレスSUS304	※ 研磨無し ・																																					
・ 鉄(亜鉛めっき)	(内外部) ※ C種 ・																																						

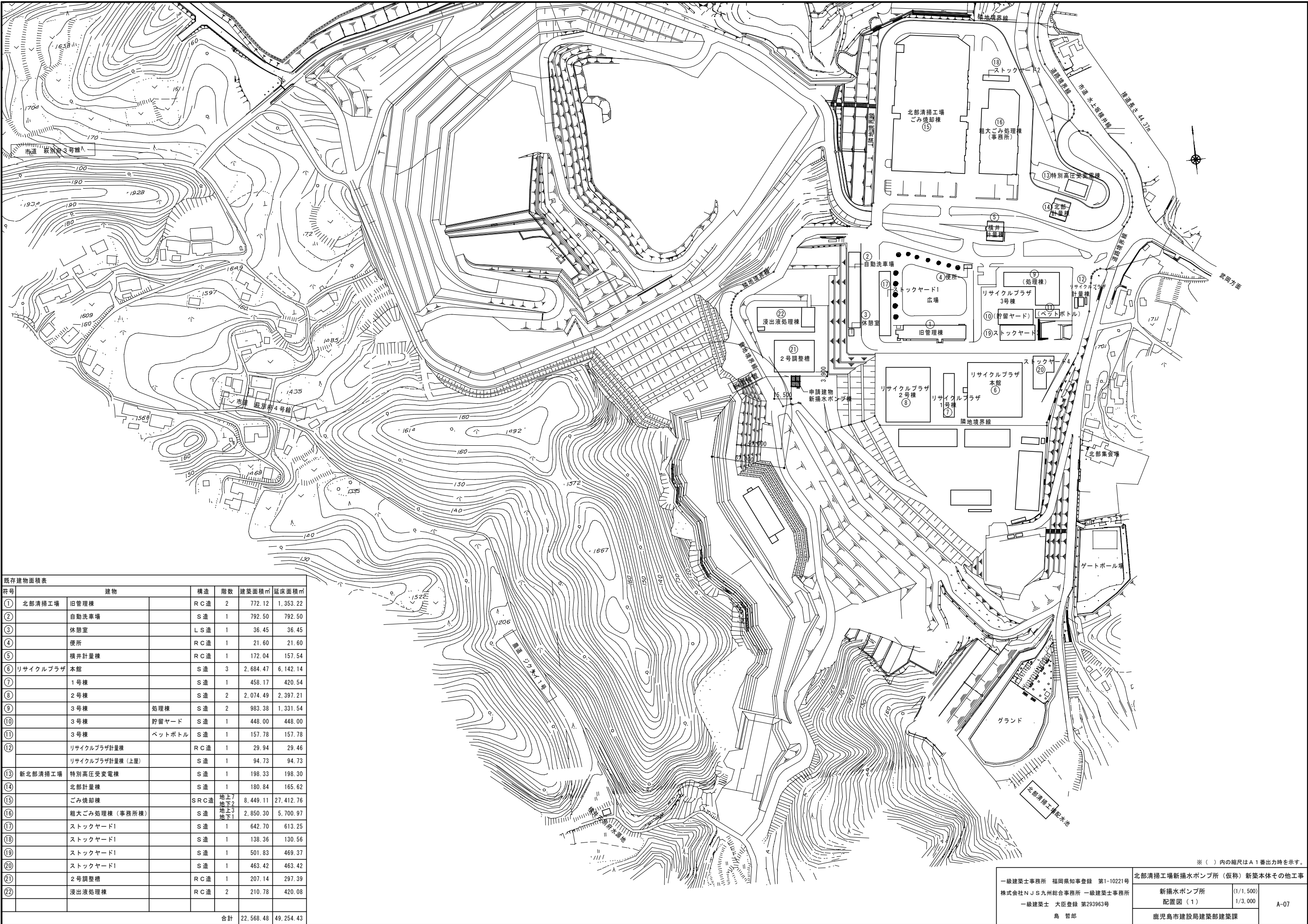


鹿児島市北部清掃工場

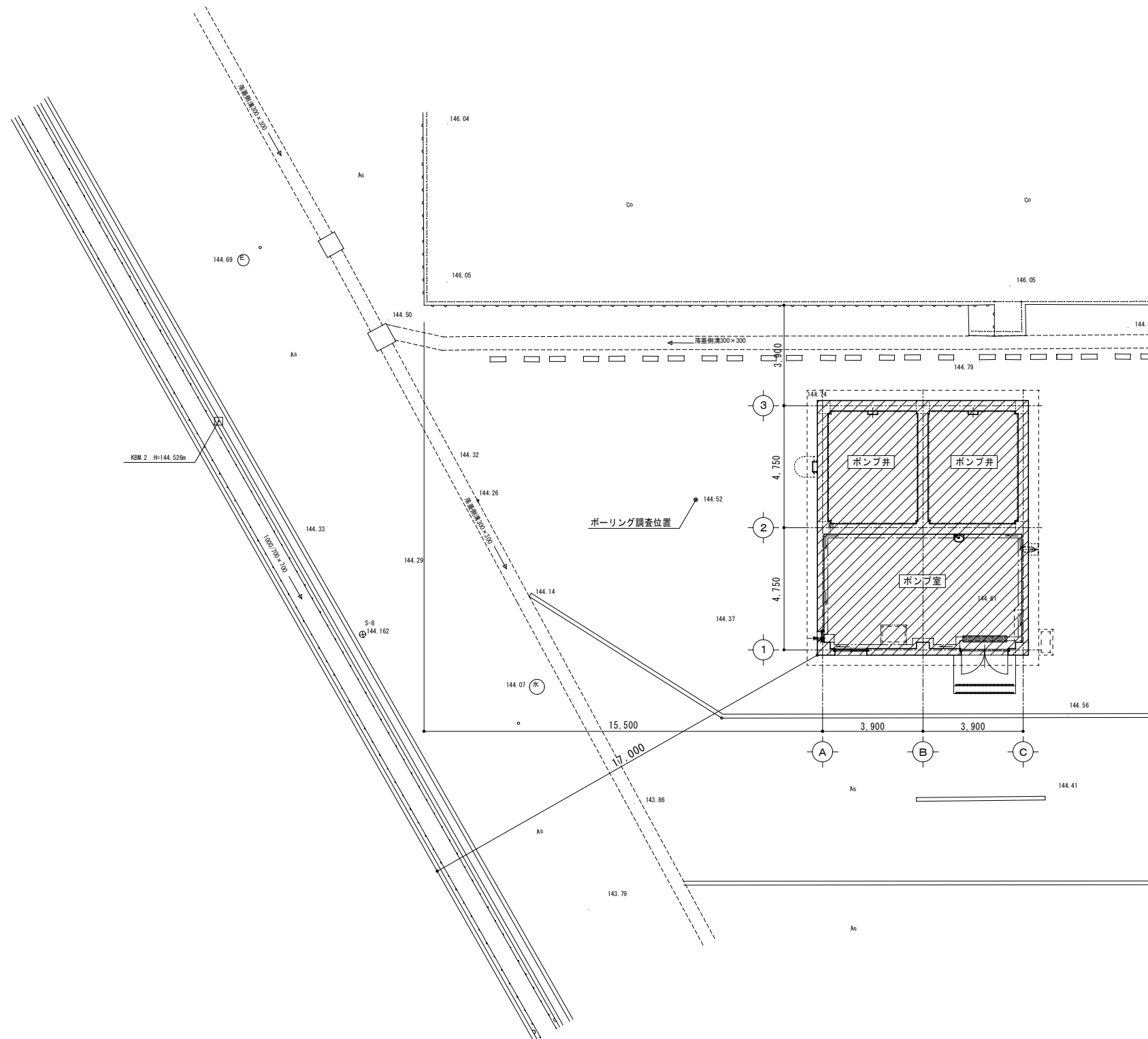
新揚水ポンプ棟

※（ ）内の縮尺はA 1番出力時を示す。

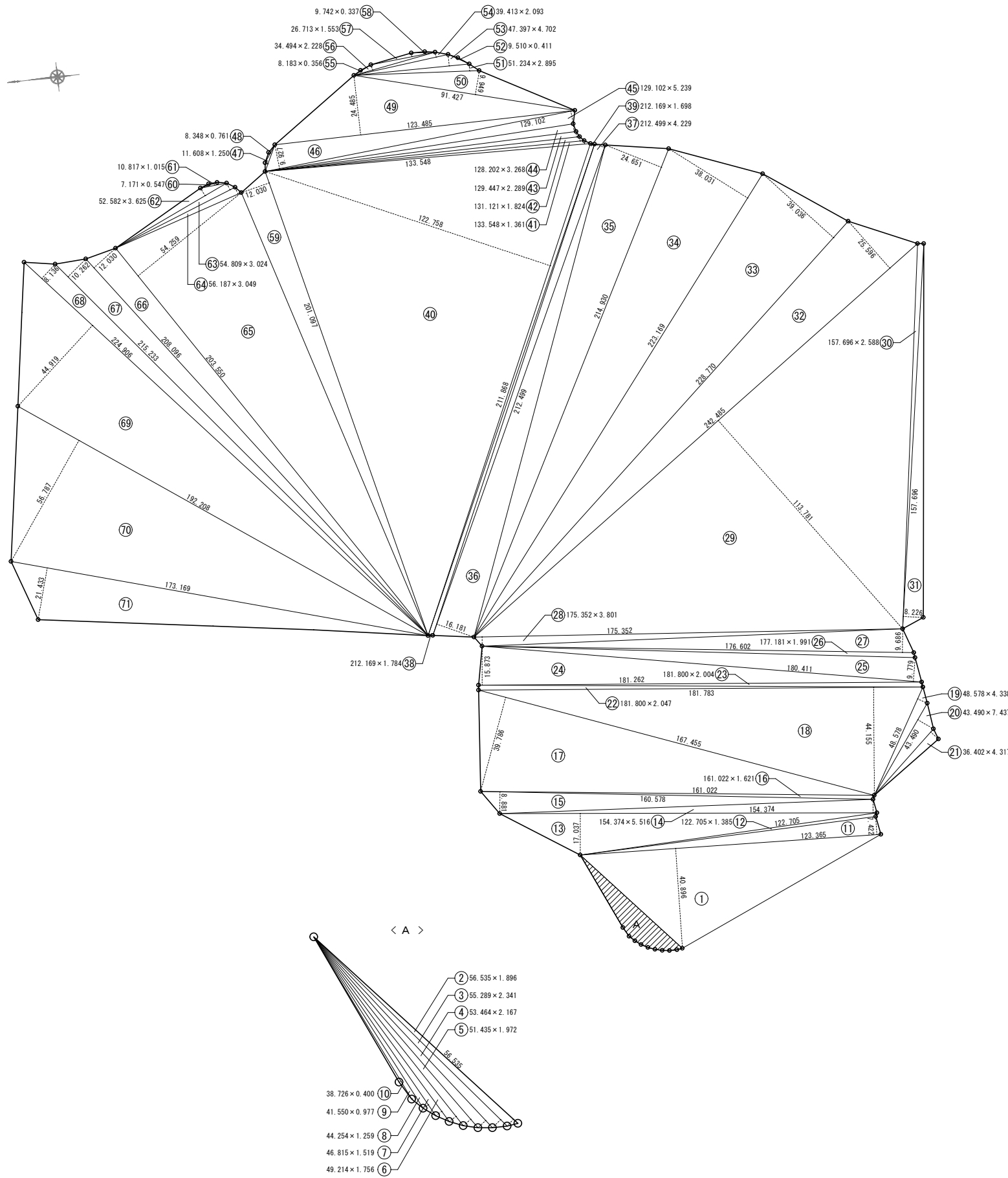
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10221号 株式会社NJS九州総合事務所 一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録 第293963号 島 哲郎			新揚水ポンプ所（仮称）新築本体その他工事	
			新揚水ポンプ所 附近見取り図	(1/10,000) 1/20,000
			鹿児島市建設局建築部建築課	
			A-06	



既存建物面積表							
符号	建物			構造	階数	建築面積㎡	延床面積㎡
①	北部清掃工場	旧管理棟		R C造	2	772.12	1,353.22
②		自動洗車場		S造	1	792.50	792.50
③		休憩室		L S造	1	36.45	36.45
④		便所		R C造	1	21.60	21.60
⑤		横井計量棟		R C造	1	172.04	157.54
⑥	リサイクルプラザ	本館		S造	3	2,684.47	6,142.14
⑦		1号棟		S造	1	458.17	420.54
⑧		2号棟		S造	2	2,074.49	2,397.21
⑨		3号棟	処理棟	S造	2	983.38	1,331.54
⑩		3号棟	貯留ヤード	S造	1	448.00	448.00
⑪		3号棟	ペットボトル	S造	1	157.78	157.78
⑫		リサイクルプラザ計量棟		R C造	1	29.94	29.46
		リサイクルプラザ計量棟（上屋）		S造	1	94.73	94.73
⑬	新北部清掃工場	特別高圧受変電棟		S造	1	198.33	198.30
⑭		北部計量棟		S造	1	180.84	165.62
⑮		ごみ焼却棟		SRC造	地上7 地下2	8,449.11	27,412.76
⑯		粗大ごみ処理棟（事務所棟）		S造	地上3 地下1	2,850.30	5,700.97
⑰		ストックヤード1		S造	1	642.70	613.25
⑱		ストックヤード1		S造	1	138.36	130.56
⑲		ストックヤード1		S造	1	501.83	469.37
⑳		ストックヤード1		S造	1	463.42	463.42
㉑		2号調整槽		R C造	1	207.14	297.39
㉒		浸出液処理棟		R C造	2	210.78	420.08



一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10221号 株式会社 N J S 九州総合事務所 一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録 第293963号 島 哲郎	北部清掃工場新揚水ポンプ所（仮称）新築本体その他工事		
	新揚水ポンプ所 配置図（2）	1/100	A-08
	鹿児島市建設局建築部建築課		



敷地面積 求積表					
記 号	計 算 式 (底辺×高さ)	敷地面積	記 号	計 算 式 (底辺×高さ)	敷地面積
①	123.365×40.896	5045.135040	④①	133.548×1.361	181.758828
②	56.535×1.896	107.190360	④②	131.121×1.824	239.164704
③	55.289×2.341	129.431549	④③	129.447×2.289	296.304183
④	53.464×2.167	115.856488	④④	128.202×3.268	418.964136
⑤	51.435×1.972	101.429820	④⑤	129.102×5.239	676.365378
⑥	49.214×1.756	86.419784	④⑥	129.102×9.927	1281.595554
⑦	46.815×1.519	71.111985	④⑦	11.608×1.250	14.510000
⑧	44.254×1.259	55.715786	④⑧	8.348×0.761	6.352828
⑨	41.550×0.977	40.594350	④⑨	123.485×24.485	3023.530225
⑩	38.726×0.400	15.490400	④⑩	91.427×9.949	909.607223
⑪	123.365×7.422	915.615030	⑤①	51.234×2.895	148.322430
⑫	122.705×1.385	169.946425	⑤②	9.510×0.411	3.908610
⑬	154.374×17.037	2630.069838	⑤③	47.397×4.702	222.860694
⑭	154.374×5.516	851.526984	⑤④	39.413×2.093	82.491409
⑮	160.578×8.881	1426.093218	⑤⑤	8.183×0.356	2.913148
⑯	161.022×1.621	261.016662	⑤⑥	34.494×2.228	76.852632
⑰	167.455×39.786	6662.364630	⑤⑦	26.713×1.553	41.485289
⑱	181.783×44.155	8026.628365	⑤⑧	9.742×0.337	3.283054
⑲	48.578×4.338	210.731364	⑤⑨	201.097×12.030	2419.196910
⑳	43.490×7.437	323.435130	⑥⑩	7.171×0.547	3.922537
㉑	36.402×4.317	157.147434	⑥⑪	10.817×1.015	10.979255
㉒	181.800×2.047	372.144600	⑥⑫	52.582×3.625	190.609750
㉓	181.800×2.004	364.327200	⑥⑬	54.809×3.024	165.742416
㉔	181.262×15.873	2877.171726	⑥⑭	56.187×3.049	171.314163
㉕	180.411×9.779	1764.239169	⑥⑮	203.550×54.259	11044.419450
㉖	177.181×1.991	352.767371	⑥⑯	208.096×12.030	2503.394880
㉗	176.602×9.686	1710.566972	⑥⑰	215.233×10.262	2208.721046
㉘	175.352×3.801	666.512952	⑥⑱	224.906×8.136	1829.835216
㉙	242.485×113.781	27590.185785	⑥⑲	224.906×44.919	10102.552614
㉚	157.696×2.588	408.117248	⑦⑩	192.208×56.787	10914.915696
㉛	157.696×8.226	1297.207296	⑦⑪	173.169×21.433	3711.531177
㉜	242.485×25.596	6206.646060		小 計	177720.456837
㉝	228.770×39.036	8930.265720		177720.456837×1/2	88860.228419
㉞	223.169×38.031	8487.340239			(88860.228m2)
㉟	214.930×24.651	5298.239430			
㊱	212.499×16.181	3438.446319			
㊲	212.499×4.229	898.658271			
㊳	212.169×1.784	378.509496			
㊴	212.169×1.698	360.262962			
㊵	211.868×122.758	26008.491944			

※ () 内の縮尺はA 1 番出力時を示す。

一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10221号		北部清掃工場新揚水ポンプ所 (仮称) 新築本体その他工事	
株式会社 N J S 九州総合事務所 一級建築士事務所		新揚水ポンプ所	(1/1,000)
一級建築士 大臣登録 第293963号		敷地求積図	1/2,000
島 哲郎		鹿児島市建設局建築部建築課	A-09

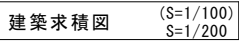
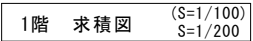
ポ ン プ 棟 仕 上 表									
共 通 事 項		略 号		外部付属物及び詳細番号			内部付属物及び詳細番号		
1. 外部位上表及び内、外部位属物の適用分類、詳細番号は、○印のついたものを適用する。	C	コンクリート下地	複層塗材 (E)	合成樹脂エマルジョン系複層仕上塗材	○ 屋上点検口	・ 5-21-1	・ くつ洗い流し	・ 8-22-1	・ 8-22-2
2. 仕上表に記載の詳細番号のうち、(例) 1-0-2-3は建築工事標準詳細図 (国土交通省大臣官房 官庁舎繕部監修) を示す。	CB	コンクリートブロック下地	複層塗材 (CE)	ポリマーセメント系複層仕上塗材	・ 屋上屋根貫通部	・ 5-22-1	・ グレーチング	・ A-04-1・2・3・4	
	W	木造下地	複層塗材 (RE)	反応硬化化成樹脂エマルジョン系複層仕上塗材 (上塗材：フッ素樹脂)	・ クーリングタワー基礎	・ 5-22-2	・ 5-22-3	・ A・B・C・D = ()	
	S	軽量鉄骨下地			テレビアンテナ基礎			・ 電気用ハンドホール蓋	・ 図 示
3. 特記以外の木、鉄部の塗装はSOPとする。但し、和室廻りは除く。	GB-R	せつこうボード	複層塗材 (Si)	けい酸系系複層仕上塗材	・ 屋上換気塔	・ 5-21-2	・ 図 示	・ 図 示	
	GB-NC (N)	不燃複層せつこうボード (化粧無し：下地張り用)	CL	クリアラッカー塗り	・ 煙 突	・ 図 示	・ G-02-1	・ 図 示	
4. 付属物のうち、室名札、床点検口、掲示板、家内板、ピクトグラム、階段表示板等は、平面図による。	GB-NC (NT)	不燃複層せつこうボード (化粧有り：トラバーチン模様)	FE	フタル酸樹脂エナメル塗り	○ タラップ	・ 8-31-2		・ 図 示	
	GB-D (W)	木目化粧せつこうボード	AE	アクリル樹脂エナメル塗り	○ 背もたれ付	・ 8-31-3		○ 図 示	・ B-01
	GB-S	シージングせつこうボード	DP (UE)	2液形ポリウレタンエナメル塗り	・ と い	・ 5-31. 32. 33		・ 図 示	
	GB-F	強化せつこうボード	DP (ASE)	アクリルシリコン樹脂エナメル塗り	・ ルーフドレン	・ 5-32-1		・ 図 示	
5. 付属物のうち、カーテンボックス、ブラインドボックス、ブラインド、天井点検口等は、天井伏図による。	ケイカル板	けい酸カルシウム板 (タイプ2)	DP (FUE)	常温乾燥成形ふっ素樹脂エナメル塗り		・ 5-33-1		・ 図 示	
	DR	ロックウール化粧吸音板 トラバーチン模様	EP-G	つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り	・ トップライト	・ E-02-3	・ 図 示	・ 図 示	
	DR (凹凸)	ロックウール化粧吸音板 凹凸模様	EP	合成樹脂エマルジョンペイント塗り	・ EX P. J 金物	・ 既製品	・ S-13	・ 図 示	
	DR (軒天)	ロックウール化粧吸音板 軒天井用：トラバーチン模様	EP-M	多彩模様塗料塗り	・ 笠木兼用避雷導体	・ E-01-1		・ 図 示	
	DR (軒天凹凸)	ロックウール化粧吸音板 軒天井用：凹凸模様	EP-T	合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り	○ 手すり	・ アルミ	・ H-12-1	・ 図 示	
	P F 板	押出法ポリスチレンフォーム保温材	UC	ウレタン樹脂ウニス塗り		・ H-13-1		・ 図 示	
	木毛板	木質系セメント板	OS	オイルステイン塗り		・ H-14-1		・ 図 示	
	T B	テラゾーブロック	SOP	合成樹脂調合ペイント塗り	・ ステンレス (図示)			・ 図 示	
	外装薄塗材 (E)	外装合成樹脂エマルジョン系薄付仕上げ上塗材	GP	グラファイトペイント塗り	・ スチール (図示)			・ 図 示	
	内装薄塗材 (Si)	内装けい酸系系薄付仕上げ上塗材	AC	アクリル樹脂ウニス塗り (アクリル樹脂クリア塗り)	・ 旗 竿			・ 図 示	
	内装薄塗材 (E)	内装合成樹脂エマルジョン系薄付仕上げ上塗材	NAD	アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り	・ くつふきマット	・ H-21-1・2・3		・ 図 示	
10. 直接地業工事に接する内部床のコンクリート下地には、防湿層としてポリエチレンフィルム厚0.15の敷込みを行う。ただし、床仕上げがビニル床タイル、ビニル床シート及び合成樹脂塗床、床用塗料の場合とする。	C (B)	コンクリート下地 (打放シB)	LE	ラッカーエナメル塗り		・ 8-21-1・2・3		・ 図 示	
	C (C)	コンクリート下地 (打放シC)	WP	木材保護塗料塗り				・ 図 示	
	M	モルタル						・ 図 示	
	軽量吹付	軽量骨材仕上塗材						・ 図 示	
11. 打放し仕上げの出隅部分は、面取りを行う。	ECP	押出成形セメント板下地						・ 図 示	

ポーチ・床	腰	外 壁	屋 根		パラペット	庇	バルコニー	ハンドホール	備 考
			下地・防水層	押え・仕上					
床：C直均し 段鼻：磁器質ノンスリップタイル 150×60（垂れなし）		C（B）	【ポンプ井屋根】 下 地：C直均し		笠木：C直均し	天端：C直均し 塗膜防水（X-2） 裏：C（C）の上 外装薄塗材（E） 鼻：C（B）の上 外装薄塗材（E）			アルミ手摺 H=1100 ステンレス蓋（通気口付き）開口800×800 ステンレスタラップ（背もたれ付き）
		【ポンプ室屋根】 下 地：C直均し 防水層：塗膜防水（X-2）							

階	室名	床			幅 木				腰 壁				壁					天 井						備 考
		下地	仕 上	詳細番号	下地	仕 上	高さ	詳細番号	下地	仕 上	高さ	詳細番号	下地	仕 上	詳細番号	柱型仕上	詳細番号	下地	仕 上	高さ	詳細番号	梁型仕上	詳細番号	
1 F	ポンプ井	無防C t=600 ~350	水性 [※] リチレン樹脂塗装 JWWA K 143適合	1-01-3									C	水性 [※] リチレン樹脂塗装 JWWA K 143適合	2-02-7	壁と同じ	2-02-7	C	水性 [※] リチレン樹脂塗装 JWWA K 143適合	直天	3-01-11	天井と同じ		
	ポンプ室	無防C t=300	C直均し	1-01-3									C	C(B) 水槽側壁 C(B) 塗膜防水 (X-2)	2-02-7	壁と同じ	2-02-7	C	木毛セメント板打込み t=25 外装薄塗材 E	直天	3-01-10			

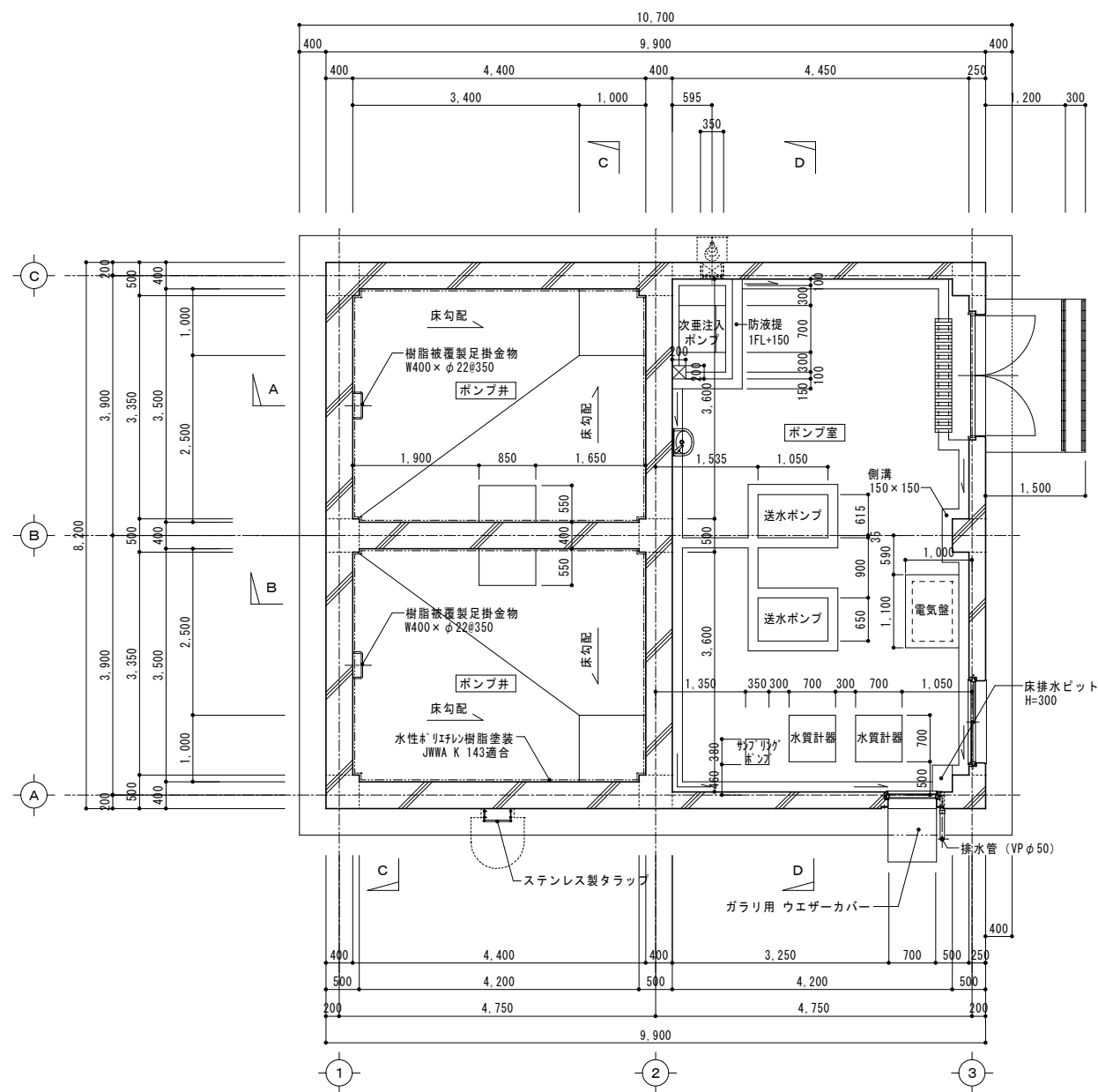
特記なき限り										工事区分略号
材 料 名	種 別	壁 (m/m)	天井 (m/m)	備 考	材 料 名	種 別	壁 (m/m)	天井 (m/m)	備 考	
GB-R	仕上	12.5	12.5	NM-8619	けい酸カルシウム板 (タイプ2)		12	10	NM-8578	
	下地	12.5						25	25	
GB-NC (N)	下地		9.5	NM-8613	壁 紙					
GB-NC (NT)			9.5	又は同等	グラスウール吸音板 (ｶﾞﾗｽｳｰﾙ吸音板)	仕上	25	25	NM-8606	
GB (W)			12.5	NM-8614						
DR			12	NM-8599						

<	>	C	:	土木工事
<	>	AM	:	建築機械設備工事
<	>	AE	:	建築電気設備工事
<	>	PM	:	プラント機械設備工事
<	>	PE	:	プラント電気設備工事

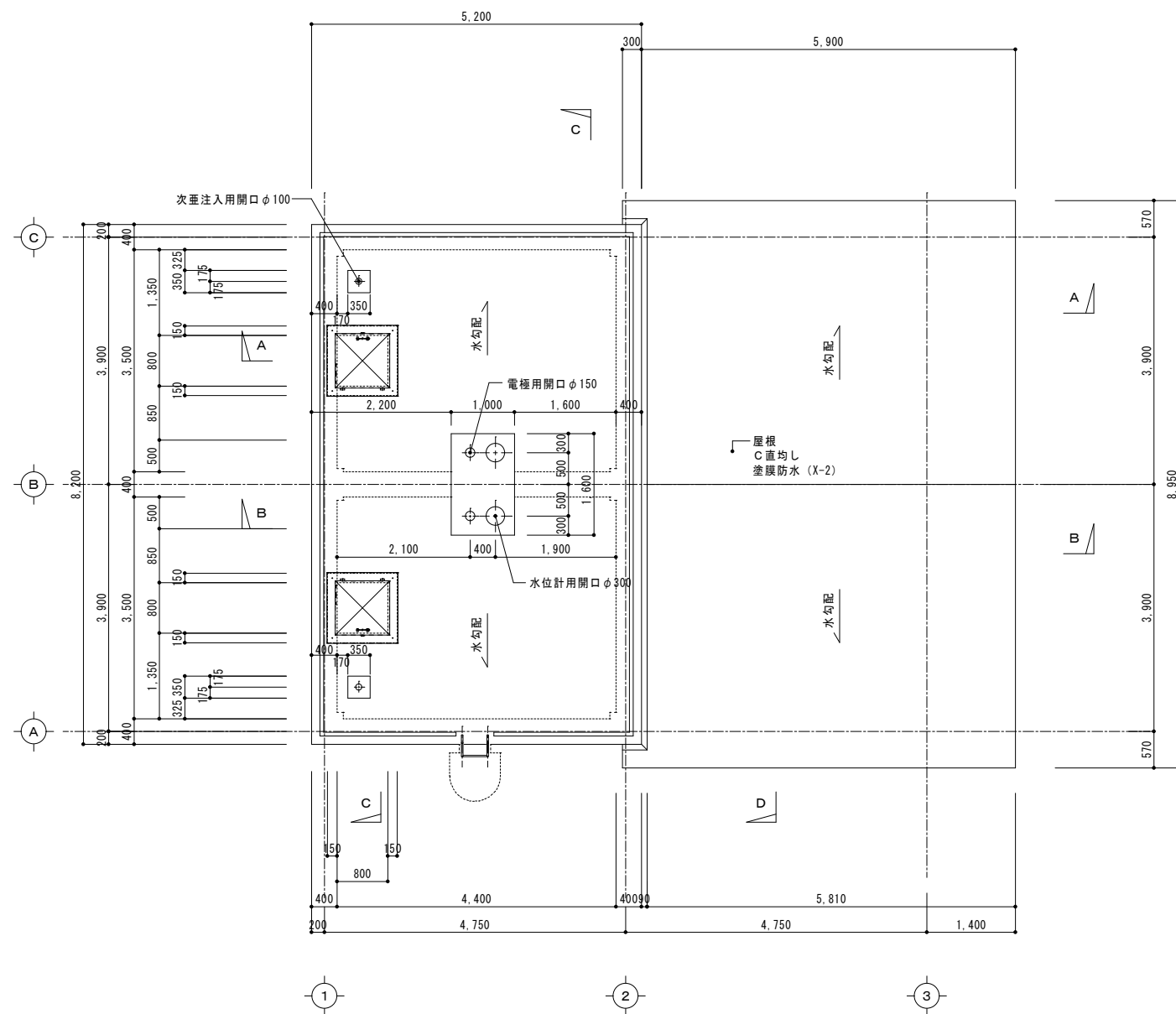
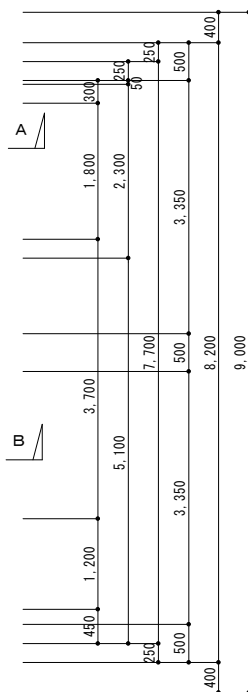


建築面積		
①	7.800 × 4.800	37.44
②	7.950 × 4.775	37.96125
③	7.950 × 0.325	2.58375
合計		77.985
建築面積		(77.98㎡)

一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10221号 株式会社 J S 九州総合事務所 一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録 第293963号 島 哲郎	北部清掃工場新揚水ポンプ所（仮称）新築本体その他工事			A-10
	新揚水ポンプ所 仕上表・求積図	(1/100) 1/200		
	鹿児島市建設局建築部建築課			



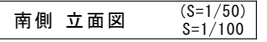
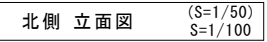
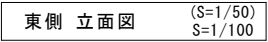
1階 平面図 (S=1/50)
S=1/100



屋根伏図 (S=1/50)
S=1/100

※ () 内の縮尺はA 1番出力時を示す。

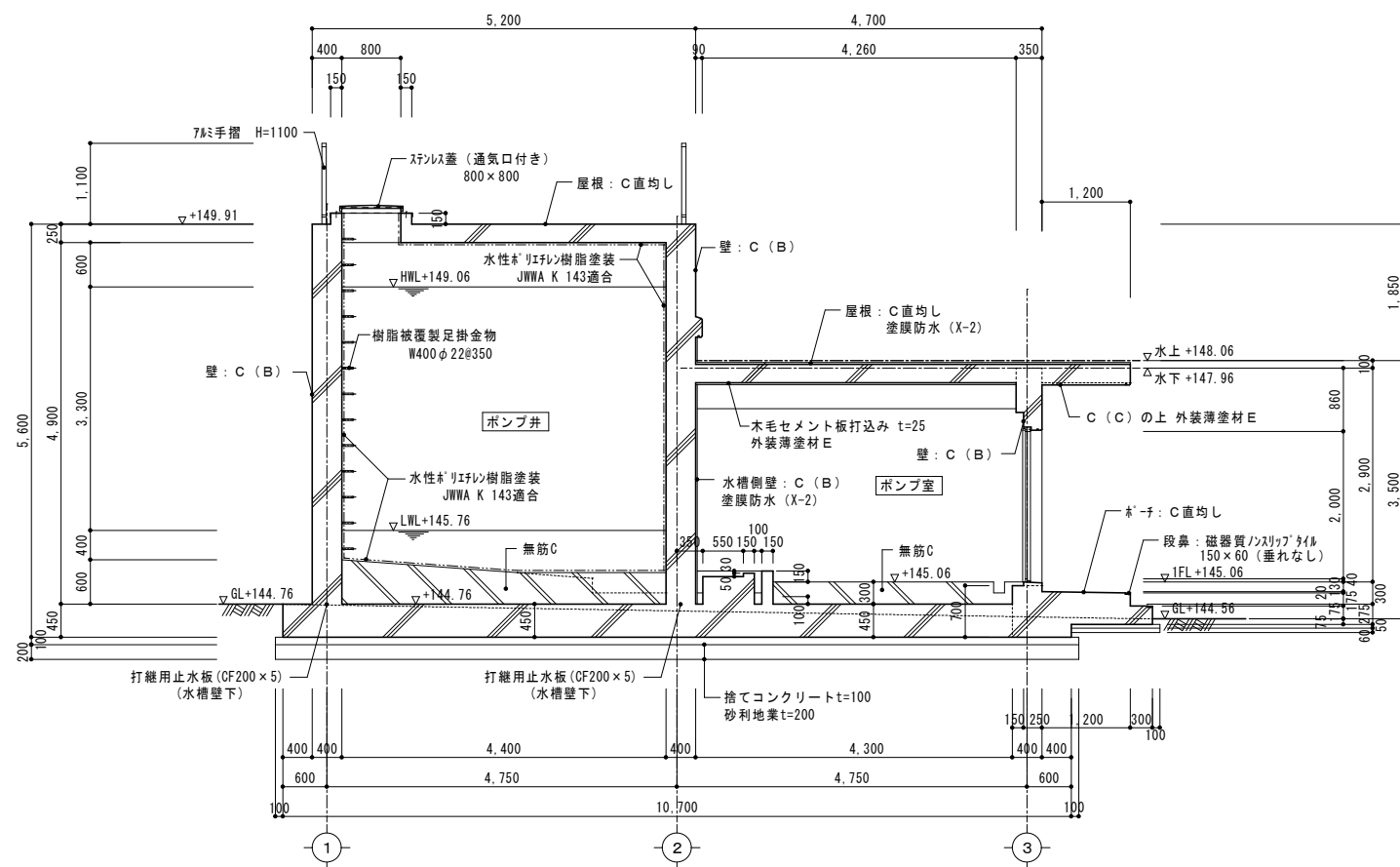
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10221号		北部清掃工場新揚水ポンプ所 (仮称) 新築本体その他工事	
株式会社 N J S 九州総合事務所 一級建築士事務所		新揚水ポンプ所	(1/50)
一級建築士 大臣登録 第293963号		平面図	1/100
島 哲郎		鹿児島市建設局建築部建築課	A-11



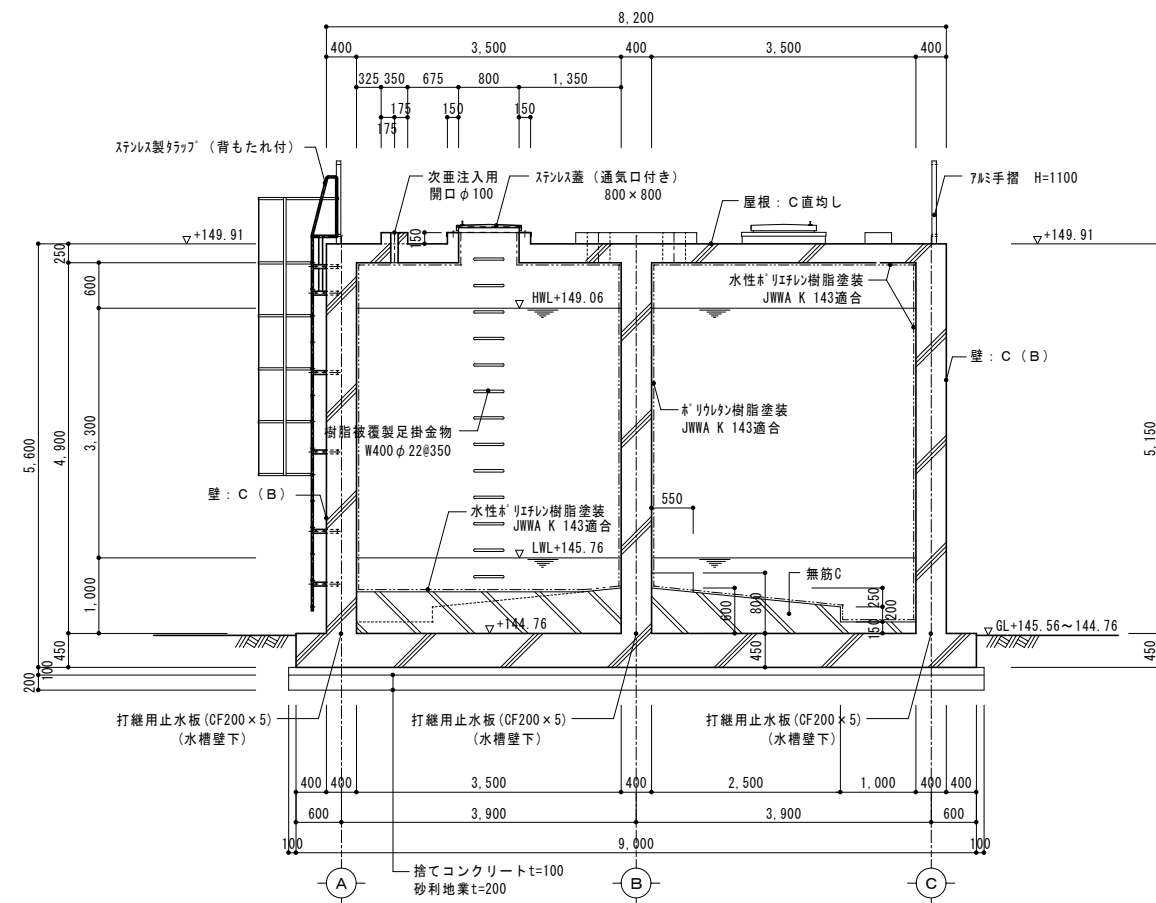
外部仕上 凡例	
(a)	C直均し 塗膜防水 (X-2)
(b)	C直均し
(c)	C (B)
(d)	C (C) の上 外装薄塗材 E
(e)	アルミ手摺 H=1100
(f)	ステンレス製タラップ (背もたれ付)

※ () 内の縮尺はA 1 番出力時を示す。

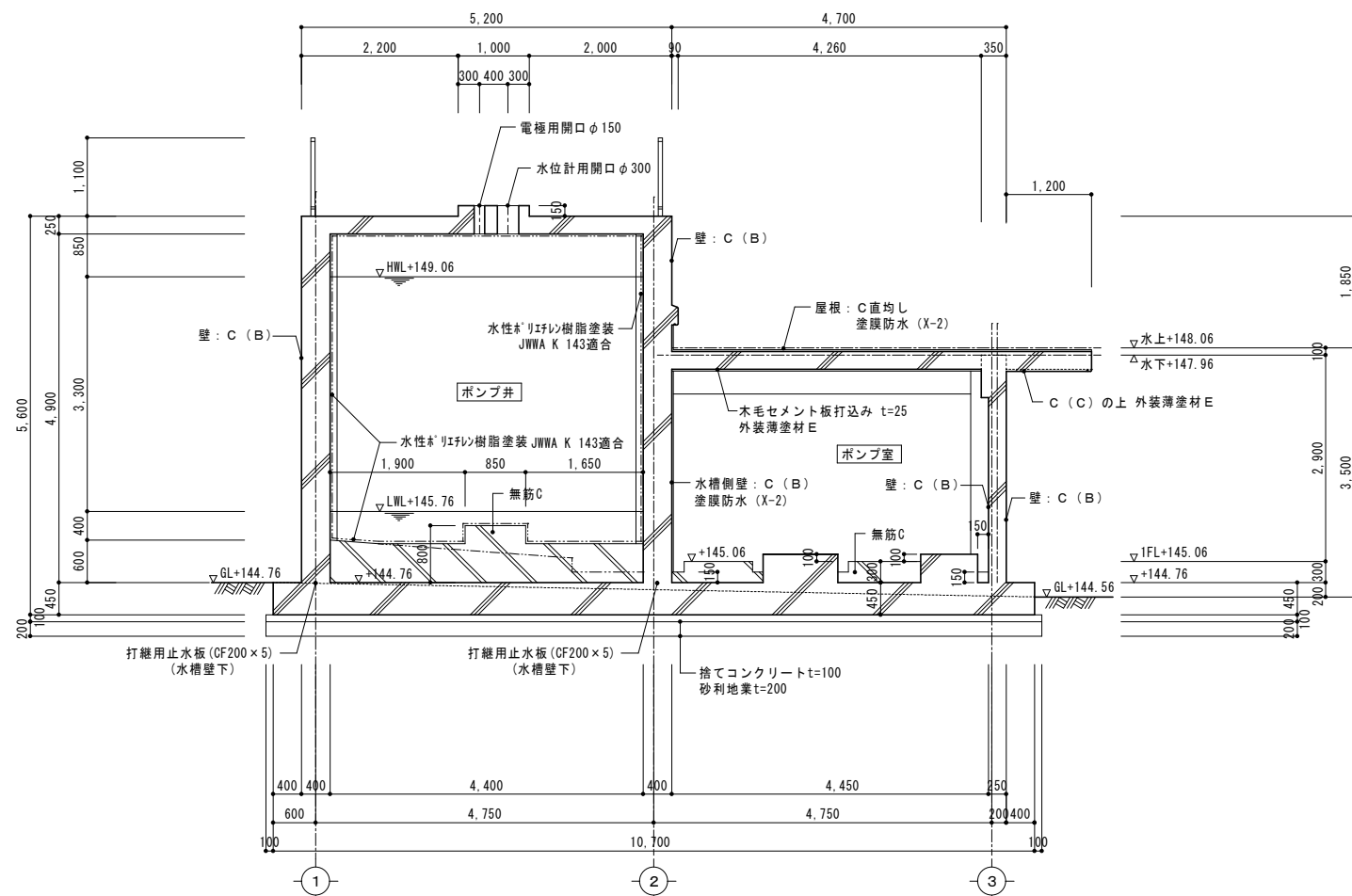
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10221号 株式会社NJS九州総合事務所 一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録 第293963号 島 哲郎	北部清掃工場新揚水ポンプ所（仮称）新築本体その他工事		
	新揚水ポンプ所 立面図	(1/50) 1/100	A-12
	鹿児島市建設局建築部建築課		



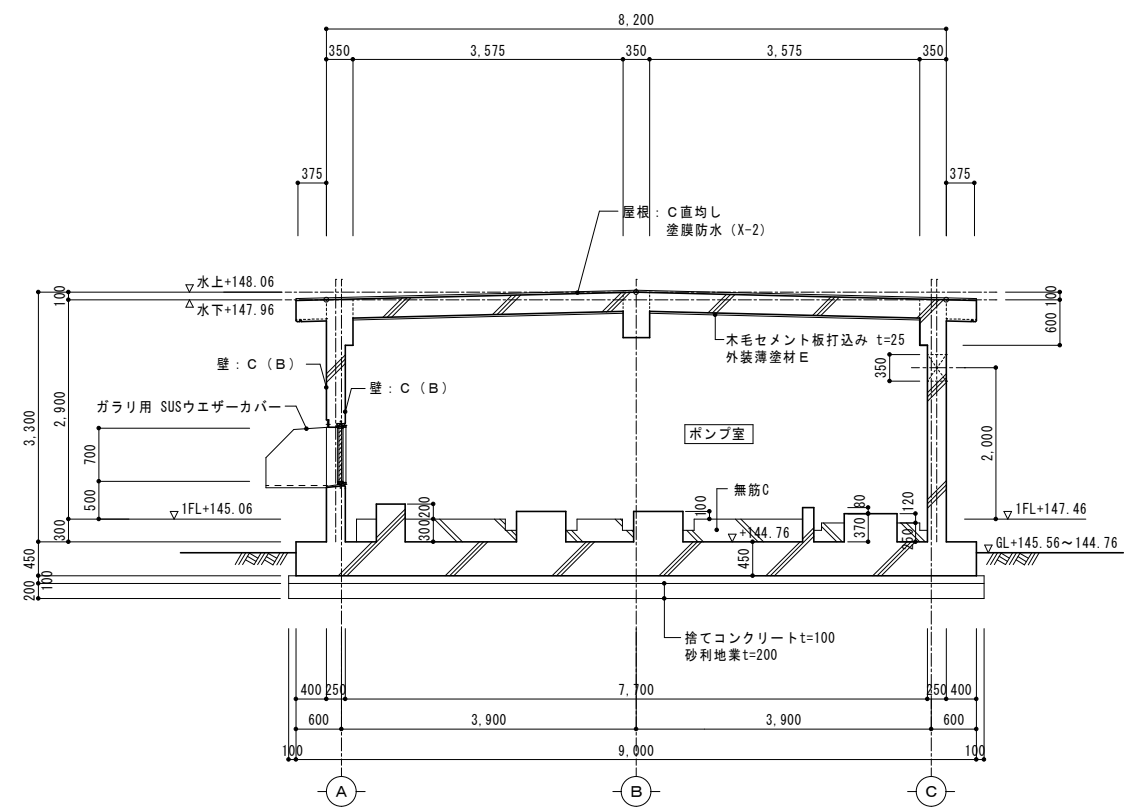
A-A断面図 (S=1/50)
S=1/100



C-C断面図 (S=1/50)
S=1/100



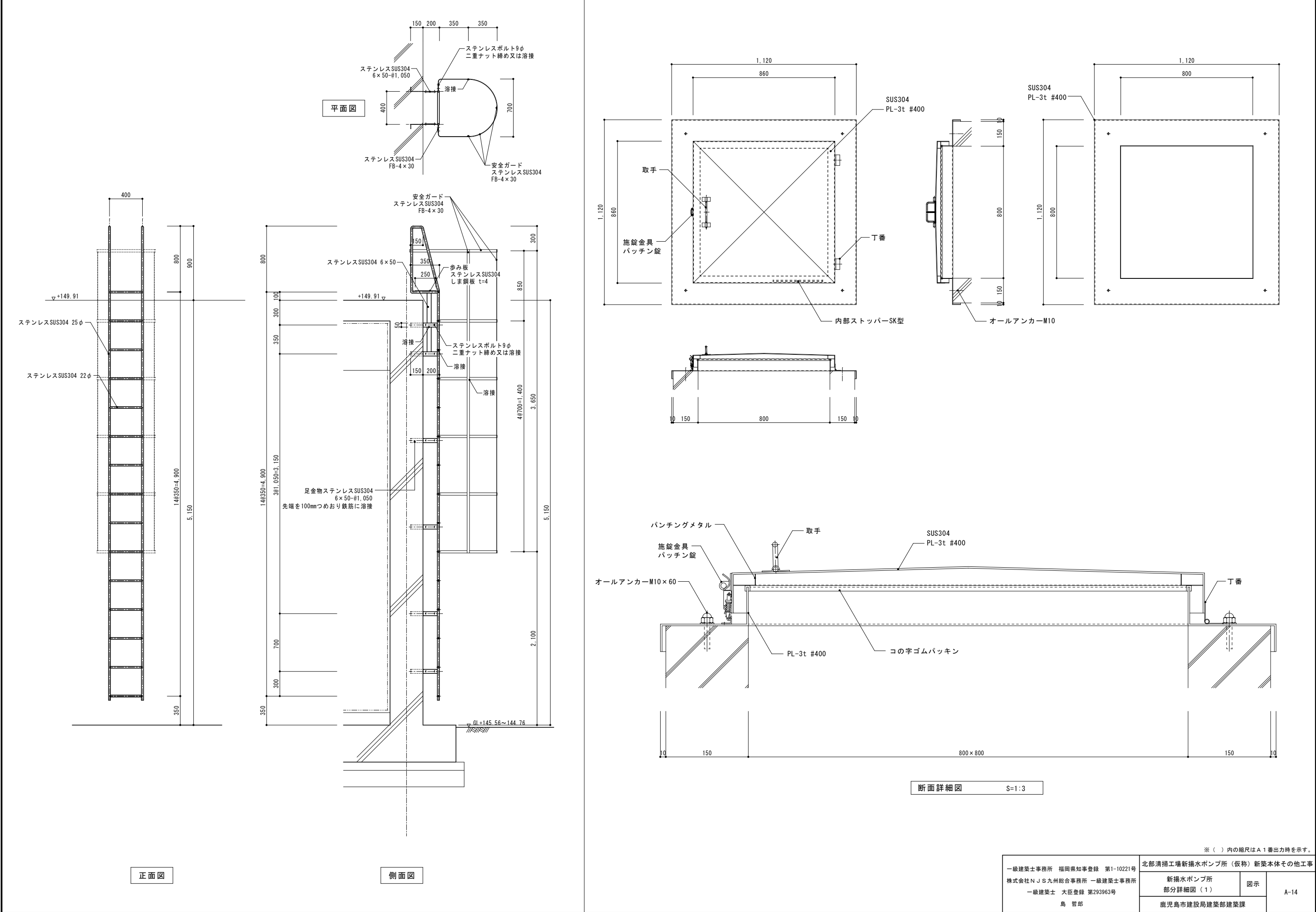
B-B断面図 (S=1/50)
S=1/100

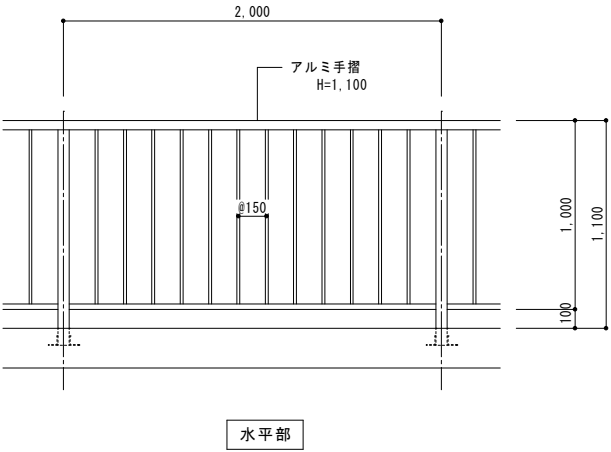


D-D断面図 (S=1/50)
S=1/100

※ () 内の縮尺はA1番出力時を示す。

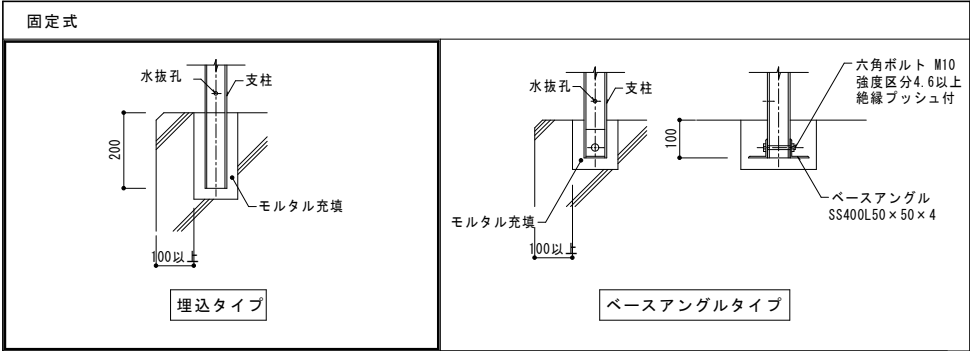
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10221号 株式会社 NJS九州総合事務所 一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録 第293963号 島 哲郎		北部清掃工場新揚水ポンプ所 (仮称) 新築本体その他工事 新揚水ポンプ所 断面図 鹿児島市建設局建築部建築課		(1/50) 1/100 A-13
---	--	---	--	-------------------------





水平部

基礎詳細図



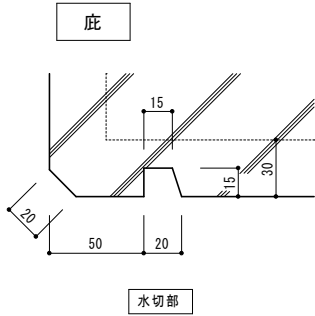
設計条件

部材名	荷重方向	設計条件	
		設計耐力	1.5 k N/m
笠木	水平方向	たわみ量	500 N /mで1/500以下かつ5mm以下 局部荷重500Nで1/100以下
		設計耐力	1.0 k N/m
	垂直方向	たわみ量	500 N /mで1/500以下かつ5mm以下 局部荷重500Nで1/100以下
		設計耐力	2.7 k Nまたは3.0 k N
支柱	水平方向	たわみ量	局部荷重500Nで1/100以下

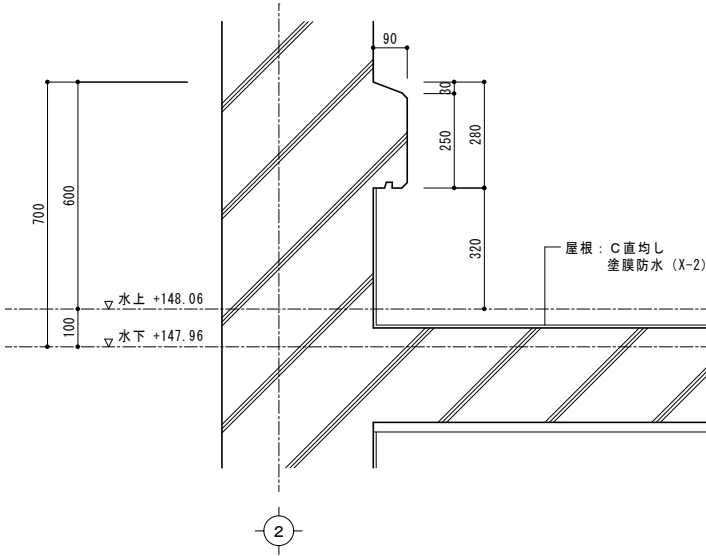
形状		単位 (mm)				
	支柱間隔	笠 木	バラストー 中心間隔	高 さ	下部の すき間	控 柱
廊下・バルコニー	1,800 又は2,000	—	φ150	1,100	100	—
屋 上	1,800 又は2,000	—	φ150	1,100	100	φ4000程度
階 段	1,500程度	—	φ125程度	900	50	—
部材厚	3mm以上	3mm以上	—	—	—	3mm以上
1) 現場取付作業以外の組立などは工場製作とする。 伸縮目地は必要に応じて設ける。						
2) 切断面の処置はバリ等を適切な方法で除去する。 端部の小口は同材にてふたをして仕上げる。						
3) 設計耐力及びたわみ量は、工場にて試験を行い監督職員に報告する。 なお、公的試験場の試験成績書をもって、これに代える事が出来る。						

仕様

- 1) 材種は、JIS H4100によるA6063S-T5またはA6063S-T6またはA6061S-T6とし
押し出し型材を使用する。
- 2) 表面処理は、公共建築工事標準仕様書（建築工事編）14章2節〔表面処理〕のBB-1種とする。
- 3) 支柱、笠木、控柱には補強材を使用しない。その他の部位に使用する補強材は
JIS G3101によるSS400とし垂鉛めっきはJIS H8610の
5級（クロメート被膜はJIS H8625のCW2C）以上とする。
- 4) 小ネジの類はステンレス製（SUS304、SUS305J1またはSUSXM7）とする。

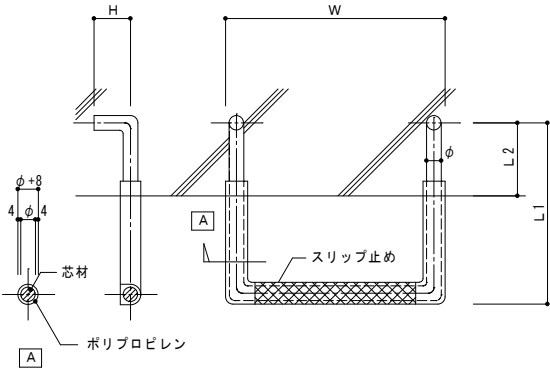
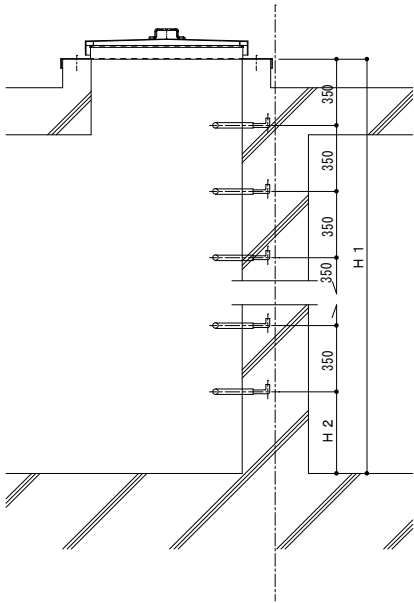


屋上取合い 詳細図 (S=1/10) S=1/20



足掛金物詳細図

下水道施設標準図(詳細)令和2年度 H-15-1参照



足掛金物選定表					
品種	W	L 1	L 2	H	φ
ポリプロ ピレン	300	250	100	50	19
	400	300	150	50	22

一般事項

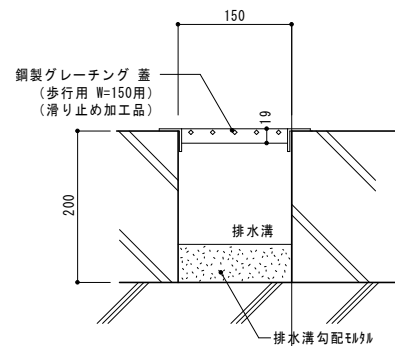
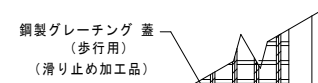
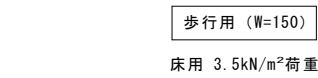
- 1 ポリプロピレン製の形状寸法は製造メーカーの
仕様による。
- 2 芯材の材質は、SWCH12R、SUS304又はSUS403とする。
- 3 壁に100mm以上埋め込む。
- 4 足掛り部のすべり止め加工は150mm以上とする。

※ H 2 の寸法は350程度とする。

記号	W 1	H 1	H 2	本数	箇所数	足掛金物総数	備考
T-1	370	4700	500	13	2	26	

※（ ）内の縮尺はA 1 番出力時を示す。

一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10221号 株式会社 N J S 九州総合事務所 一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録 第293963号 島 哲郎		北部清掃工場新揚水ポンプ所（仮称）新築本体その他工事 新揚水ポンプ所 部分詳細図（2） 鹿児島市建設局建築部建築課		図示	A-15
--	--	--	--	----	------

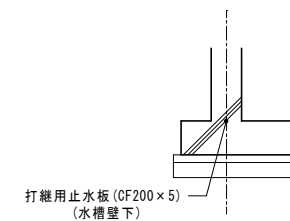
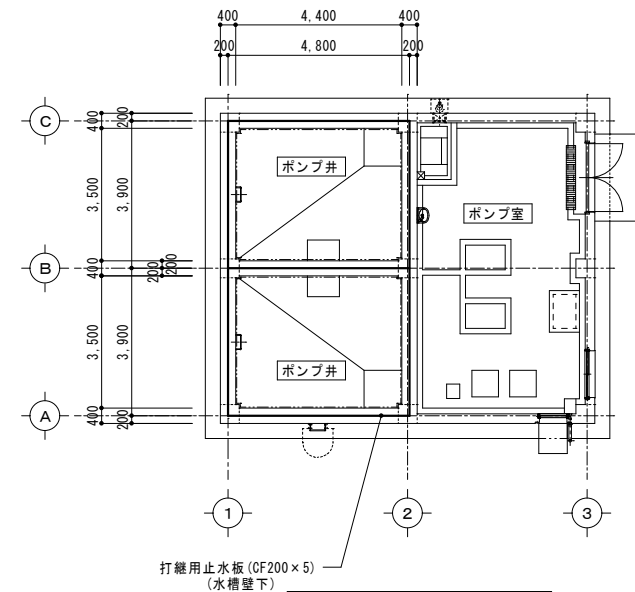


記号	取付場所	W	L	材質	個数	荷重条件	備考
G-1	ポンプ室	150	1,700	SS400	1	3.5kN/m ²	建築工事

一般事項

- | | |
|---|---|
| 1 | グレーチングは、SS400電気圧接式溶接構造とし表面処理はJIS H 8641の2種SS56溶接重鉛メッキを行う。 |
| 2 | 受枠は、SS400とし、アンカー筋(φ13mm)で躯体の鉄筋に溶接して固着する。 |
| 3 | 固定金は、角部については角を構成する辺に1点ずつ、辺については500mm以内の等間隔とする。 |
| 4 | 設計荷重は、床用3.5KN/m ² 以上車両用17荷重以上とする。 |
| 5 | 許容たわみ量は、床用1/300以下車両用1/500以下とする。 |
| 6 | 受枠・受梁は塗の材質・仕上げと同様とする。アンカーは受枠と同素材とする。 |

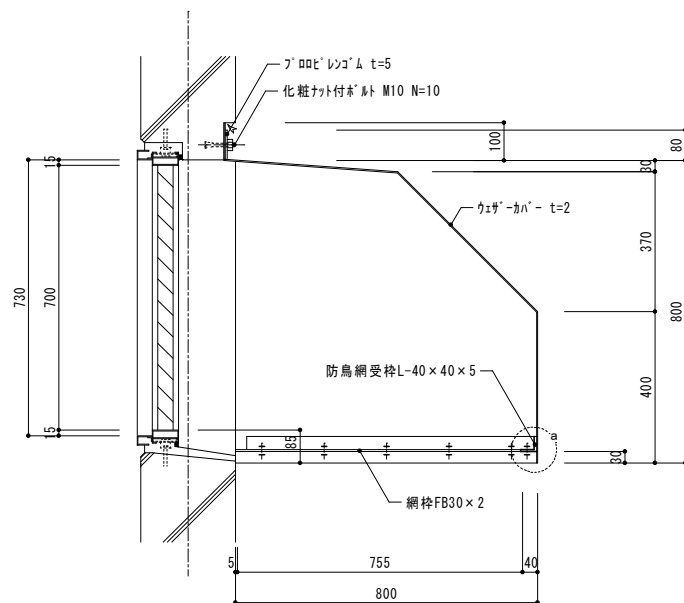
止水板 詳細図 (S=1/100・50) S=1/200・100



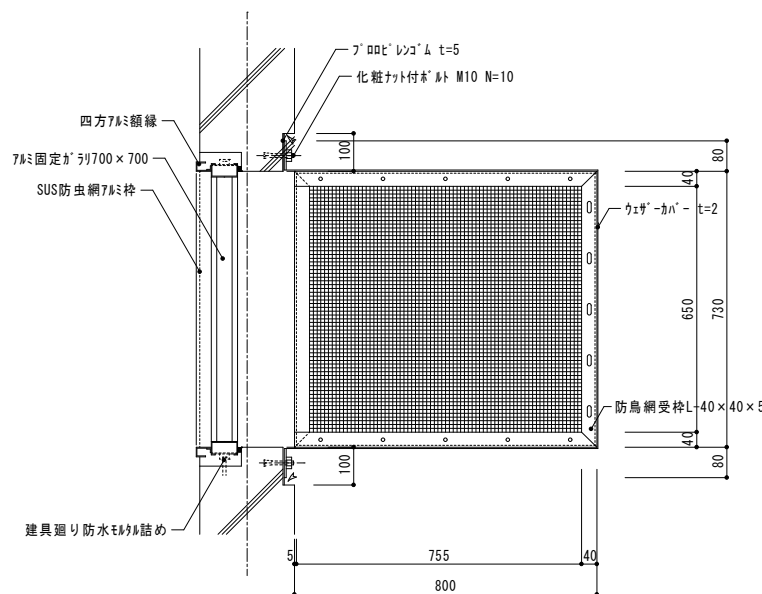
断面図

S=1/50

固定アルミ・ウエサ⁺-カハ⁺-廻り詳細図 (S=1/10) S=1/20

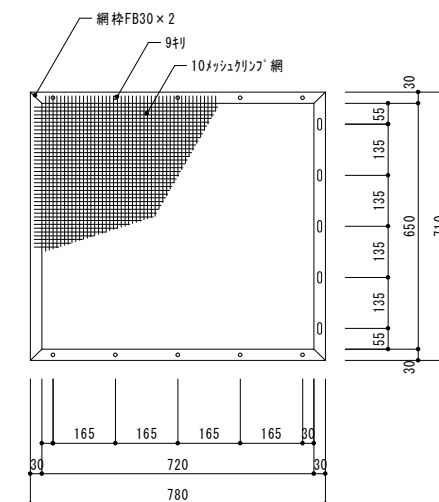


固定アルミ・ウエザ-カバ-廻り詳細図

$$S =$$


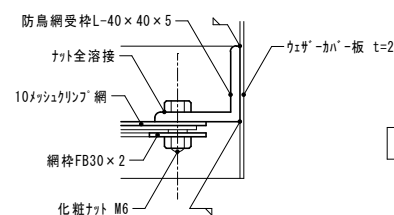
固定アルミ・ウエザ-カバ-廻り平面詳細図

S=1:10



防鳥網詳細図 S=1:10

1 S=1:10



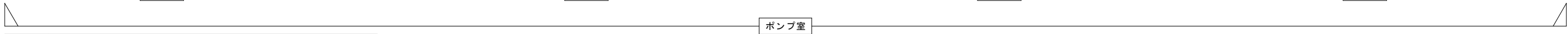
a 部詳細図

S=1:2

※特記なき限り材質はSUS316とし仕上げは 2B程度とする。

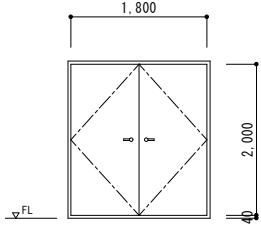
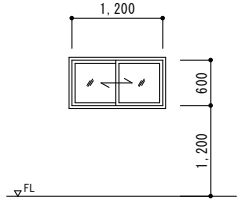
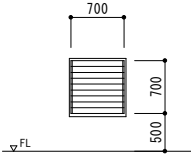
※ () 内の縮尺はA 1 番出力時を示す。

一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10221号 株式会社 N J S九州総合事務所 一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録 第293963号 島 哲郎	北部清掃工場新清水ポンプ所（仮称）新築本体その他工事 新清水ポンプ所 部分詳細図（3）	図示	A-16
	鹿児島市建設局建築部建築課		

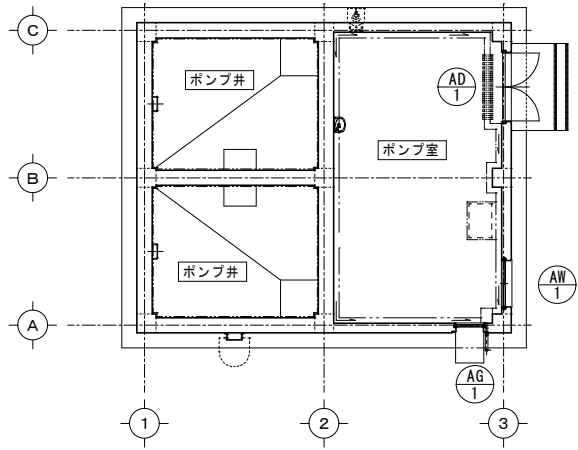


一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10221号 株式会社NJS九州総合事務所 一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録 第293963号 島 哲郎	北部清掃工場新湯水ポンプ所（仮称）新築本体その他工事		
	新湯水ポンプ所 展開図・天井伏図	(1/50) 1/100	A-17
	鹿児島市建設局建築部建築課		

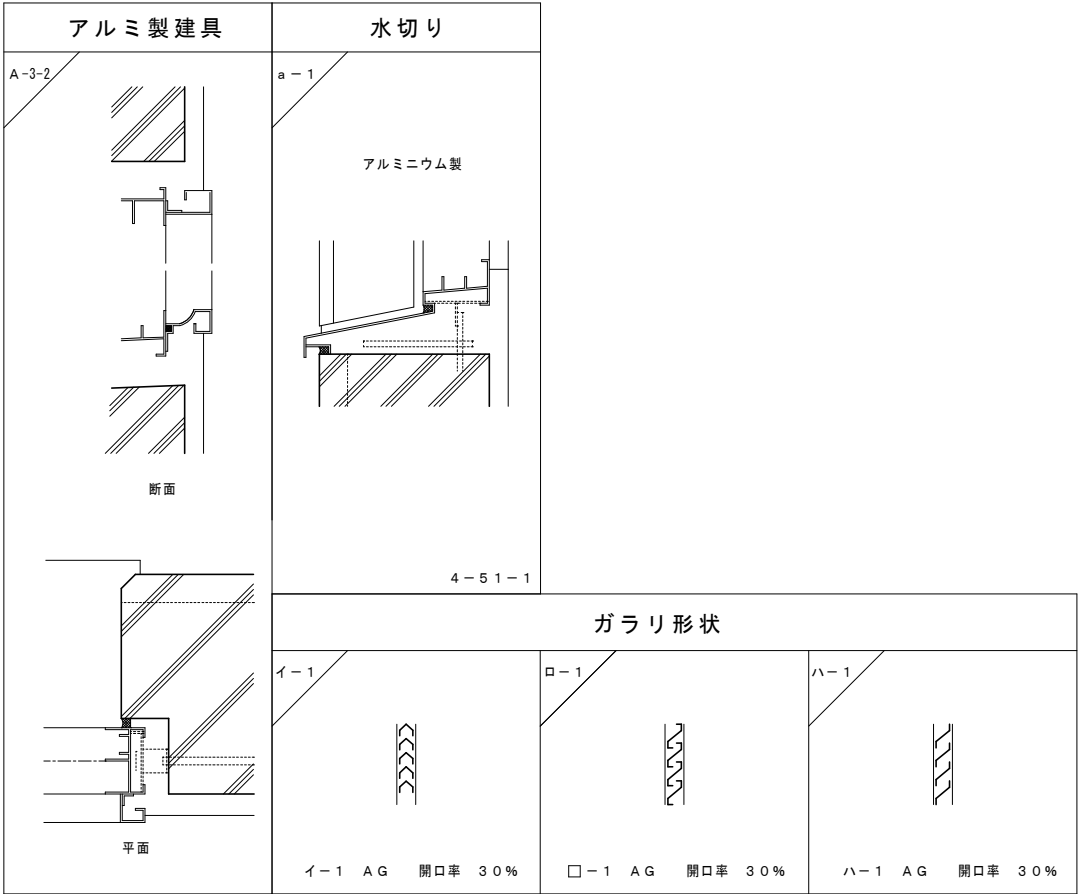
建具 リスト

符号 ・ 名称 ・ 個数		AD1 外部用アルミ両開きドア 1		AW1 引き違い窓 1		AG1 アルミガラリ 1		
場所		ポンプ室		ポンプ室		ポンプ室		
仕上（枠共）		BB-1		BB-1		BB-1		
建具	見込（ランマ）	メーカー仕様による		メーカー仕様による		メーカー仕様による		
	硝子（ランマ）	――		N t=6.8		――		
	ガラリ	――		――		ロ-1 開口率30%		
建具枠	見込取合 番摺	70		70		70		
枠記号 番摺（水切）記号		メーカー仕様による		枠：A-3-2 水切：a-1 (W=165)		枠：A-3-2 水切：a-1 (W=165)		
建具金物		附属金物一式、フランス落し DC、レバーハンドル、シリンダー本締り錠		附属金物一式（レセント FL+1500以下）		附属金物一式 ステンレス防虫網付き		
その他		額縁：アルミ 25×40（3方向）		額縁：アルミ 25×40 ガラス繊維網戸		額縁：アルミ 25×40		
形状・寸法								

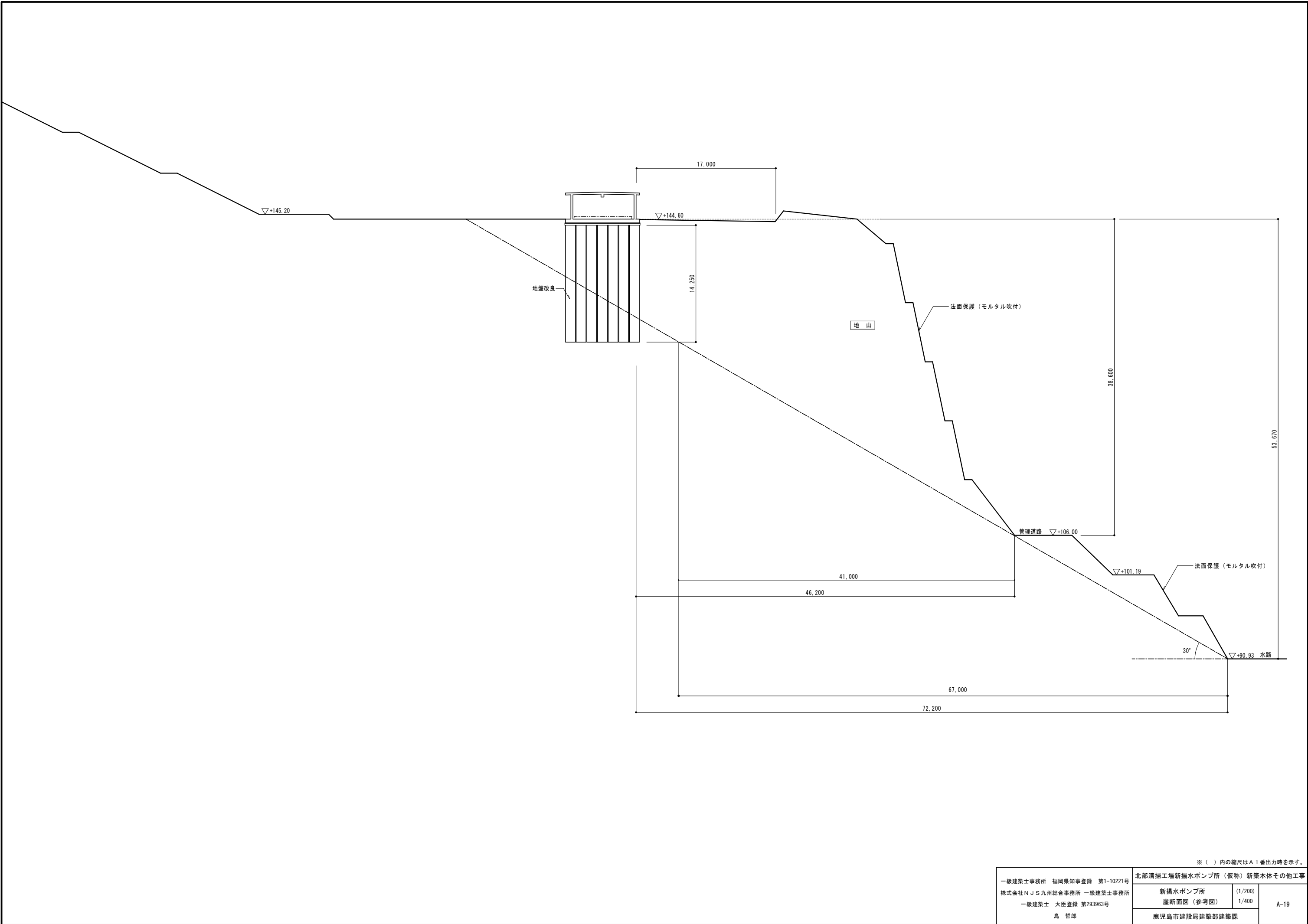
共通事項	1. 特記なき限り外部はシリンダ箱錠（内部サムターン）とし内部は本締り付きモノロックとする。 但し、押板、押棒の場合は、シリンダ本締りとする。	8. 特記なき限り内部建具ガラリはI型とする。（枠廻り詳細による。）	建具略号	種 別	戸	窓	ガラリ	オーバーヘッドドア	紙障子	ふすま	シャッター	網戸
	2. バイパスベース、ダクトスペースの点検扉の錠はシリンダ本締り錠（特記なき限り同一キー）とする。	9. 特記なき限り鋼製戸の見込みは40mmとする。		アルミニウム製	AD	AW	AG	AOD			AS	aW
	3. 便所等の施設を必要としない箇所は空錠とし、押板、押棒の場合は錠不要とする。	10. 防火戸の位置は建具配置図による。		鋼 製	SD	SW	SG	SOD			SS	
	4. AH、FHを除きDCの有無にかかわらず出入口には戸当り、あおり止め（防火戸を除く）をつける。 壁仕上げボード類等の場合は床付とする。（但し、通行に支障のあるものは除く。）	11. 特記なき限り気密扉・簡易気密扉の吸音材の充填は行なわないものとする。		鋼 製 軽 量	LD						LS	
	5. 特記なき限り外部に面するガラリは防鳥網付きとする。	12. アルミ製建具の性能等級はB種以上とする。		ステンレス製	SSD	SSW	SSG				SSS	
	6. アルミニウム製窓の締り金物、排煙口操作レバーの位置は床から1,500以内とする。	13. 表中の（特防）は109条の 特定防火設備を示す、また、〈防〉は 防火設備を示す。		木 製		WD	WW	WG		P	H	
	7. 大型、気密鋼製建具はシリンダ本締り錠付きとする。			ガラス略号	F	型板ガラス			金物記号	DC	ドアクローザー	
			P		フロート板ガラス			AH		オートヒンジ		
			N		網入型板ガラス			FH		フロアヒンジ		
			NP		網入みがき板ガラス			PH		ビボットヒンジ		



1階 建具配置図 (S=1/100)
S=1/200

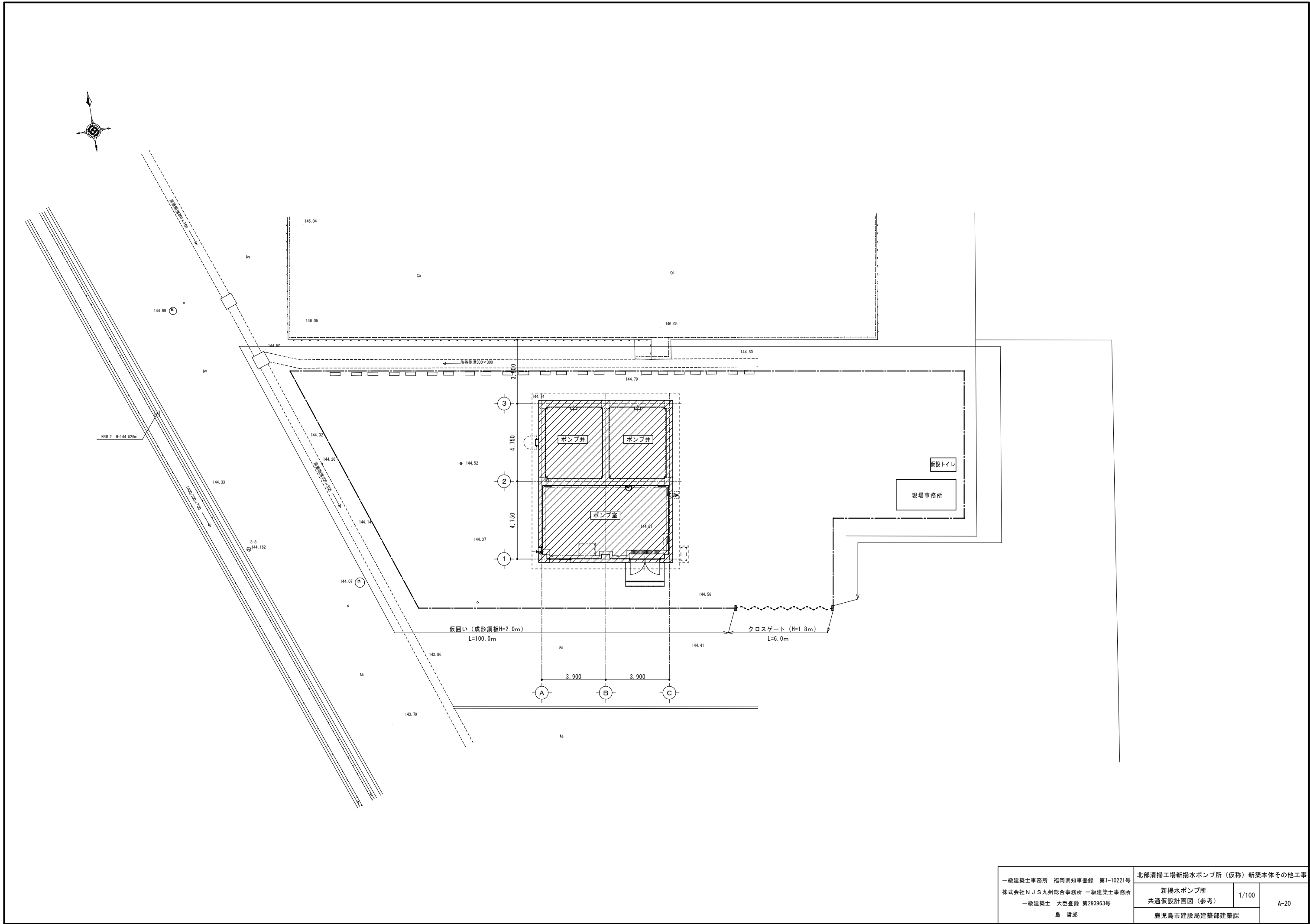


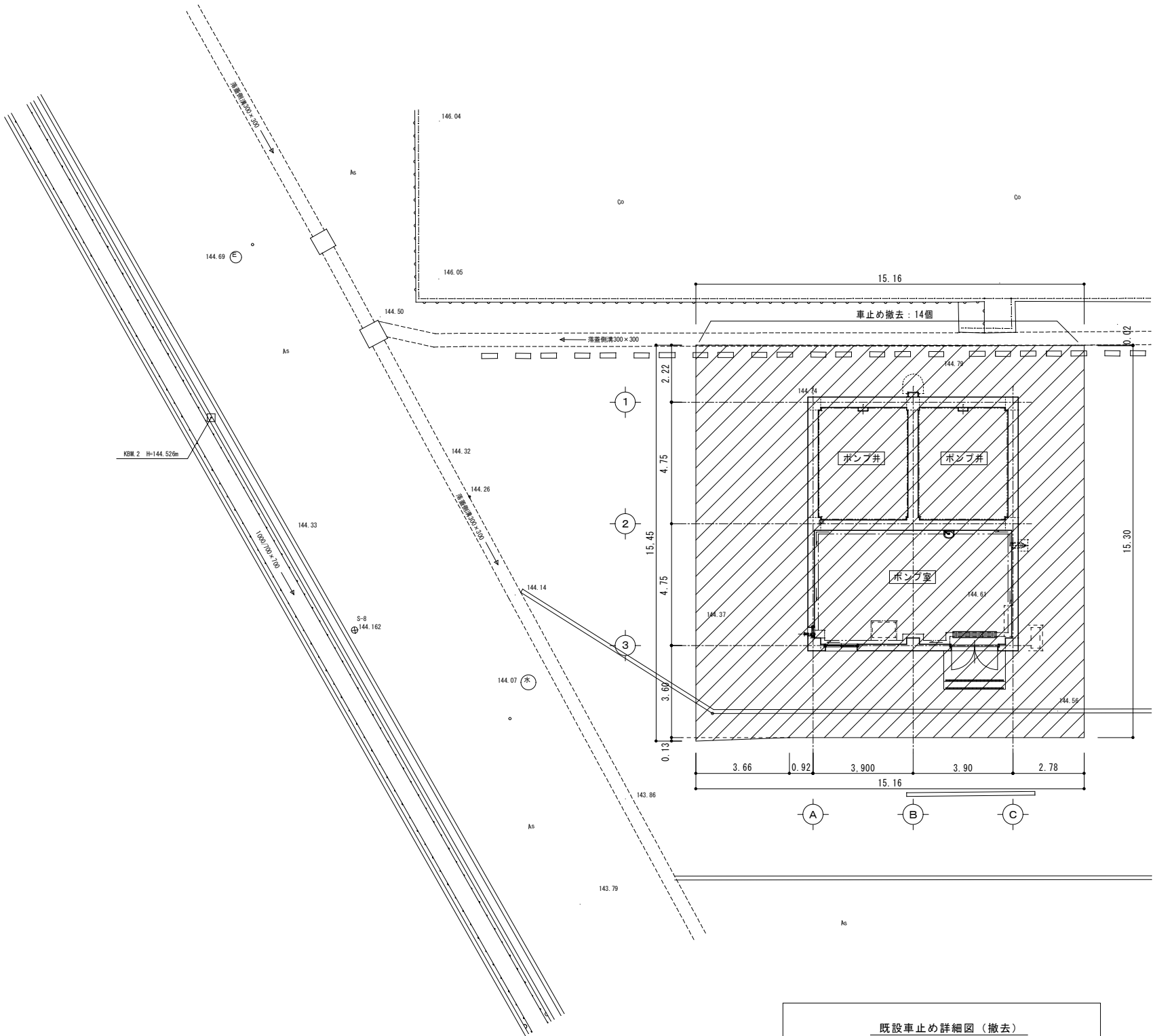
※（ ）内の縮尺はA1番出力時を示す。



※ () 内の縮尺は A 1 番出力時を示す。

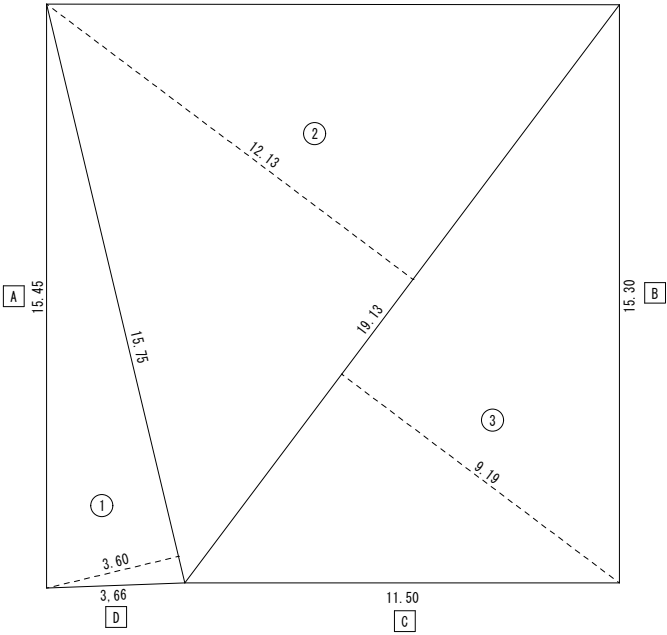
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10221号			北部清掃工場新揚水ポンプ所 (仮称) 新築本体その他工事	
株式会社 N J S 九州総合事務所 一級建築士事務所			新揚水ポンプ所	(1/200)
一級建築士 大臣登録 第293963号			崖断面図 (参考図)	1/400
島 哲郎			鹿児島市建設局建築部建築課	A-19





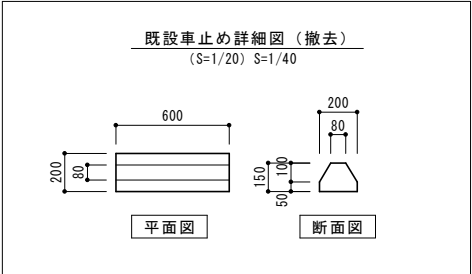
面積表			
番 号	底辺 (m)	高さ (m)	倍面積 (m2)
①	15.75	3.60	56.7
②	19.13	12.13	232.0
③	19.13	9.19	175.8
計			464.5
舗装撤去面積			232.3

舗装切断長さ
 $\boxed{A} + \boxed{B} + \boxed{C} + \boxed{D}$
 $= 15.45 + 15.30 + 11.50 + 3.66$
 $= 45.91m$



特 記

◎51. 舗装の切断作業時に発生する排水の具体的な処理方法
舗装切断作業に伴い、切断機械から発生する排水については、排水吸引機能を有する切断機械等により回収するものとする。
回収された排水については、関係機関等と協議の上、適正に処理するものとし、必要と認められる経費については、変更契約できるものとする。
「適正に処理」するとは、「廃棄物処理及び清掃に関する法律」に基づき、産業廃棄物の排出事業者（請負業者）が産業廃棄物の処理を委託する際、適正処理のために必要な廃棄物情報（成分性状等）を処理業者に提供することが必要である。
なお、受注者は、排水の処理に係る産業廃棄物管理票（マニフェスト）について、監督員から請求があった場合は提示しなければならないほか、4.7. 産業廃棄物管理票（マニフェスト）の提出に従い、処分状況等の記録（E票の写し及び産業廃棄物管理票（マニフェスト）総括表）を工事完成図書に添付すること。



構造細目共通図(複合構造物)
＜令和4年版＞

※本図面は、(一社)全国下水道コンサルタント協会が著作権を有するものである。
.....使用にあたっては、上記協会への使用願いの提出と、配布番号の記載が必要である。
.....枠外右下の【協会員番号】と【配布番号】の記載が無い図面は無効とする。

1 特記事項

1.1 適用範囲

(1) 本構造細目共通図は、下水道施設における処理場、ポンプ場の複合構造物に適用する。
(2) 土木工事と建築工事の区分は図面による。
(3) 図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。

土木工事	1) 土木工事特記仕様書 2) 土木工事共通仕様書 3) コンクリート 標準示方書・施工編 4) コンクリート 標準示方書・設計編	全国上下水道コンサルタント 協会 国土交通省**地方整備局 土木学会 土木学会	(別紙による。) (令和 年版) (2017年版) (2017年版)
建築工事	1) 建築工事特記仕様書 2) 建築改修工事特記仕様書 3) 建築工事一般仕様書 4) 公共建築工事標準仕様書(建築工事編) 5) 公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)	(別紙による。) (別紙による。) (令和 年版) (令和4年版) (令和4年版)	

(4) 項目は、○印のついたものを適用する。○印のない場合は、※印のあるものを適用する。○印と※印のある場合は、共に適用する。
※1【064-005追記】「下水道施設」、「処理場」は、それぞれ「水道施設」、「浄水場」に読替えること。

1.2 鉄筋の仕様

土木の鉄筋の種類及び継手は1.2.1表による。
建築の鉄筋の種類及び継手は、別紙建築工事特記仕様書又は建築改修工事特記仕様書による。

1.2.1 表 鉄筋の種類及び継手

	種 別	径	
		土 木	建 築
鉄筋の種類	SD295	――	※D16以下
	※SD345 ・SD390 ・SD490	※D13以上	――
	SD345	――	※D19以上
鉄筋の継手	重ね継手	下記以外	
	ガス圧接	※D19以上の柱、梁主筋 ※D16以上の増設端の床、壁鉄筋	※D19以上、D29以下の柱、梁主筋
	機械式継手	・ 図面による。	

1.3 コンクリートの仕様

土木のコンクリートの仕様は1.3.1表による。
建築のコンクリートの仕様は、別紙建築工事特記仕様書又は建築改修工事特記仕様書による。

1.3.1 表 コンクリートの仕様

分 類		コンクリート 種別	設計基準強度 (N/mm ²)	スランプ (cm)	セメントの種類
土木	鉄筋コンクリート	※ 普通コンクリート	※ 24	※ 12	※ 高炉セメント B ・ 普通ポルトランドセメント ・ 低熱ポルトランドセメント
			30		
建築	鉄 筋 コン クリート	地上	※ 普通コンクリート	※ 24	※ 普通ポルトランドセメント
		地下 基礎、 基礎梁	※ 普通コンクリート	※ 24	・ 普通ポルトランドセメント ○ 高炉セメント B
土木	無筋コンクリート	※ 普通コンクリート	※ 18	※ 12	※ 高炉セメント B ・ 普通ポルトランドセメント
建築	無筋コンクリート	※ 普通コンクリート	※ 18	※ 15	※ 普通ポルトランドセメント

注1：無筋コンクリートには均しコンクリート、捨てコンクリートを含む。

1.4 砕石及び均しコンクリート、捨てコンクリート

砕石及び均しコンクリート、捨てコンクリートの厚さは1.4.1表による。

1.4.1 表 砕石及び均しコンクリート、捨てコンクリートの仕様

部 位	種 別	厚さ (mm)
土 木 工 事	砂利または砕石	※ 200
	均しコンクリート	※ 100
建 築 工 事	砂利または砕石	※ 60
	捨てコンクリート	※ 50

2 共通事項

2.1 記号及び符号

設計図中で使用する記号及び符号は、2.1.1表及び2.1.2表を標準とする。

2.1.1 表 鉄筋の断面表示

区分	径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建 築	●	×	∅	●	○	⊙	⊗	⊗	⊗
土 木				●又は建築による。					

2.1.2 表 一般凡例

記 号 符 号	内 容	※印の説明及び注意事項
F※	フーチング断面種別	※ 番号
※1C※2	柱断面種別	※1 階数 ※2 その階の番号
※1G※2	大梁断面種別	※1 階数、地中大梁はFとする ※2 その階の番号 X方向1, 2, 3・・・ Y方向A, B, C・・・
CG※	片持大梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない
※1B※2	小梁断面種別	※1 地中小梁のみFとする ※2 階別区分はしない 地中小梁を除く
CB※	片持小梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない
※1W※2	壁配筋種別	※1 E：耐震壁、K：階段壁 D：土圧、水圧を受ける壁 階別区分はしない ※2 壁厚 (cm)
※1S※2※3	床版配筋種別	※1 片持床版のみCとする ※2 床版厚 (cm) ※3 配筋種別(英大文字) 階別区分はしない
※1K※2	階段の配筋種別	※1 A：片持床版形 B：二辺固定床版形 ※2 配筋種別(数字) 階別区分はしない
CB※	コンクリートブロック壁	※ 壁厚 (cm)
	打ち増し範囲	
	梁・床版の上がり下がり	一般には基準FLよりの＋、－に応じた凡例により表示
(※)	床用積載荷重	積載荷重の値(kN/m ²)
STP	あばら筋、スターラップ	梁、基礎梁、小梁
HOOP	帯筋、帯鉄筋、フープ	柱
S.HOOP	スパイラル筋、らせん筋	柱
幅止筋	幅止め筋	柱、梁、壁
組立筋	組立て筋	床版、底版

(用語の定義)
・ 床版とは、常時荷重及び地震時荷重を負担する主部材をいう。壁式構造のボックスカルバートやラーメン構造の頂版や底版がある。
・ スラブとは、常時荷重のみを負担する梁に支持される副部材をいう。

2.2 一般注意事項

(1) 設計図は監督職員の承諾を得なければ変更してはならない。
変更の必要を生じた場合は、監督職員と協議すること。

3 土木工事

3.1 鉄筋の折曲げ加工

鉄筋の折曲げ加工は、3.1.1表及び3.1.2表を標準とする。
(1) Dは、折曲げ内法直径を示す。
(2) dは、鉄筋直径(呼び名)を示す。

3.1.1 表 鉄筋曲げ加工(1)

位 置	曲げ 角度	折曲げ図及び 折曲げ後の余長	曲げ内法 直径	使 用 箇 所
	180°		5d以上	定着末端部
	135°		5d以上	スターラップ、 帯鉄筋、 フープ筋 等
	90°		5d以上	
末端部	90° 135°		5d以上	梁 壁 床版 底版
	90°		5d以上	
	θ<90°		10d以上	折曲げ鉄筋

3.1.2 表 鉄筋曲げ加工(2)

位 置	曲げ 角度	折曲げ図	曲げ内法 直径	使 用 箇 所
最上階	90°		20d以上	ラーメン隅角部
一般階	90°		5d以上	

3.2 異形鉄筋の末端部

異形鉄筋の末端部には、3.2.1表によりフックを設ける。

3.2.1 表 フックを設ける位置

部 位	継手方式		備 考
	重ね継手	圧接継手	
柱	四隅の主筋	1) 最上階の柱頭	3.2.1図の●印 3.8.1図参照
	上下階の柱断面が異なる場合	1) 下階の柱主筋を引き通す事が出来ない柱頭部	3.2.1図の●印 3.8.2図参照
	帯筋(HOOP)	1) 末端部 2) 継手部	3.9.1図参照
梁	あばら筋(STP)	1) 末端部 2) 継手部	3.12.1図参照
杭基礎	独立フーチング基礎の底版筋	1) 末端部 2) 継手部	3.25.1図参照
煙突の鉄筋		1) 末端部 2) 継手部	壁の一部となる場合を含む
幅止め筋			3.1.1表参照

3.3 鉄筋のかぶり及び間隔

3.3.1 かぶり厚さ

かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋(幅止め筋を除く)の外面から躯体面までの距離(3.3.1図)をいう。
鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚に許容誤差10mmを加えた厚さ以内に納めるものとする。

3.3.1 図 鉄筋のかぶり厚さ

3.3.2 最小かぶり厚さ

最小かぶり厚さは、3.3.1表による。
床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、均しコンクリートの厚さを含まない。

3.3.1 表 鉄筋の最小かぶり厚さ(mm)

※ 通常の施工の場合

環 境	部 位	床版・スラブ・梁	柱・壁	底版・フーチング
大気中		50	50	―
水中・土中等		50	70	70

・ 塩害対策地域の施工の場合

対策区分	環境	部位	床版・スラブ・梁	柱・壁	底版・フーチング
Ⅰ	大気中		70	70	―
	水中・土中等		70		70
Ⅱ,Ⅲ	大気中		50	70	―
	水中・土中等		50		70

1：部位により最小かぶり厚さの判断が困難な場合は、監督職員の指示を得る。
2：杭基礎の底版・フーチング下端筋のかぶり厚さは、7.杭基礎の補強を参照する。

(注)梁：大梁、小梁、基礎梁、片持梁をいう。

一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10221号
株式会社NJS九州総合事務所 一級建築士事務所
一級建築士 大臣登録 第293963号
島 哲郎

北部清掃工場新揚水ポンプ所(仮称)新築本体その他工事
新揚水ポンプ所
構造細目共通図(複合構造物)(1)
鹿児島市建設局建築部建築課

―
S-01


4WS0.1(第5版) 064-005

3. 1 1 大梁筋の継手及び定着

(1) 継ぎ手長さ、定着長さ及び余長は、3.11.1 図から 3.11.10 図による。

(3) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。

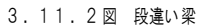
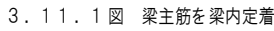
(4) 梁にハンチをつける場合、その傾斜は図面による。図面になければ1:4とする。

(5)  印は、継ぎ手及び余長を示す。

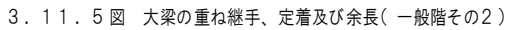
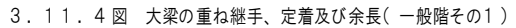
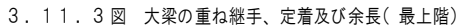
(6) 破線は柱内定着の場合を示す。

(7) 3. 2 異形鉄筋の末端部で定めた鉄筋にはフックをつける。

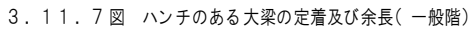
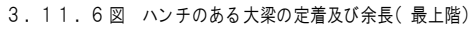
(8) 段違い梁は3. 11. 2 図による。



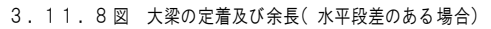
(1) 最上階の場合



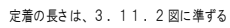
(1) 最上階の場合



(1) 水平段差のある場合



(1) $e/D \leq 1/6$ の場合



3.11.9 図 鉛直段差梁(その1)

3.11.10 図 鉛直段差梁(その2)

3.12.1 一般事項

3.12.2 あばら筋組立の形及びフックの位置

(1) 形は、3. 1 2. 1 図(イ)を標準とする。

ただし、(イ)によることが出来ない場合は、下記の方法によることが出来る。

a. 床版が片側に付く場合は、(口)又は(ハ)

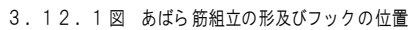
(2) フックの位置

a. (イ)の場合は交互とする。

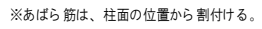
b. (ロ)の場合 床版が片側に付く場合は床版の付く側、床版が両側に付く場合は交互

c. (ハ)の場合は床版の付く側を90°折曲げる。

(ホ)は梁の上下にスラブが付く場合で、かつ梁せいが1.5 m以上の場合に適用することが出来る。(基礎梁)

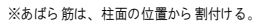


(1) 間隔が一様でハンチのない場合



3.12.2 図 あばら筋の割付け(その1)

(2) 間隔が一様でハンチのある場合



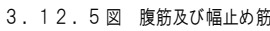
3. 1 2. 3 図 あばら筋の割付け(その2)

※あばら筋は、柱面の位置から割付ける。

3. 1 2. 4 図 あばら筋の割付け(その3)

(1) 一般の梁

a) 腹筋及び幅止め筋



腹筋及び幅止め筋は、図面による。

Δ W/S 0.1 (第5版) — 064 — 005

<div data-bbox="94 60 804 105"> <div>3 土木工事</div> </div> <div data-bbox="94 105 804 149"> <div>3.13 基礎梁及び底版の継手及び定着</div> </div> <div data-bbox="94 149 804 405"> <div>3.13.1 一般事項</div> <div>(1) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は柱内に定着する。やむを得ず梁内に定着する場合は、3.11.1 図に準ずる。</div> <div>(2) 梁筋を柱内に定着する場合は、3.11.1 (3) による。</div> <div>(3) 柱幅<梁幅の場合の定着は、3.13.3 図による。</div> <div>(4) ≡ 印は、継ぎ手及び余長を示す。</div> <div>(5) 破線は柱内定着の場合を示す。</div> <div>(6) 図内(※1)は、3.11.1 による。</div> </div> <div data-bbox="94 405 804 449"> <div>3.13.2 基礎梁の場合</div> <div>(1) 基礎梁の継手及び定着</div> </div> <div data-bbox="94 449 804 720"> <div>3.13.1 図 主筋の継手、定着及び余長(その1)</div> </div> <div data-bbox="94 720 804 764"> <div>3.13.3 連続基礎及びべた基礎の場合</div> <div>(1) 柱幅≧梁幅の場合</div> </div> <div data-bbox="94 764 804 1035"> <div>3.13.2 図 主筋の継手、定着及び余長(その2)</div> </div> <div data-bbox="94 1035 804 1079"> <div>(2) 柱幅<梁幅の場合</div> <div>(a) 交差部のスターラップを設ける場合は、図面による。</div> </div> <div data-bbox="94 1079 804 1644"> <div>3.13.3 図 主筋の継手、定着及び余長(その3)</div> </div> <div data-bbox="94 1644 804 1688"> <div>3.13.4 梁形を設けない場合の基礎底版</div> <div>(1) 鉄骨造のBOX 柱等が埋め込まれる場合の端部と中央部の断面の異なる場合</div> </div> <div data-bbox="94 1688 804 1980"> <div>3.13.4 図 主筋の継手、定着及び余長(その4)</div> </div>	<div data-bbox="804 60 1513 105"> <div>3.14 小梁及び片持梁の配筋要領</div> </div> <div data-bbox="804 105 1513 275"> <div>3.14.1 一般事項</div> <div>(1) 図面にはない事項は大梁、梁のあばら筋、及び基礎梁の項に準ずる。</div> <div>(2) ≡ 印は、余長位置を示す。</div> <div>3.14.2 小梁</div> <div>梁内の定着筋において梁せいが小さく垂直で余長が取れない場合、斜めにしてもよい。</div> </div> <div data-bbox="804 275 1513 319"> <div>(1) 連続小梁の場合</div> </div> <div data-bbox="804 319 1513 590"> <div>3.14.1 図 小梁主筋の継手、定着及び余長(その1)</div> </div> <div data-bbox="804 590 1513 634"> <div>(2) 単独小梁の場合</div> </div> <div data-bbox="804 634 1513 863"> <div>3.14.2 図 小梁主筋の継手、定着及び余長(その2)</div> </div> <div data-bbox="804 863 1513 907"> <div>3.14.3 片持梁筋の定着</div> <div>(1) 先端に小梁のない場合</div> </div> <div data-bbox="804 907 1513 1220"> <div>a. 先端の折曲げの長さbは、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さとする。</div> <div>b. 梁筋を引き通さない場合は、取り合い部材に定着する。ただし、柱に取り合う場合は、全数を引き通すことができる場合でも、上端筋は、2本以上を柱に定着する。</div> <div>3.14.3 図 片持梁主筋の定着及び余長(先端に小梁がない場合)</div> </div> <div data-bbox="804 1220 1513 1264"> <div>(2) 先端に小梁がある場合</div> </div> <div data-bbox="804 1264 1513 1913"> <div>a. 上端筋は、先端小梁内に斜めに定着する。</div> <div>b. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。</div> <div>c. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。</div> <div>3.14.4 図 片持梁主筋の定着</div> </div>	<div data-bbox="1513 60 2223 105"> <div>3.15 壁の配筋要領</div> </div> <div data-bbox="1513 105 2223 296"> <div>3.15.1 一般事項</div> <div>(1) 壁配筋の継手長さをS₁、定着の長さは、S₃とする。</div> <div>(2) 土圧及び水圧などを受ける壁及び耐震壁として、図面に示されたものは、継手長さをS₁、定着長さをS₂とする。</div> <div>(3) 幅止め筋は、縦、横ともD13-@1000mmを標準とする。</div> <div>(4) 一般部壁筋は、3.15.1 図によることとし、隣接する壁の鉄筋と重ね継手を設ける場合は、3.6 項に従うものとする。</div> </div> <div data-bbox="1513 296 2223 720"> <div>3.15.1 図 壁の配筋</div> </div> <div data-bbox="1513 720 2223 764"> <div>3.15.2 耐震壁の開口</div> <div>(1) 耐震壁等の開口は、図面以外は設けてはならない。</div> <div>(2) やむを得ず開口をあける場合は、構造上安全であることを構造計算によって確認すること。</div> </div> <div data-bbox="1513 764 2223 808"> <div>3.15.3 壁開口部の補強</div> <div>(1) 壁開口部の補強は、図面による。補強筋の長さ及び位置は、3.15.2 図を標準とする。</div> </div> <div data-bbox="1513 808 2223 1220"> <div>3.15.2 図 壁開口部の補強要領</div> </div> <div data-bbox="1513 1220 2223 1264"> <div>(2) 開口寸法が配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋出来る場合は、補強筋を省略することができる。</div> </div> <div data-bbox="1513 1264 2223 1308"> <div>3.15.4 壁の交差部及び端部</div> <div>(1) 壁と壁の交差部は3.15.3 図による。</div> </div> <div data-bbox="1513 1308 2223 1850"> <div>a. 交差部補強筋径D※はD16 以上、かつ壁配力筋と同径とする。</div> <div>3.15.3 図 壁と壁の交差部及び端部の配筋</div> </div>	<div data-bbox="2223 60 2920 105"> <div>(2) 壁と床版の交差部は3.15.4 図による。</div> <div>a. 交差部補強筋径D※はD16 以上、かつ壁配力筋と同径とする。</div> </div> <div data-bbox="2223 105 2920 863"> <div>3.15.4 図 壁と床の交差部及び端部の配筋</div> </div> <div data-bbox="2223 863 2920 907"> <div>※3.15.4 図は、柱梁構造の場合である。地下階が壁式構造の場合は、構造細目共通図(土木構造物)(2)の「6.1.4 壁と床版・底版の交差部」を参照のこと。</div> </div>
--	---	--	---

<div>一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10221号</div> <div>株式会社NJS九州総合事務所 一級建築士事務所</div> <div>一級建築士 大臣登録 第293963号</div> <div>島 哲郎</div>	<div>北部清掃工場新揚水ポンプ所（仮称）新築本体その他工事</div> <div>新揚水ポンプ所</div> <div>構造細目共通図（複合構造物）(4)</div> <div>鹿児島市建設局建築部建築課</div> <div>—</div> <div>S-04</div>
---	---

3 土木工事			
3.18 床の配筋要領			
3.18.1 一般事項			
(1) 鉄筋の継手長さは、 S_1 とする。			
(2) ラーメン構造の床版の定着長さ及び受け筋は、3.18.1図による。ただし、引き通すことができない場合は、3.18.2図、3.18.3図により梁内に定着する。			
なお、スラブ筋の場合は、3.18.1図～3.18.3図の定着長さ S_2 、 S_3 を、 S_4 と読み替える。			
(3) 基礎梁と床版を一体打ちとしないで、打ち継ぎを設ける場合の補強は図面による。図面になければ3.20.5図による。			
3.18.1図 床版筋の定着長さ及び受け筋(その1)			
3.18.2図 床版筋の定着長さ及び受け筋(その2)			
3.18.3図 床版筋の定着長さ及び受け筋(その3)			
3.18.2 片持床版			
(1) 片持床版の配筋			
3.18.4図 片持床版の配筋			
※片持スラブの場合は、3.18.4図及び図3.18.5図の定着長さ S_2 、 S_3 を、 S_4 と読み替える。			
※先端の折り曲げ長さ b は、片持部材の厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。			
※床版に段差のない場合は、主筋を引き通して床版またはスラブに定着してもよい。			
3.18.4図 片持床版の配筋			
(2) 先端に小梁がなく壁に取り付く場合			
3.18.5図 先端に壁が付く場合の配筋			
3.18.3 出隅部の配筋方法			
(1) 補強の配筋は図面による。配筋方法は、3.18.6図による。特記にない場合は、D13@100ダブル程度とする。			
(2) 出隅受け部分(図のハッチ部分)の配筋は、図面(幅は $b_1/2$ とする)による。			
(3) 片持スラブの場合は、3.18.6図の定着長さ S_2 、 S_3 を、 S_4 と読み替える。			
3.18.6図 片持床版出隅部の補強配筋			
3.18.4 段差床版の補強			
(1) 同一床版に段差がある場合、3.18.7図の補強を行う。ただし、 $H>150$ の場合は、小梁を設ける事を原則とする。			
(2) 段差スラブの場合は、3.18.7図の定着長さ S_2 、 S_3 を、 S_4 と読み替える。			
3.18.7図 段差のある床版の補強配筋			
3.18.5 床版及びスラブ開口部の補強			
(1) 開口の最大径 ≤ 700 の場合は、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部には、斜め方向に主筋径以上の鉄筋2本を上下筋の内側に配筋する(3.18.8図)。開口の最大径 > 700 の場合は図面による。			
3.18.8図 床版及びスラブ開口部の補強配筋			
(2) 開口寸法が配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋を出来る場合は、補強筋を省略することができる。			
3.19 階段の配筋要領			
(1) 壁配筋は、図面による。			
(2) 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に曲げ降ろす。			
3.19.1図 片持スラブ形階段配筋の定着			
3.20 柱及び梁の増し打ち要領			
3.20.1 柱			
(1) 増し打ちコンクリートの補強は、3.20.1図による。			
ただし、 $a<70$ の場合は補強は行わない。			
3.20.1図 柱の増し打ち補強配筋			
(2) 増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合を除く。			
(3) 増し打ち部分の帯筋の定着長さは、 S_2 以上とする。			
(4) 増し打ち部分主筋の定着、重ね長さは、柱の主筋による。			
3.20.2 梁			
(1) 増し打ちコンクリートの補強は、3.20.2図による。ただし、 $a<70$ の場合、補強は行わない。			
3.20.2図 梁の増し打ち補強配筋			
(2) 増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合を除く。			
(3) 増し打ち部分のあばら筋の定着長さは、 S_2 以上とする。			
(4) 増し打ち部分の主筋の定着、重ね長さは、梁の主筋による。			
(5) 梁の上下の増し打ちが途中で終わる場合。			
3.20.3図 梁の上下の増し打ち補強配筋(途中で終わる場合)			
(6) 梁の側面の増し打ちが途中で終わる場合。			
3.20.4図 梁の側面の増し打ち補強配筋(途中で終わる場合)			
3.20.3 土間スラブの打継ぎ補強			
(1) 基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打ち継ぎを設ける場合。			
3.20.5図 土間スラブの打継ぎ補強配筋(ダブル)			
3.21 土木部分と建築部分の取り合い			
3.21.1 壁縦筋の取り合い			
(1) 差し筋の仕様は建築工事仕様とする。(径は図面による)			
(2) L_1 及び L_2 は4.5.1表による。			
3.21.1図 壁縦筋の取り合い差し筋			
3.21.2 柱主筋の取り合い			
(1) 最上部の柱主筋は、1階建築部分の柱断面に応じ、3.21.2図の圧接位置まで延ばすこと。			
3.21.2図 柱主筋の取り合い差し筋			
3.21.3 柱主筋かぶり厚の取り合い			
(1) 土木工事の外壁に面する柱主筋のかぶりは、3.3.1表によらず、3.21.3図による。			
3.21.3図 柱主筋かぶり厚の取り合い			

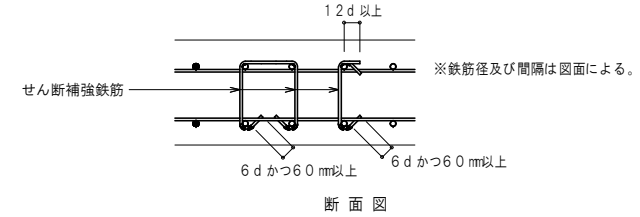
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10221号 株式会社NJS九州総合事務所 一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録 第293963号 島 哲郎	北部清掃工場新揚水ポンプ所(仮称)新築本体その他工事 新揚水ポンプ所 構造細目共通図(複合構造物)(5) 鹿児島市建設局建築部建築課	— S-05
--	---	-----------

3 土木工事

3.23 せん断補強鉄筋

3.23.1 底版、床版

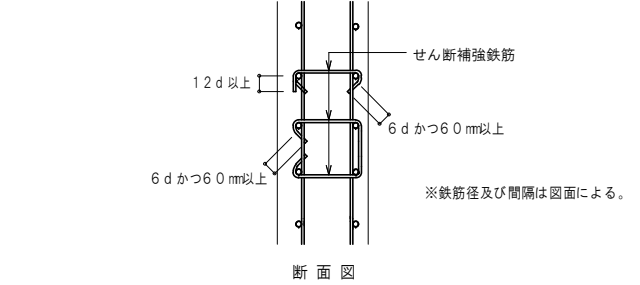
(1) 底版、床版のせん断補強要領は3.23.1図及び3.23.3図による。



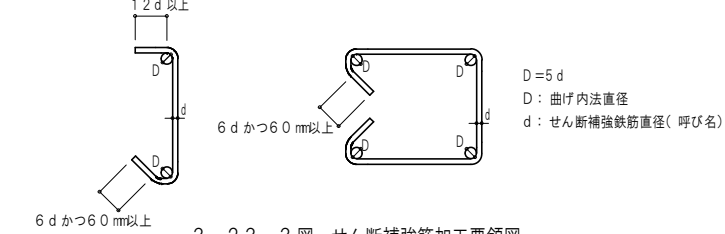
3.23.1図 底版、床版のせん断補強要領図

3.23.2 壁

(1) 壁のせん断補強要領は3.23.2図及び3.23.3図による。



3.23.2図 壁のせん断補強要領図

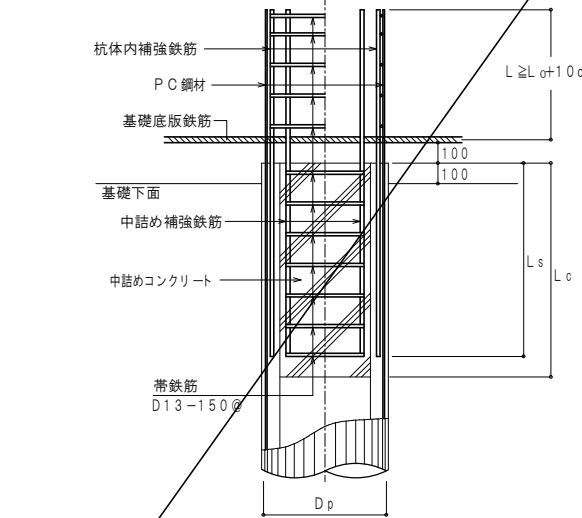


3.23.3図 せん断補強筋加工要領図

3.24 杭基礎の補強

3.24.1 一般事項

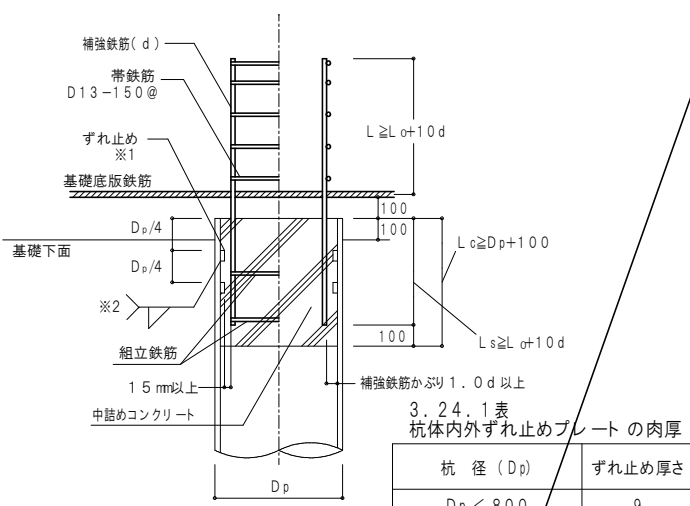
- 補強鉄筋にSD390またはSD490を用いる場合、中詰めコンクリート及び補強鉄筋が定着する基礎底版コンクリートの設計基準強度を30N/mm²以上とする。
- 鉄筋種別、径・本数は、図面による。
- 杭基礎の補強鉄筋の定着長Lは、主筋の材質がSD345およびSD390では35d以上、SD490では41d以上とする。
- 杭頭補強鉄筋が底版厚より長くなる場合は、3.24.6図による。
- 杭体内補強鉄筋は必要に応じ配置する。



杭頭処理形態			Type B
カットオフする場合	鉄筋	$L \geq 50 \phi + L_{\phi} + 10d$	
	コンクリート	$L_c \geq 2.5D_p + 100$ 、かつ $50 \phi + L_{\phi} + 10d + (\text{かぶり} 100)$	
カットオフしない場合	鉄筋	$L \geq L_{\phi} + 10d$	
	コンクリート	$L_c \geq 2.5D_p + 100$ 、かつ $L_{\phi} + 10d + (\text{かぶり} 100)$	

注1. ϕ は、PC鋼材径とする。

3.24.1図 PHC杭の杭頭補強

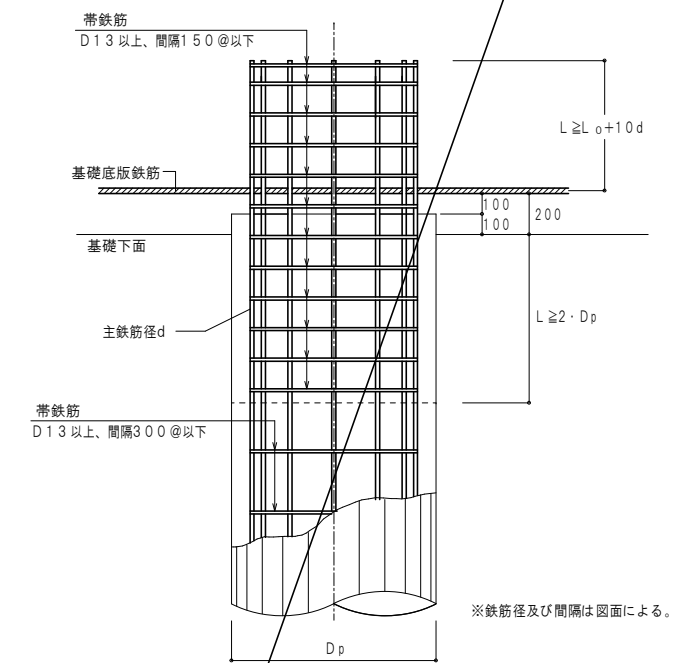


※1: ずれ止めの大きさは、3.24.1表による。

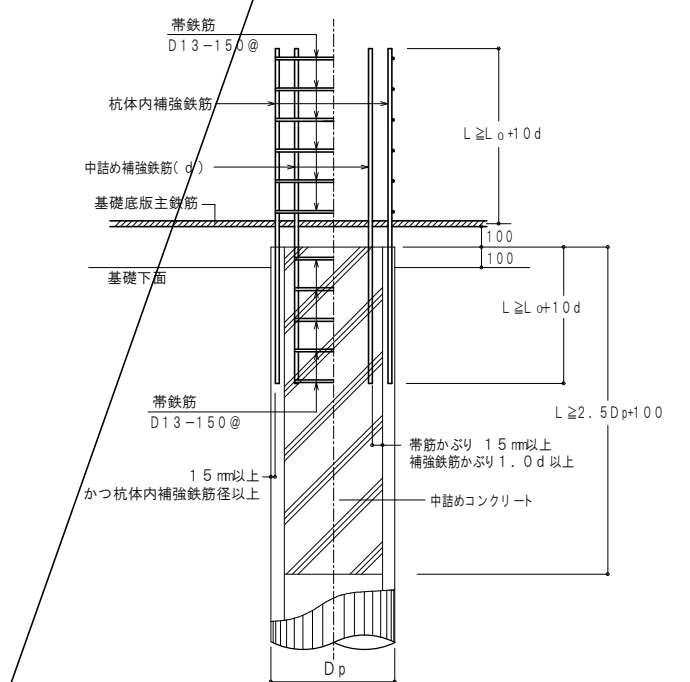
※2: 全周現場すみ肉溶接

※材質はSS400

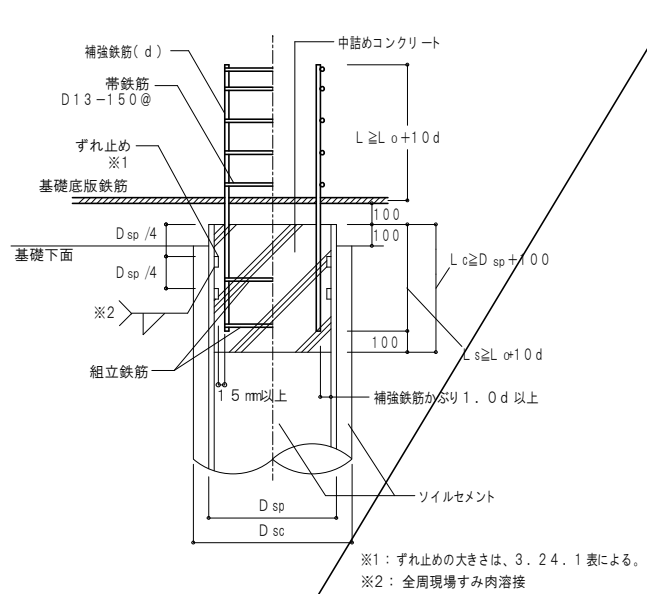
3.24.2図 鋼管杭の杭頭補強



3.24.3図 場所打ち杭の杭頭補強



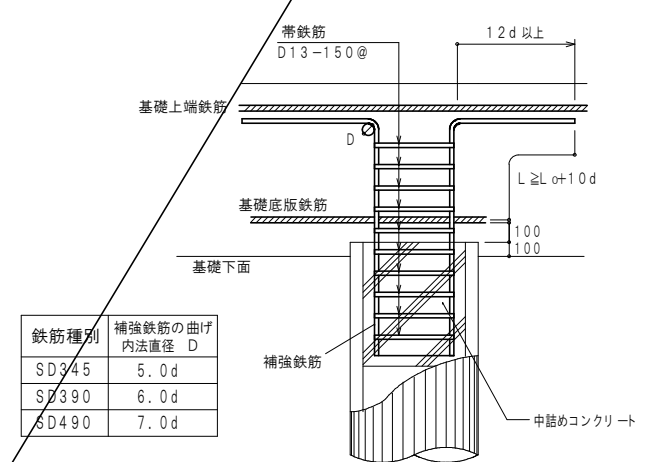
3.24.4図 SC杭の杭頭補強



※1: ずれ止めの大きさは、3.24.1表による。

※2: 全周現場すみ肉溶接

3.24.5図 鋼管ソールセメント杭の杭頭補強

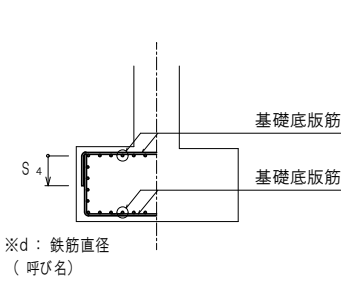


3.24.6図 杭頭補強筋が底版厚より長くなる場合の杭頭補強

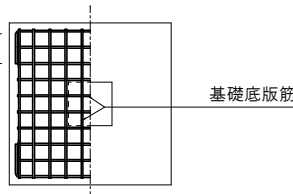
3.25 独立基礎の補強

3.25.1 フーチングの補強

(1) 補強方法は図面による。



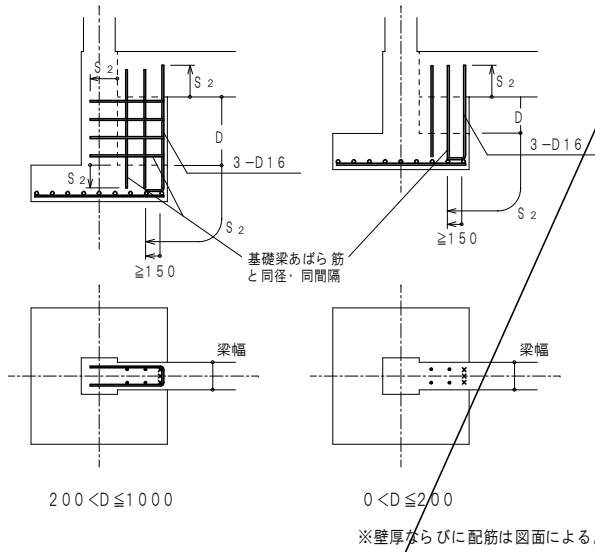
※d: 鉄筋直径(呼び名)



3.25.1図 独立基礎の補強配筋

(2) 基礎底版筋の配筋は、図面による。

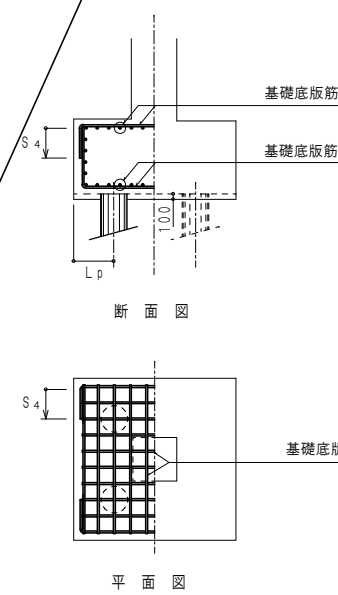
3.25.2 基礎接合部の補強



3.25.2図 基礎接合部の補強配筋

3.25.3 杭基礎の場合のフーチング配筋方法

- 杭基礎の場合のフーチング配筋方法は、3.25.3図とする。
- 杭頭処理の方法は、3.24項に基づくものとする。
- 杭芯とフーチング外端面との距離(Lp)は、場所打ち杭、打込み杭、埋め込み杭は1.0D(Dは杭径)以上とする。



3.25.3図 杭基礎の場合のフーチング配筋方法

一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10221号 株式会社NJS九州総合事務所 一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録 第293963号 島 哲郎		北部清掃工場新揚水ポンプ所(仮称)新築本体その他工事 新揚水ポンプ所 構造細目共通図(複合構造物)(6) 鹿児島市建設局建築部建築課		-	S-06
--	--	---	--	---	------

3 土木工事

3.26 耐震補強

3.26.1 適用範囲

- (1) 本構造細目共通図は、下水道施設における処理場、ポンプ場の土木構造物の耐震補強に適用する。
- (2) 図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。

1) 土木工事特記仕様書	全国上下水道コンサルタント協会	(別紙による。)
2) 土木工事共通仕様書	国土交通省**地方整備局	(令和 年版)
3) コンクリート 標準示方書・施工編	土木学会	(2017年版)
4) コンクリート 標準示方書・構造性能照査編	土木学会	(2002年版)
5) 官庁施設の総合耐震診断・改修基準及び同解説	建築保全センター	(平成 8年版)
6) 鉄筋定着・継手指針	土木学会	(2020年版)
7) 2017年改訂版 既存鉄筋コンクリート 造建築物の耐震改修設計指針・同解説	日本建築防災協会	(2017年版)
8) あと施工アンカー連続繊維補強設計・施工指針	国土交通省	(2006年版)

3.26.2 鉄筋の仕様及び継手

鉄筋の種類及び継手は3.26.1表による。

3.26.1表 鉄筋の種類及び継手

	種 別	径
鉄筋の種類	※SD345	※D13以上
鉄筋の継手	重ね継手	下記以外
	※1) ガス圧接	・ D19以上の柱、梁主鉄筋 ・ D16以上の増設端の床・壁鉄筋
	フレア溶接	・ D13以上
	機械式継手	・ 図面による

※1) 既存の鉄筋種別がSR235、295及びSD295Aの場合は、SD材との継手にガス圧接を使用してはならない。

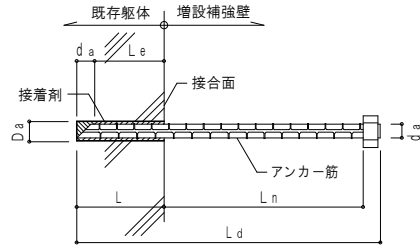
3.26.3 鉄筋の継手長及び定着長

SD345以外の鉄筋との継手長・定着長については図面による。

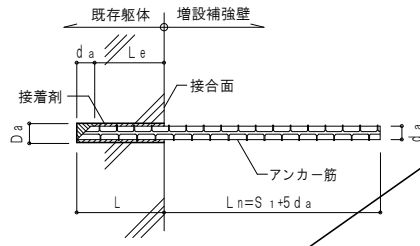
3.26.4 あと施工アンカー(接着系)

- (1) アンカー径は、D13以上、D22以下とする。
- (2) アンカーの打設は、増設壁が接合する四周の柱、梁に行うことを原則とする。
- (3) アンカーの埋め込み・定着長さを3.26.2表に示す。

(ナット付き)



(ナットなし)



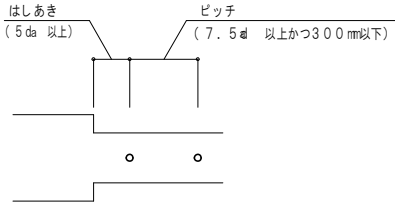
L : コンクリートの穿孔深さ、または接着系アンカーの埋め込み長さ
Le: アンカーの有効埋め込み長さ
Ld: アンカー筋の全長
Ln: 有効定着長さ
Da: 既存コンクリート躯体への穿孔径
da: アンカー軸部の直径、アンカー筋の呼び名
S1: 補強筋との継手長

3.26.1図 あと施工アンカー埋め込み・定着図

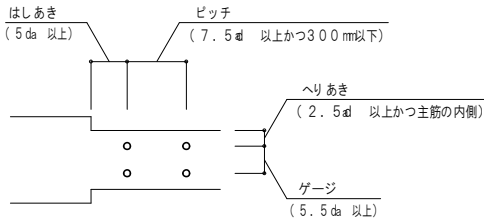
3.26.2表 あと施工アンカー埋め込み・定着長さ

区 分	位 置	用 途	長 さ	備 考
有効埋め込み長 (Le)	一般部	曲げモーメント	12・da	先端形状45° カット
		せん断力	7・da	
	開口補強部	曲げモーメント	12・da	
有効定着長 (Ln)	一般部	-	20・da	ナットあり
	開口補強部	-	S1+5・da	ナットなし

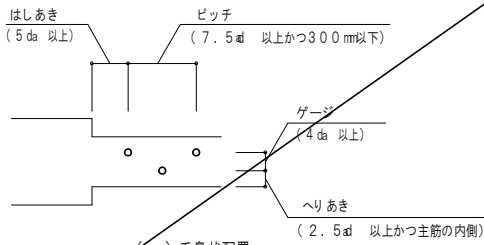
(あと施工アンカーの位置と間隔)



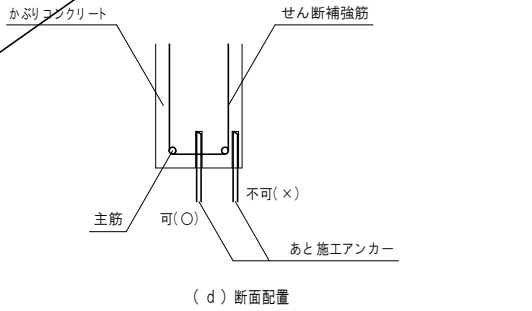
(a) シングル配置



(b) ダブル配置



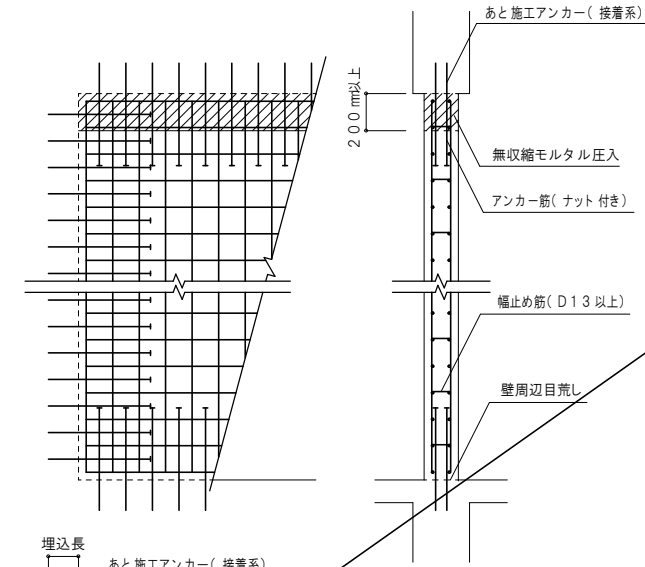
(c) 千鳥状配置



3.26.2図 あと施工アンカー配置図

3.26.5 新設補強壁

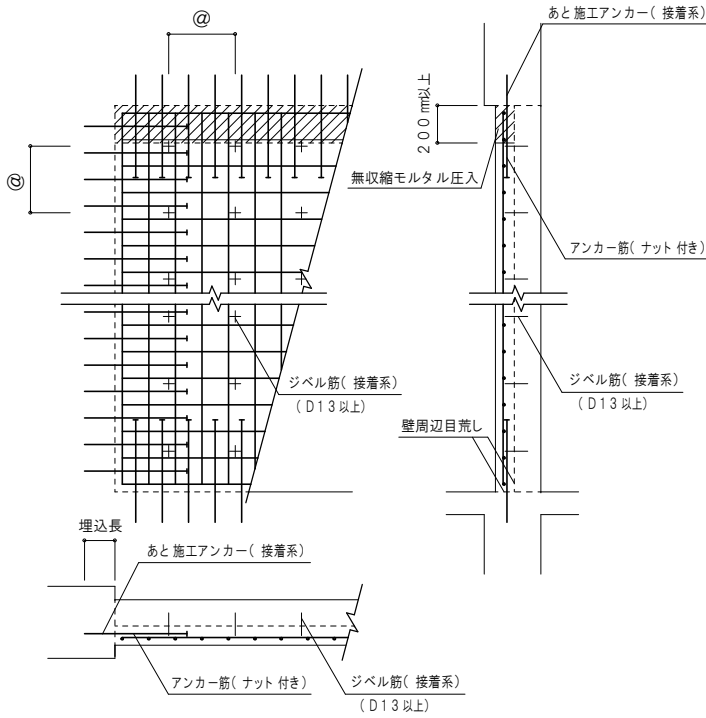
- (1) 新設補強壁の配筋は3.26.3図を標準とする。
- (2) 新設部と接する既存の壁面には目荒しを施す。
- (3) あと施工アンカーは接着系とし、開口補強部を除き、アンカー筋はナット付きとする。
- (4) 新設壁の頂部200mm以上は、無収縮モルタル圧入とする。



3.26.3図 新設補強壁要領図

3.26.6 増打ち補強壁ほか

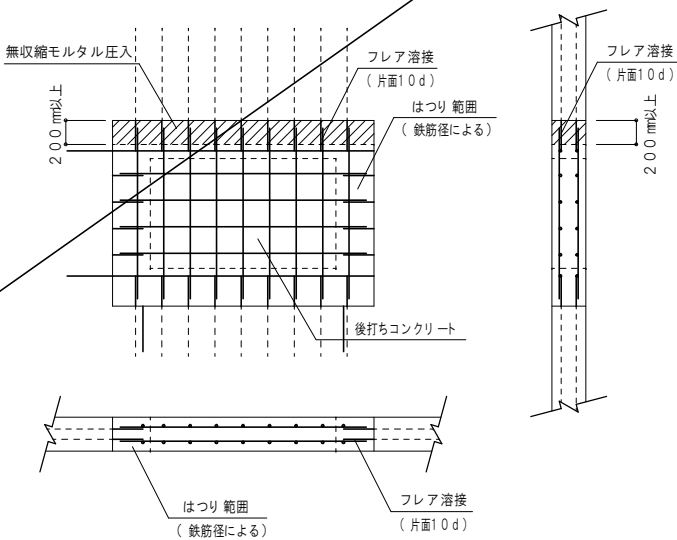
- (1) 増打ち補強壁の配筋は3.26.4図を標準とする。
- (2) あと施工アンカーは接着系とし、開口補強部を除き、アンカー筋はナット付きとする。
- (3) 増打ち部と接する既存の壁面を目荒しするほか、新旧の壁面にジベル筋を設けるものとし、配置間隔は図面による。
- (4) 増打ち壁の頂部200mm以上は、無収縮モルタル圧入とする。
- (5) 梁下端部や垂れ壁下端部の施工では、コンクリートのブリーディングや沈下を考慮して、打継目が一体となるように留意する。



3.26.4図 増打ち補強壁要領図

3.26.7 開口閉塞

- (1) 既存壁と増設壁との接合は、開口周囲のコンクリートをはつり、鉄筋同士をフレア溶接で行う。
- (2) 閉塞部分が既存梁、柱と接する部位は全てあと施工アンカーで接合する。
- (3) 閉塞部分の頂部200mm以上は、無収縮モルタル圧入とする。

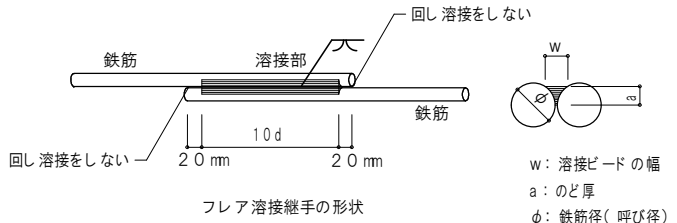


はつり範囲例 mm	
壁の鉄筋径	はつり幅
D13	200
D16	200
D19	300
D22	300
D25	300

3.26.5図 開口閉塞要領図

3.26.8 フレア溶接

- (1) 特記なき鉄筋のフレア溶接の継手形状を3.26.6図に示す。
(詳細は「鉄筋定着・継手指針[2020年版]」(土木学会)による。)
- (2) 継手長さは鉄筋径の10倍とし、回し溶接は行わない。



3.26.6図 フレア溶接継手形状

一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10221号 株式会社NJS九州総合事務所 一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録 第293963号 島 哲郎		北部清掃工場新揚水ポンプ所(仮称)新築本体その他工事 新揚水ポンプ所 構造細目共通図(複合構造物)(7) 鹿児島市建設局建築部建築課		-	S-07
--	--	---	--	---	------



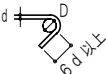


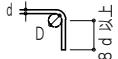


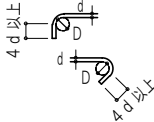

4 建築工事

4.1 鉄筋の折曲げ加工

鉄筋の折曲げ加工は、4.1.1表を標準とする。

- (1) Dは、折曲げ内法直径を示す。
(2) dは、鉄筋直径(呼び名)を示す。

4.1.1表 鉄筋の折曲げ形状及び寸法(末端部)

曲げ 角度	折 曲 げ 図	折曲げ内法直径 (D)		使 用 箇 所
		SD295, SD345		
		D16 以下	D19 ~D38	
180°		3 d 以上	4 d 以上	 柱、梁の主筋 D16以上の鉄筋
135°		3 d 以上	4 d 以上	  D13以下の鉄筋 あばら筋、帯筋、スパイラル筋
90°		3 d 以上	4 d 以上	  T形及びL形の梁の あばら筋
135° 90°		3 d 以上	4 d 以上	 90°・135° 幅止め筋

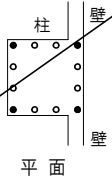
- (注) 1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。
2. 90°未満の折曲げの内法直径は図面による。

4.2 異形鉄筋の末端部

異形鉄筋の末端部には、4.2.1表によりフックを設ける。

4.2.1表 フックを設ける位置

部 位		継手方式		備 考
		重ね継手	圧接継手	
柱	四隅の主筋	——	1) 最上階の柱頭部	4.2.1図の●印 4.7.図参照
	上下階の柱断面が異なる場合	——	1) 下階の柱主筋を引き通すことができない柱頭部	4.2.1図の●印 4.7.図参照
	帯筋(HOOP)	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部	4.8.1図参照
梁	あばら筋(STP)	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部	4.11.1図参照
	煙突の鉄筋	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部	壁の一部となる場合を含む図参照
	幅止め筋	——	——	4.1.1表参照



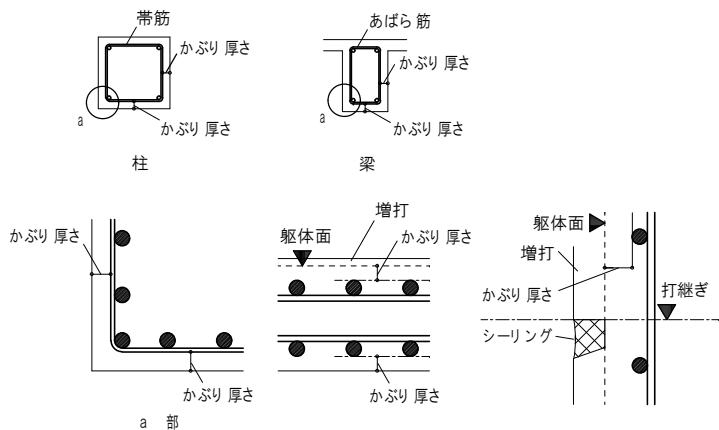
4.2.1図 異形鉄筋の末端部

4.3 鉄筋のかぶり及び間隔

4.3.1 かぶり厚さ

かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋(幅止め筋、組立筋を除く)の外面から躯体面までの距離(4.3.1図)をいう。

鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚さに許容施工誤差10mmを加えた厚さ以内に納めるものとする。



4.3.1図 鉄筋のかぶり厚さ

4.3.2 最小かぶり厚さ

最小かぶり厚さは、4.3.1表による。

- (1) 床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含まない。
(2) 柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保して最小かぶり厚さを定める。
(3) 溶接金網にも適用する。

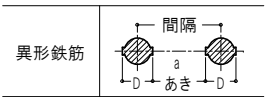
4.3.1表 鉄筋の最小かぶり厚さ(mm)

塩害区分 構造部分の種類		※ 通常の施工の場合	・ 塩害対策を必要とする場合
一 般	床、耐力壁以外の壁	30	40
	柱、梁、耐力壁	40	50
	底版	40	50
土、水に接する部分	柱、梁、床、壁	40	50
	底版、基礎	60	70
煙突等高熱を受ける部分		60	70
1: 打継目地部分は目地底より最小かぶり厚さを確保する。 2: 仕上なしの場合を標準とする。			

4.4 鉄筋相互のあき及び間隔

鉄筋相互のあきは、下記の最大値のもの以上とする。ただし、機械式継手及び溶接継手のあきは、図面による。

- (1) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
(2) 最小のあき25mm
(3) 異形鉄筋の直径(呼び径)の1.5倍以上



(注) D: 鉄筋の最外径 d: 鉄筋直径(呼び名)

4.4.1図 鉄筋のあき

4.4.1表 鉄筋径と鉄筋間隔の関係一覧

鉄筋径(mm)		鉄筋相互のあき: a			最小鉄筋芯間隔 a+D
鉄筋径 d	最外径 D	(1) 粗骨材径×1.25	(2) 最小あき	(3) 鉄筋径×1.5	
D10	11	32mm [粗骨材最大径25mmの場合]	25mm	15mm	43mm
D13	14			20mm	46mm
D16	18			24mm	50mm
D19	21			29mm	53mm
D22	25			33mm	58mm
D25	28			38mm	66mm
D29	33			44mm	77mm

4.5 鉄筋の継手及び定着

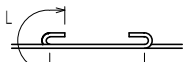
4.5.1 鉄筋の重ね継手

- (1) 鉄筋の重ね継手及び定着の長さは、4.5.1表による。
(2) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
(3) 主筋及び耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、40dとする。ただし、SD390、SD490を使用する場合は特記による。

4.5.1表 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種別	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm ²)	L ₁ (フックなし)		L _{1h} (フックあり)	
		L ₁ (フックなし)		L _{1h} (フックあり)	
SD295	24 27	35d		25d	
	30	35d		25d	
SD345	24 27	40d		30d	
	30	35d		25d	

- (注) 1. L₁、L_{1h}: フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2. フックありの場合のL_{1h}は、4.5.1図に示すようにフック部分Lを含まない。



4.5.1図

4.5.2 継手の特記事項

- (1) 継手は、極力応力の小さい位置に設ける。

4.5.3 鉄筋の定着

- (1) 鉄筋の定着の長さは、4.5.2表による。

4.5.2表 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の 種 別	コンクリートの 設計基準強度 F c (N/mm ²)	フックなし				フックあり			
		L ₁	L ₂	L ₃		L _{1h}	L _{2h}	L _{3h}	
				小梁	スラブ			小梁	スラブ
SD295	24, 27	35d	30d	20d	10d かつ 150mm 以上	25d	20d	10d	—
	30	35d	30d			25d	20d		
SD345	24, 27	40d	35d			30d	25d		
	30	35d	30d			25d	20d		

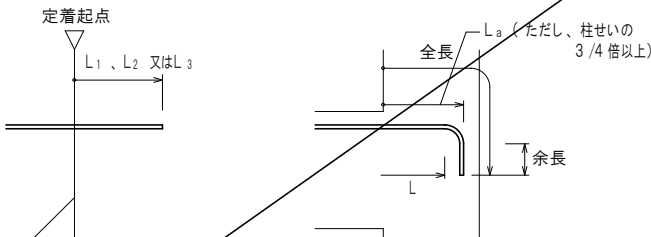
- (注) 1. L₁、L_{1h}: 2. 以外の直線定着の長さ及びフックありの長さ
2. L₂、L_{2h}: 割裂破壊の恐れのない個所への直接定着の長さ及びフックありの定着の長さ
3. L₃: 小梁及びスラブの下端筋の直筋の直線定着長さ(基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。)なお、片持小梁及び片持スラブの場合は20d及び10dを25d以上とする。
4. L_{3h}: 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
5. フックありの定着の場合は、4.5.2図(イ)に示すようにフック部分bを含まない。
また中間部での折曲げは行わない。

4.5.4 定着の方法

定着の方法は4.5.2図による。

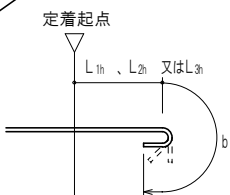
なお、(ロ)折曲げ定着の梁主筋の柱内折曲げ定着において、仕口内に縦に折曲げて定着する鉄筋の定着長さLが、4.5.2表のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を4.5.2表に示すフックなし定着長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを4.5.3表に示す長さをのみ込ませる。

- (注) 1. L_a、L_bは、4.5.3表の鉄筋の投影定着長さを示し、下記の条件を満たすものとする。
・ 梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上
・ 小梁主筋の大梁内定着においては、原則として大梁幅の1/2倍以上
・ スラブの梁内定着においては、原則として梁幅の1/2倍以上

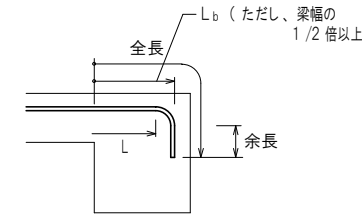


フックなし

梁主筋の柱内曲げ定着



フックあり



小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着

(イ) 直線定着

(ロ) 折曲げ定着

4.5.2図 定着の方法

4.5.3表 鉄筋の投影定着長さ

鉄筋の種別	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm ²)	L _a	L _b
SD295	24 27	15d	15d
	30	15d	15d
SD345	24 27	20d	15d
	30	15d	15d

- (注) 1. L_a: 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ
(基礎梁、片持ちスラブを含む。)
2. L_b: 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ
(片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。)

4 建築工事

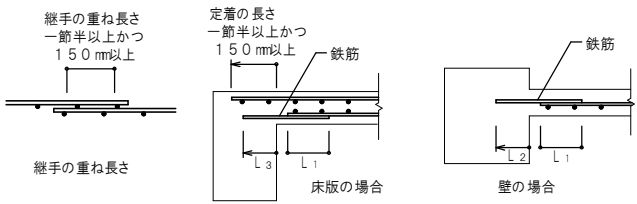
4.5.5 隣り合う継手の位置及び定着

- (1) 隣り合う継手の位置は、4.5.4表により、a寸法を守ること。
ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合を除く。

4.5.4表 隣り合う継手の位置

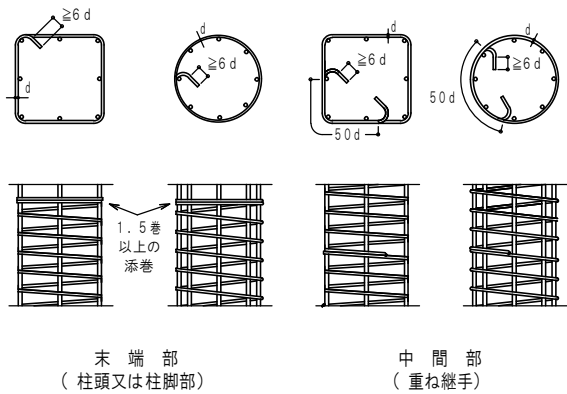
重ね継手	フック有りの場合		
		$a = 0.5L_{1h}$	$a \geq 0.5L_{1h}$
圧接継手	フックなしの場合		
		$a = 0.5L_1$	$a \geq 0.5L_1$
圧接継手	—		
		$a \geq 400\text{mm}$	

- (2) 溶接金網の継手及び定着は、4.5.3図による。



4.5.3図 溶接金網の継手及び定着要領

- (3) スパイラル筋の継手及び定着



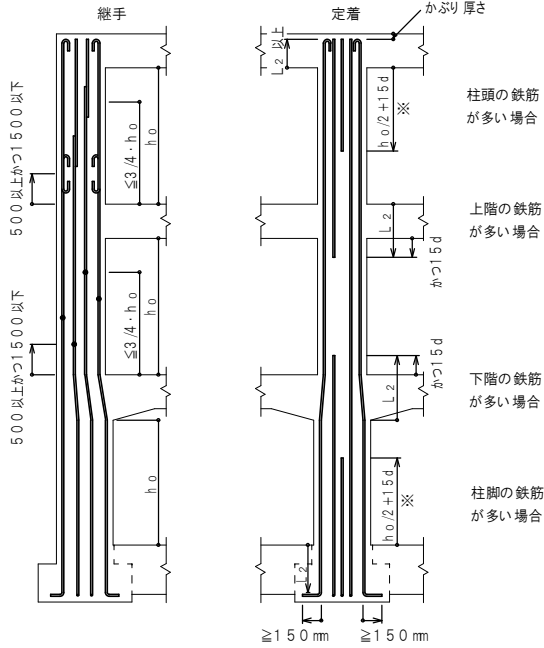
4.5.4図 スパイラル筋の継手及び定着要領

4.6 (欠番)

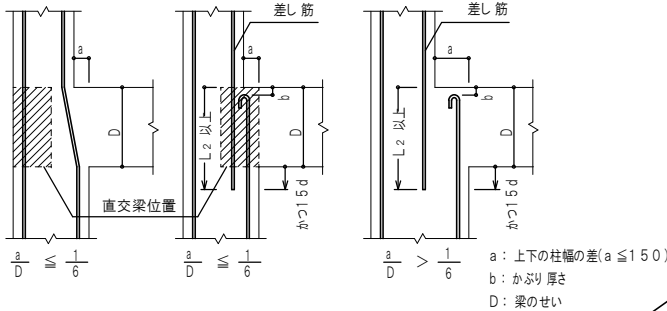
4.7 柱筋の継手及び定着

4.7.1 隣り合う継手の位置及び定着

- (1) 継手長さは L_1 とし、定着及び余長は、4.7.1図による。
(2) 柱頭定着長さ L_2 が確保出来ない場合は、図面による。
(3) 上下の柱断面が異なる場合の柱主筋の折曲げ及び定着は、4.7.2図による。
(4) 柱の継手及び圧接中心位置は、梁上端から500mm以上、1500mm以下かつ $3/4h$ (h は柱の内法高さ)以下とする。
(5) ※鉄筋のカットオフの位置及び長さは図面による。



4.7.1図 柱主筋の継手、定着及び余長

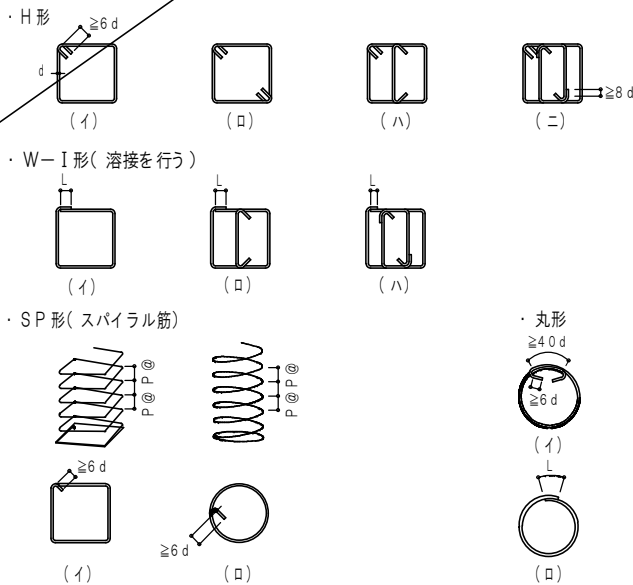


4.7.2図 上下の柱断面が異なる柱主筋の折曲げ及び定着

4.8 帯筋

4.8.1 帯筋の形状

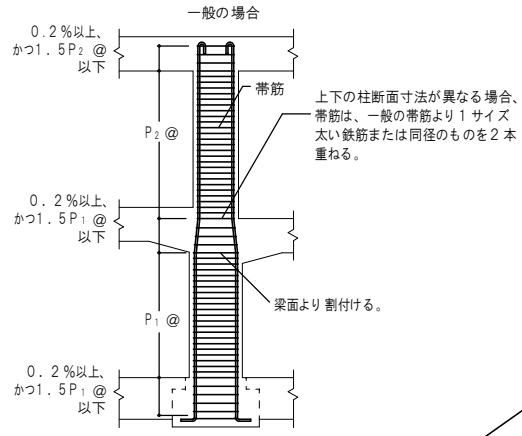
- (1) 帯筋の形状は、4.8.1図とし、種別は図面による。図面になければ下記による。
(a) H形を標準とする。
(b) H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。
(c) 溶接する場合の溶接長さ L は、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とし、組立前に行う。
(d) SP形において、柱頭及び柱脚の端部は、1.5巻以上の添巻きを行う。



4.8.1図 帯筋組立の形

4.9 帯筋の割付け

- (1) フック及び継手の位置は交互とする。
(2) 帯筋の割付けは、4.9.1図による。ただし、図面にある場合は図面による。
(3) 柱、梁の交差部(パネルゾーン)の帯筋のせん断補強比は、0.2%以上を確保し、補強筋間隔 $\leq 1.5P$ とする。



4.9.1図 帯筋の割付け

柱、梁の交差部の配筋例(0.2%確保)

柱幅(mm)	パネルゾーン
≤ 500	D10 @125
≤ 600	D10 @100
≤ 700	D10 @100
≤ 800	D13 @150
≤ 900	D13 @125
≤ 1000	D13 @125
≤ 1100	D13 @100
≤ 1200	D13 @100

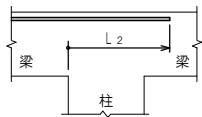
※1.5P₁、1.5P₂のピッチは150mm以下とする。

4.10 大梁筋の継手及び定着

4.10.1 大梁(基礎梁以外の大梁に限る)主筋の継手、定着及び余長

- (1) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項

- a. 梁主筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことが出来ない場合は、b.により柱内に定着することができる。
ただし、やむ得ず梁内に定着する場合は、4.10.1図による。



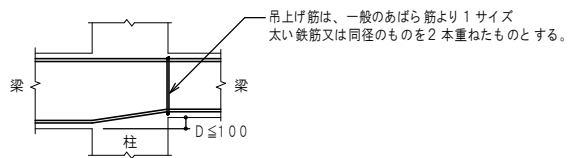
4.10.1図 梁主筋の梁内定着

- b. 梁主筋を、柱内に折曲げて定着する場合は次による。
なお、定着の方法は、4.5.4による。

上端筋: 曲げ下ろす。

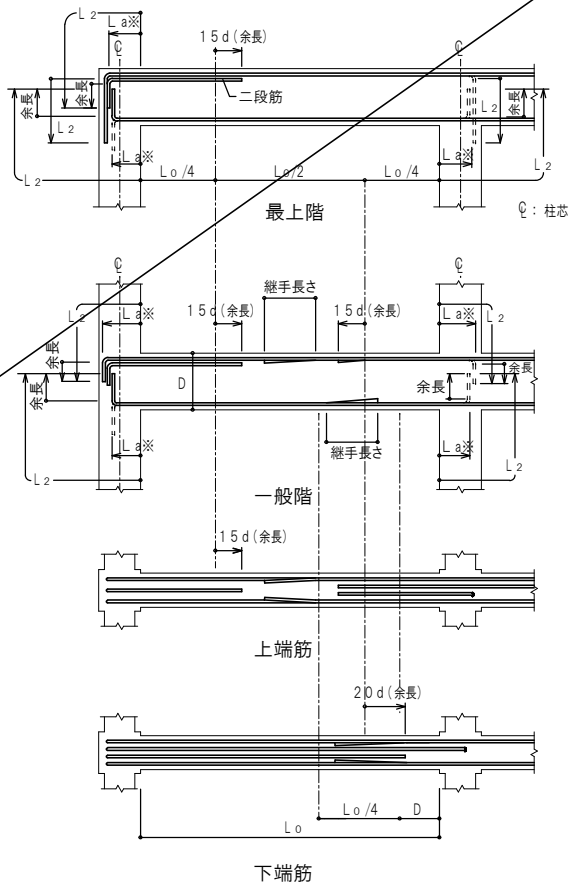
下端筋: 原則として曲げ上げる。

- c. 段違い梁は4.10.2図による。



4.10.2図 段違い梁

4.10.2 ハンチのない場合

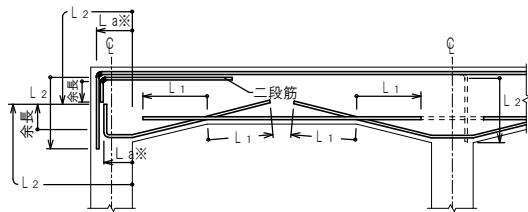


- (注) 1. 継手中心位置は次による。
上端筋: 中央 $L_0/2$ 以内
下端筋: 柱面より梁せい(D)以上離し、 $L_0/4$ を加えた範囲以内
2. 4.2異形鉄筋の末端部で定めた鉄筋には、フックを付ける。
3. 印は、継手及び余長を示す。
4. 破線は、柱内定着の場合を示す。
5. 梁筋カットオフ位置及び余長は図面による。
※ L_0 は、原則として、4.5.3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。

4.10.3図 大梁の重ね継手、定着及び余長

4.10.3 ハンチのある場合

- (1) 最上階の場合



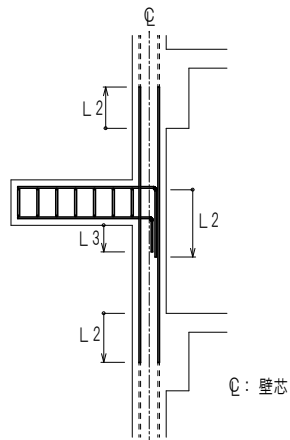
※ L_0 は、原則として、4.5.3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。

4.10.4図 ハンチのある大梁の定着及び余長(最上階)

4 建築工事

4.17 階段の配筋要領

- (1) 壁配筋は、図面による。
- (2) 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に曲げ下ろす。

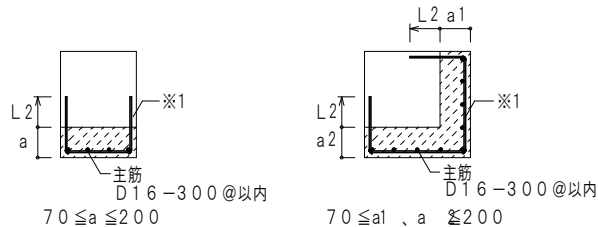


4.17.1 図 片持スラブ形階段配筋の定着

4.18 柱及び梁の増し打ち要領

4.18.1 柱

- (1) 増し打ちコンクリートの補強は、4.18.1 図による。
ただし、 $a < 70 \text{ mm}$ の場合、補強は行わない。 $200 \text{ mm} < a$ の場合は、図面による。

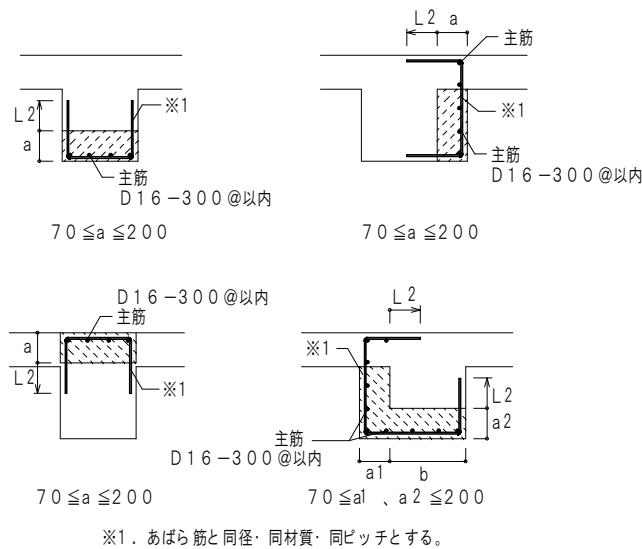


4.18.1 図 柱の増し打ち補強配筋

- (2) 増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合を除く。
- (3) 増し打ち部分の帯筋の定着長さは、 L 以上とする。
- (4) 増し打ち部分主筋の定着、重ね長さは、柱の主筋による。

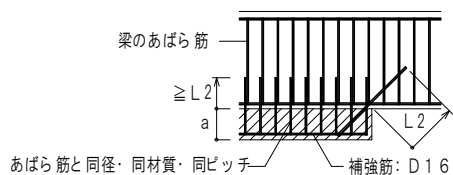
4.18.2 梁

- (1) 増し打ちコンクリートの補強は、4.18.2 図による。ただし、 $a < 70 \text{ mm}$ の場合、補強は行わない。 $200 \text{ mm} < a$ の場合は、図面による。



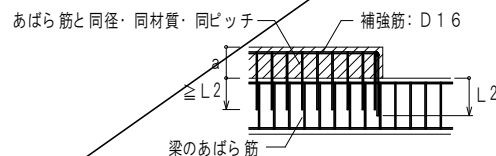
4. 18. 2 図 梁の増し打ち補強配筋

- (2) 増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合を除く。
- (3) 増し打ち部分のあばら筋の定着長さは、 L_2 以上とする。
- (4) 増し打ち部分の主筋の定着、重ね長さは、梁の主筋による。
- (5) 梁の上下の増し打ちが途中で終わる場合



4.18.3 図 梁の上下の増し打ち補強配筋(途中で終わる場合)

- (6) 梁の側面の増し打ちが途中で終わる場合

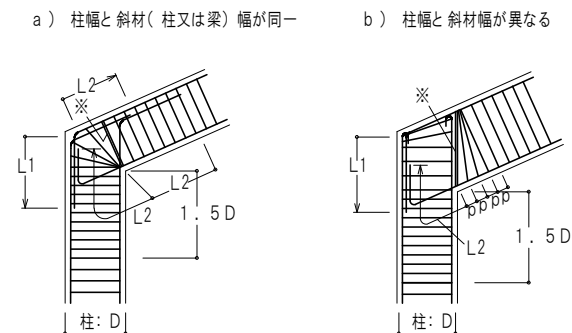


4.18.4 図 梁の側面の増し打ち補強配筋(途中で終わる場合)

4.19 勾配屋根の取り合い

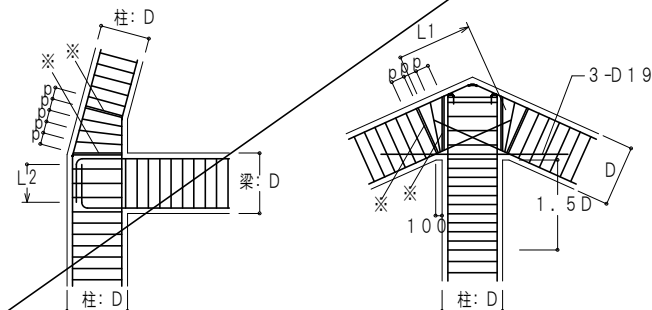
4.19.1 斜め柱・斜め梁の取り合い

- (1) ※印の鉄筋は、同径以上とし、かつダブル巻きとする。
- (2) 1．5 D の範囲の柱の帯筋は一段太いものか、またはダブル巻きとし@100以下とする。
- (3) 柱の取合い部における斜め梁のせん断補強筋中心間隔は、当該梁部材のせん断補強筋中心間隔 p 以下とする。

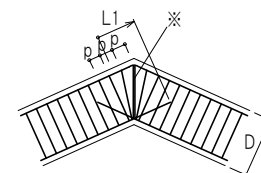


4.19.1 図 斜め柱・斜め梁の取り合い配筋

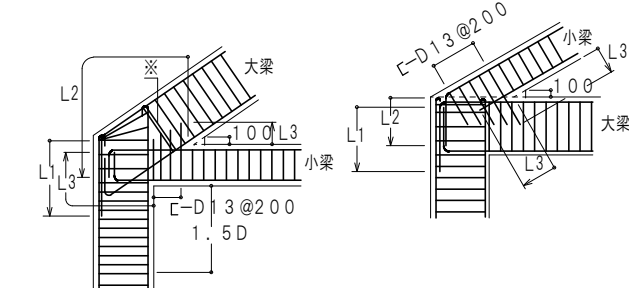
- c) 柱脚で斜材となる



- e) 梁が斜材となる上端筋は、連続筋とする。

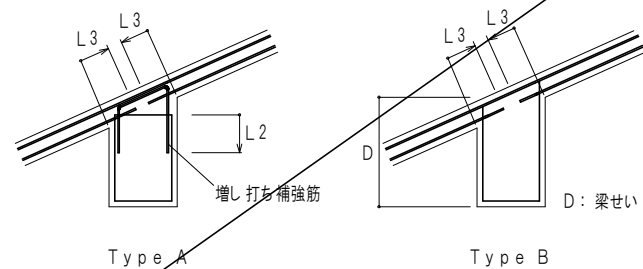


- f) 斜め大梁に小梁が接する場合 g) 大梁に斜め小梁が接する場合
柱筋はa)、b)に倣う。



4.19.2 梁と床版の取り合い

増し打ち補強要領は、4.19.2 図による。

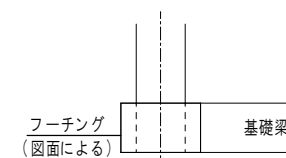


4.19.2 図 梁と床版の取り合い配筋

4.19.3 円柱の取り合い



- 1) 柱頭部で柱芯に梁が取り付く場合
 - 2) 柱頭部で柱外面に梁が取り付く場合



- 3) 柱脚部の円柱と基礎との
取合い

4.19.3 図 円柱の取り合い配筋

深層混合処理工法特記仕様書

1. 工事概要

本地業は、スラリー状のセメント系固化材（以下、固化材液と称す）を地盤に注入しながら、共回り防止翼を装着した
攪拌装置を用いて、原地盤土と機械的に攪拌混合し、固化材の固化反応により所要の強度を持つ改良柱体（以下、コラムと称す）
を築造するものである。

2. 一般事項

本工事は、本特記仕様書によるほか「2018年版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」（日本建築センター）
（ベターリビング）による。

3. 特記事項

- (1) コラムの径、掘削深度（設計コラム長＋空掘長）、本数配置等は設計図書による。ただし、コラムの径・長さ・本数・位置及び
固化材液の配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切だと判断される場合は、監督員の承認の下に変更するこ
とができる。
- (2) コラムの設計基準強度はF_c＝1200 kN/m²とする。
- (3) 設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理および品質検査を実施する。
- (4) 本工事は、改良体強度の品質が変動係数2.5%以下であることを「建設技術審査証明協議会（平成13年1月10日設立）」
に属する機関で証明された技術審査証明取得工法とし、事前にその証明書を監理者に提出し、承認を得ることとする。
又、品質確保の為、技術審査証明取得業者が常駐管理の元に施工を行う。

4. 施工計画

- (1) 本工事施工業者は、本工法の施工技術に精通したものとす。
- (2) 施工計画書
工事に先立ち、施工計画書を監督員に提出する。施工計画書は、次の事項を明記する。

・工事件名及び工事場所

・施工管理項目

・コラム仕様及び数量

・固化材配合条件

〔コラム径、掘削深度（設計コラム長＋空掘長）、本数、
設計基準強度〕

・施工機器

・工事期間及び工程

・品質検査

・工事の組織(建築請負業者の本工事責任者、コラム施工業者名
及び責任者、各種作業の主たる従事者)

・土質柱状図

・施工手順

・コラム伏図

・技術審査証明書（写）

5. 施工

- (1) 作業地盤は、施工機械が傾斜・転倒しないよう養生する。
- (2) 基本的な施工手順を以下に示す。施工の障害になる事項が出現した場合は、別途検討する。

a. 攪拌混合装置をコラム心に合わせる。

b. 固化材液を吐出せずに、空掘り部を所定の深度まで掘進する。

c. 固化材液を吐出しながら掘進・攪拌混合する。

d. 注入掘進工程が終了したら、固化材液の吐出を停止し先端部の練り返しを行う。

e. 先端練り返し工程が終了したら、攪拌軸を逆回転し引上げ攪拌混合する。
- (3) 設計図書に示された支持地盤に着底する長さを実施コラム長という。
- (4) 本工事により排出される発生残土は場内処分を原則とする。
- (5) 施工に対して疑義が生じた場合は、ただちに監督員と協議し、その指示を受ける。

6. 施工機械

- (1) 共回り現象を防止する機構を有し、固化材と原位置土を確実に攪拌混合できる攪拌装置を用いること。
- (2) 所定の施工管理項目を計測、記録できる管理装置を用いること。
- (3) 改良機本体は本工事の施工仕様を満足させる施工制御機器を装備したもので、自走式とする。
- (4) ミキシングプラントは、所定吐出量を十分供給できるものとする。

7. 配合管理

- (1) 固化材液に使用する材料は、セメント又はセメント系固化材とする。
- (2) 配合強度
変動係数を25%と想定し、9項に規定する抜き取り箇所数N、合格確率 80%とした下表を用いて設定する。

N	1	2	3	4～6	7～8	9
α	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594

X_f＝α×F_c [α：割り増し係数、X_f：配合強度]

- (3) 室内配合試験

固化材液の配合（W／C）と使用量（添加量）は、室内配合試験の結果に基づいて、現場室内強度比を考慮して、配合
強度を満足するように決定する。あるいは正確に土質を把握し、かつその土質に対する既存データがある場合は、その結
果を用いて添加量を決定する。

設計段階で想定する添加量 【 400 kg／m³ 】

8. 施工管理

- (1) 施工の安定性を確保するため下記に示す項目について施工管理する。

① 形状・寸法

：鉛直性
コラム芯
掘削深度
コラム径

改良機本体のリーダー内に設置された傾斜計で管理する
事前にコラム芯にマークを設ける
深度計で計測し記録する
攪拌装置の形状・寸法を記録する

② 固化材

：材料計量
固化材液の密度
固化材液の添加量又はスラリーの吐出量

水、固化材の重量
マッドバランス等
スーパースystemによる施工管理又は流量計で計測し、記録する

③ 攪拌混合度

：攪拌混合回数又は掘進・引上げ速度

スーパースystemによる施工管理又は速度計で計測し、記録する

④ 支持地盤

：仕事量又は掘進速度・オーガー電流値（又はトルク値）

スーパースystemによる施工管理又は速度計・電流計（又はトルク計）で計測し、記録する
（着底判定(仕事量・電流値・トルク値)は、先行コラムの施工状況により、監督員と協議して決定する）

- (2) コラムの芯ズレ

コラムの芯ズレが許容値を超えた場合は、監督員（監理者）と協議し、設計検討により応力照査を行った上、安全であると
判断した場合、設計図書で示された仕様を満足しているものとする。

- (3) 施工の立会い

建築工事の請負者は、本地業責任者（請負業者の中から選定）及び施工責任者を定め、両者は本地業の施工中は立ち会う
ものとする。

9. 品質検査

- (1) 検査対象群、検査対象層及び調査箇所数

① 検査対象群は概ねコラム300本を1単位とする。土層毎に検査対象層を決めるが、最小層厚を0.5mとする。

② 検査対象層は 【礫混じりシルト質砂】 【砂質シルト】 【粘土質シルト】 であり、設計対象層を 【粘土質シルト】 とする。
ただし、設計対象層以外の平均強度が設計対象層の平均強度より小さい場合は、
最も小さい平均強度の層を設計対象層とする。
- ③ 調査箇所数（1検査対象群に対して）

頭部コア 100コラムに1ヶ所
深度コア 100コラムに1ヶ所
コア採取方法は、モールドコア採取とする。
- (2) 合否の判定

① 設計対象層についての抜取箇所数をNとする。1ヶ所あたりは3個の供試体を採取し、その平均強度をその箇所の強度とする。

② 一軸圧縮試験は公的機関あるいは検査員立会いの下に行うものとする。

③ 検査手法は品質のバラツキを想定する場合の検査手法Aによる。

④ 検査手法Aによる品質検査

合否の判定は検査対象層におけるNヶ所（抜取箇所数）の一軸圧縮試験結果が下式を満足すれば合格とする。

$$\bar{X}N \geq XL = F_c + k_a \cdot \sigma$$

$\bar{X}N$ ： Nヶ所の一軸圧縮強度の平均値 (kN/m²)

XL： 合格判定値 (kN/m²)

F_c： 設計基準強度 (kN/m²)

k_a： 合格判定係数

σ ： 標準偏差 (kN/m²) = $v \cdot \bar{q}_{ud}$ $\left(\begin{array}{l} v：変動係数、品質確認書により想定する \\ \bar{q}_{ud}：想定した平均一軸圧縮強さ (kN/m^2) \end{array} \right)$

抜き取りヶ所数N	1	2	3	4～6	7～8	9
合格判定係数 k _a	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

10. 報告

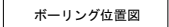
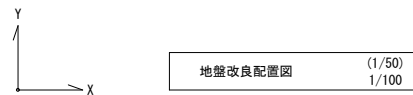
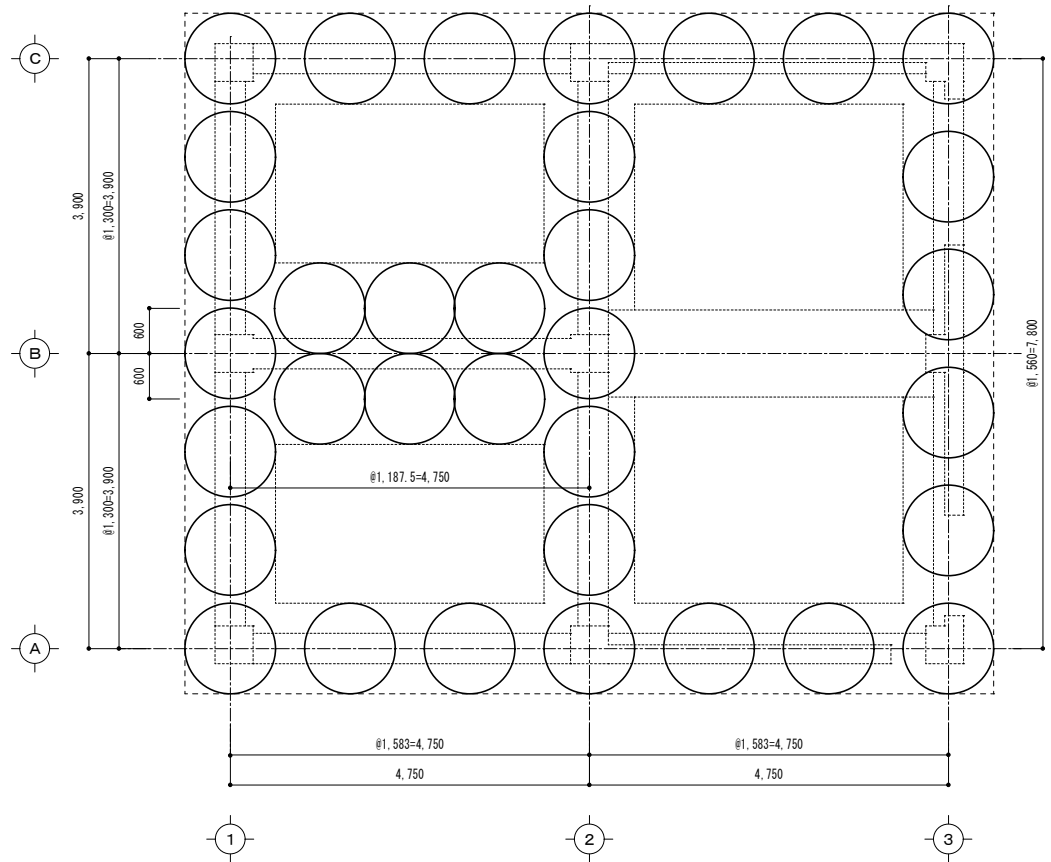
工事完了後、次の項目について報告書をまとめ、監督員に3部提出する。

- ① コラムの伏図及び番号
- ② コラムの施工日
- ③ コラムの径及び実施コラム長
- ④ 掘削深度
- ⑤ 攪拌混合回数又は、掘進速度及び引き上げ速度
- ⑥ 仕事量又は、掘進速度及び電流値（又はトルク値）
- ⑦ 固化材液の配合と固化材の使用量
- ⑧ コア供試体の一軸圧縮強度試験結果
- ⑨ 合否判定結果

11. 六価クロム溶出試験

本工事は、施工前において六価クロム溶出試験を行い、その結果が満足することを確認する。

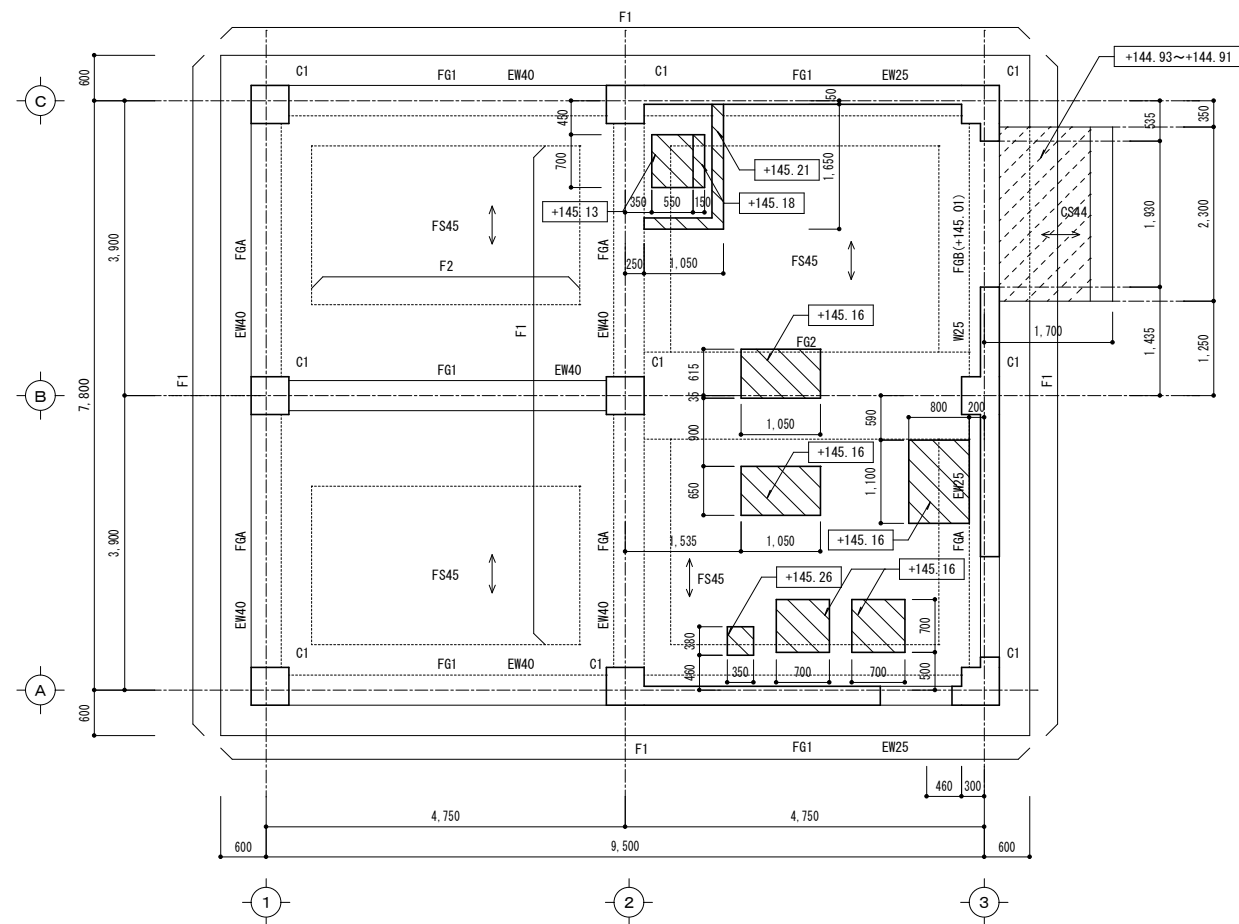
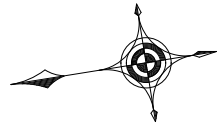
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10221号 株式会社NJS九州総合事務所 一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録 第293963号 島 哲郎		北部清掃工場新揚水ポンプ所（仮称）新築本体その他工事 新揚水ポンプ所 深層混合処理工法特記仕様書 鹿児島市建設局建築部建築課		—	S-13

[illegible]

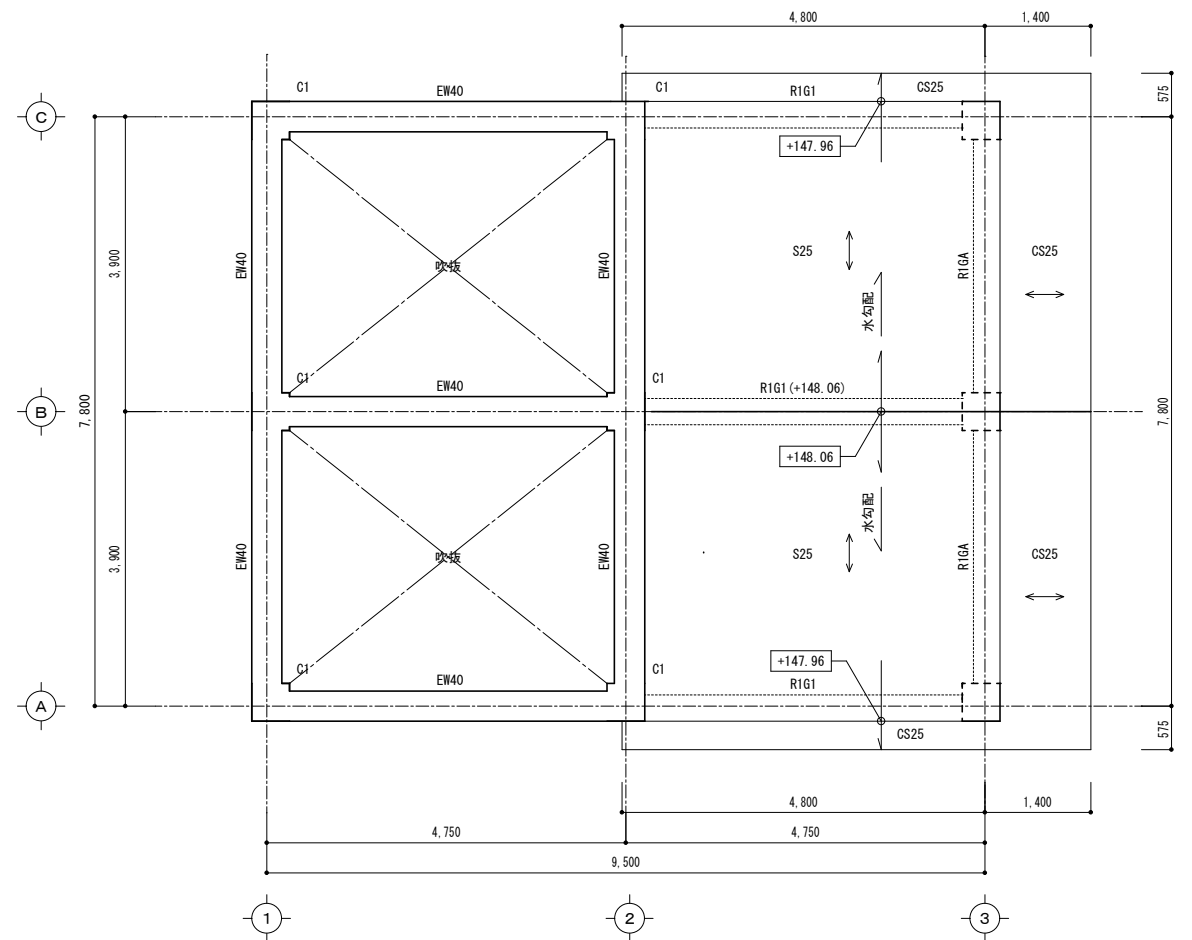
地盤改良仕様		固化材：セメント系スラリー
記号	○	
改良径	1200 φ	
設計強度	900kN/m ²	
施工地盤高	TP+144.56	
空掘り長	0.55m	
改良長	14.22m	
本数	34本	
添加量	240kg/m ³	
特記事項		
<p>1. 地盤改良の目的は、構造物の基礎とする。</p> <p>2. 改良処理機は、改良コラムが、支持層（N値20以上のシラス）まで到達し、上部荷重の伝達で確実に行える能力及び管理機能をもつ処理機とする。</p> <p>3. 地盤改良工法は、深層混合処理工法で単軸施工とする。</p> <p>4. 地盤改良工法の品質管理（配合管理・施工管理・品質検査）方法は、建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」（編集・発行：日本建築センター）によるものとする事。</p> <p>5. 固化材の種類及び添加量は、上記の仕様を基本とし室内配合試験結果により監督員と協議の上決定する。</p>		

※ () 内の縮尺はA 1 番出力時を示す。

一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10221号 株式会社 NJS九州総合事務所 一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録 第293963号 島 哲郎	北部清掃工場新揚水ポンプ所（仮称）新築本体その他工工事 新揚水ポンプ所 ポーリング柱状図	図示 S-14
	鹿児島市建設局建築部建築課	



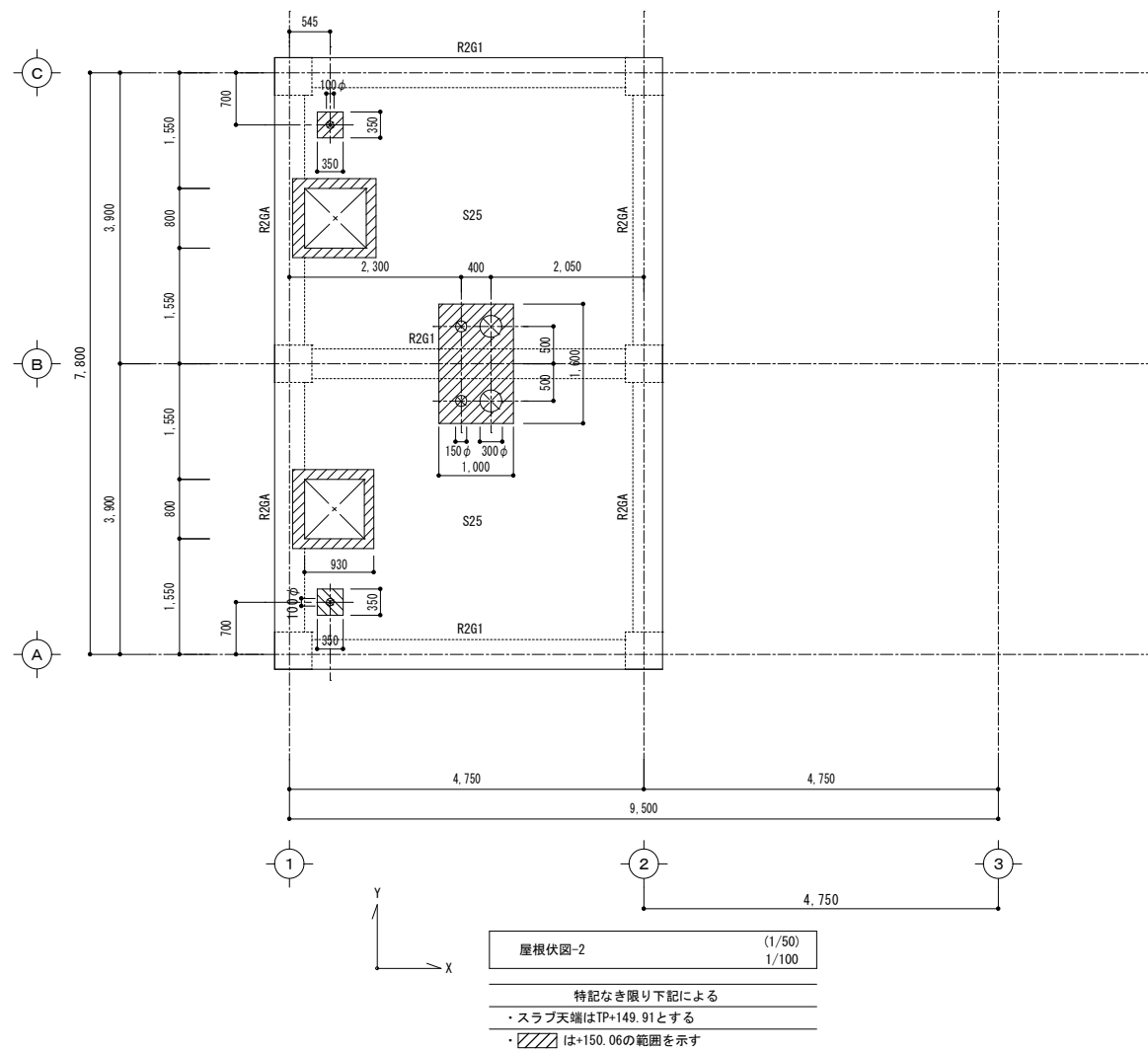
基礎伏図	(1/50) 1/100
特記なき限り下記による	
・ GL = 1FL-300~-500=144.76~144.56	
・ 1FL = +145.06	
・ 基礎下端は1FL-750とする	
・ 地中梁天端は+144.76とする	
・ ()内は梁天端レベル (TP±) を示す	
・ スラブ天端は+144.76とする	
・ □内はスラブ天端レベル (TP±) を示す	
・ ≡印はスラブの主筋方向を示す	
・ ▨は設備基礎を示す	
・ □内は設備基礎天端レベル (TP±) を示す	



屋根伏図-1	(1/50) 1/100
特記なき限り下記による	
・ 梁天端は+147.96とする	
・ ()内は梁天端レベル (TP±) を示す	
・ スラブ天端レベルは水勾配による	
・ □内はスラブ天端レベル (TP±) を示す	
・ ≡印はスラブの主筋方向を示す	

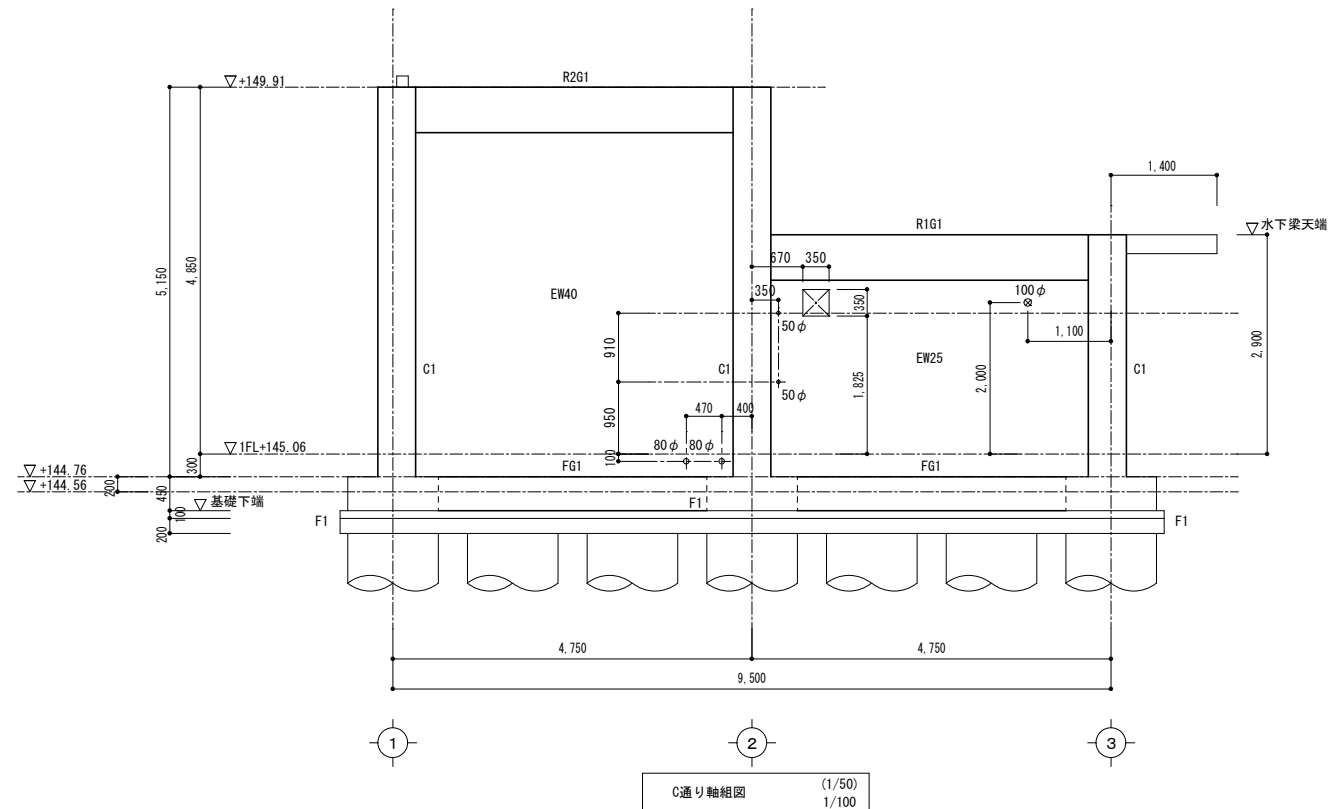
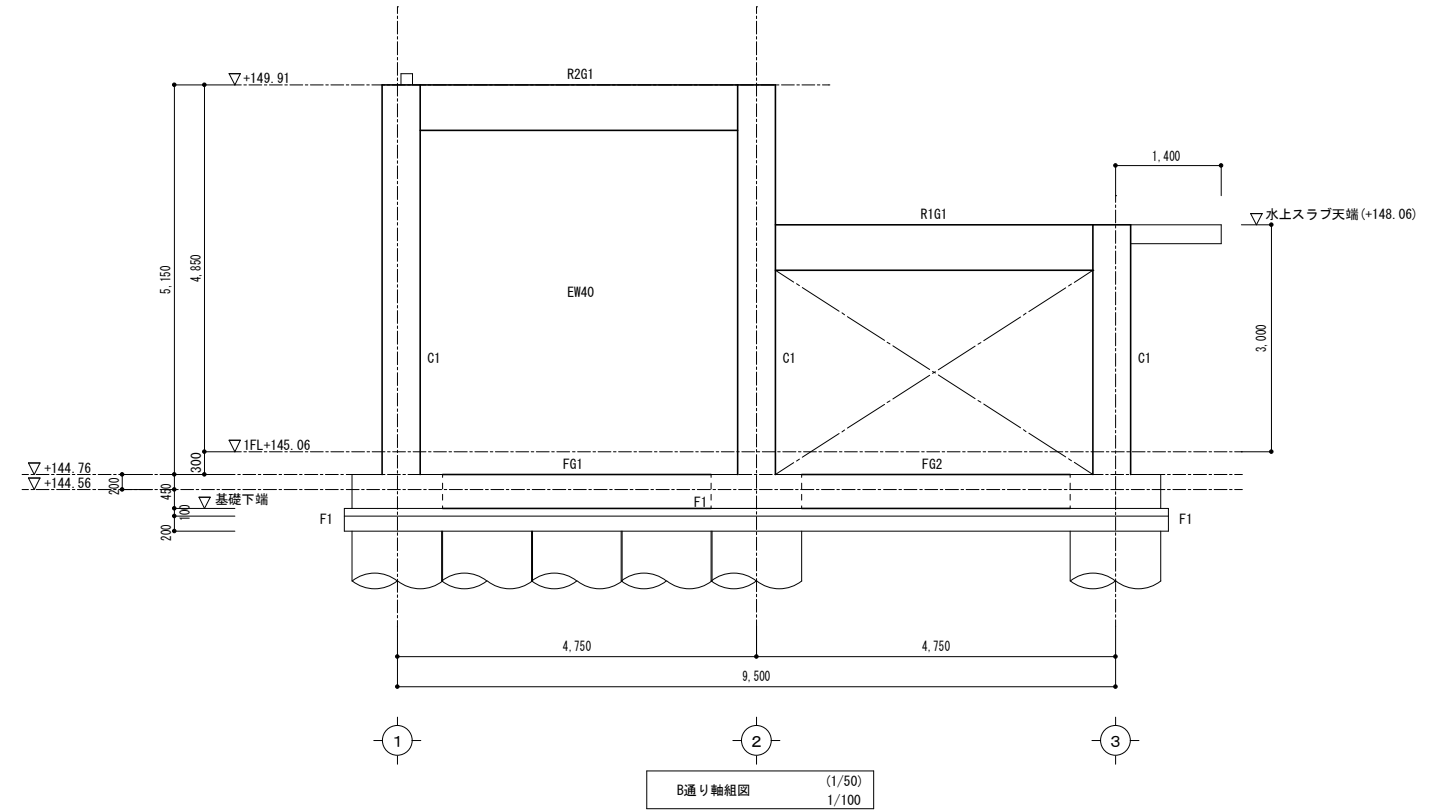
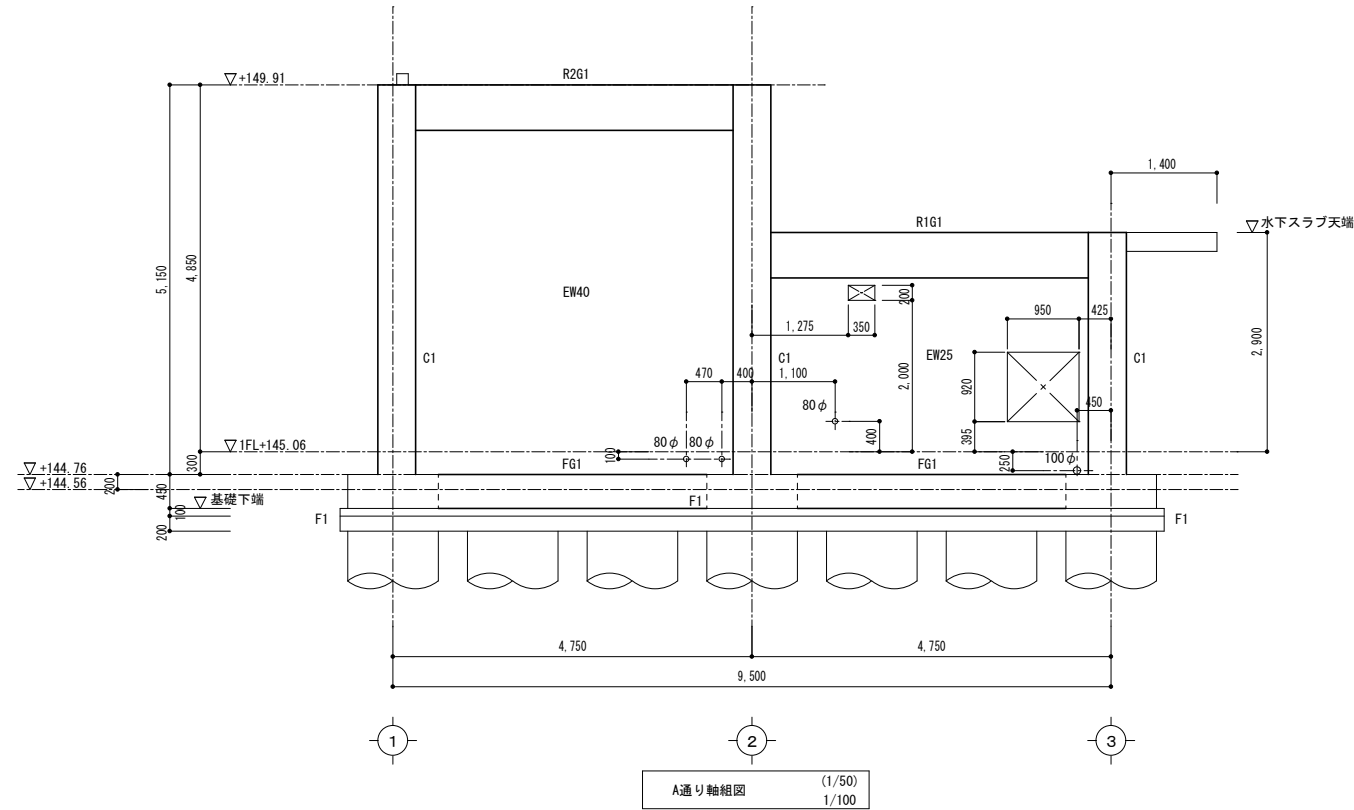
※ () 内の縮尺は A 1 番出力時を示す。

一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10221号 株式会社 N J S 九州総合事務所 一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録 第293963号 島 哲郎		北部清掃工場新揚水ポンプ所 (仮称) 新築本体その他工事 新揚水ポンプ所 基礎伏図、屋根伏図-1 鹿児島市建設局建築部建築課		(1/50) 1/100 S-15
--	--	---	--	-------------------------



※ () 内の縮尺はA 1 番出力時を示す。

一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10221号 株式会社NJS九州総合事務所 一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録 第293963号 島 哲郎	北部清掃工場新揚水ポンプ所（仮称）新築本体その他工事		
	新揚水ポンプ所	(1/50)	S-16
	屋根伏図-2	1/100	



特記なき限り下記による

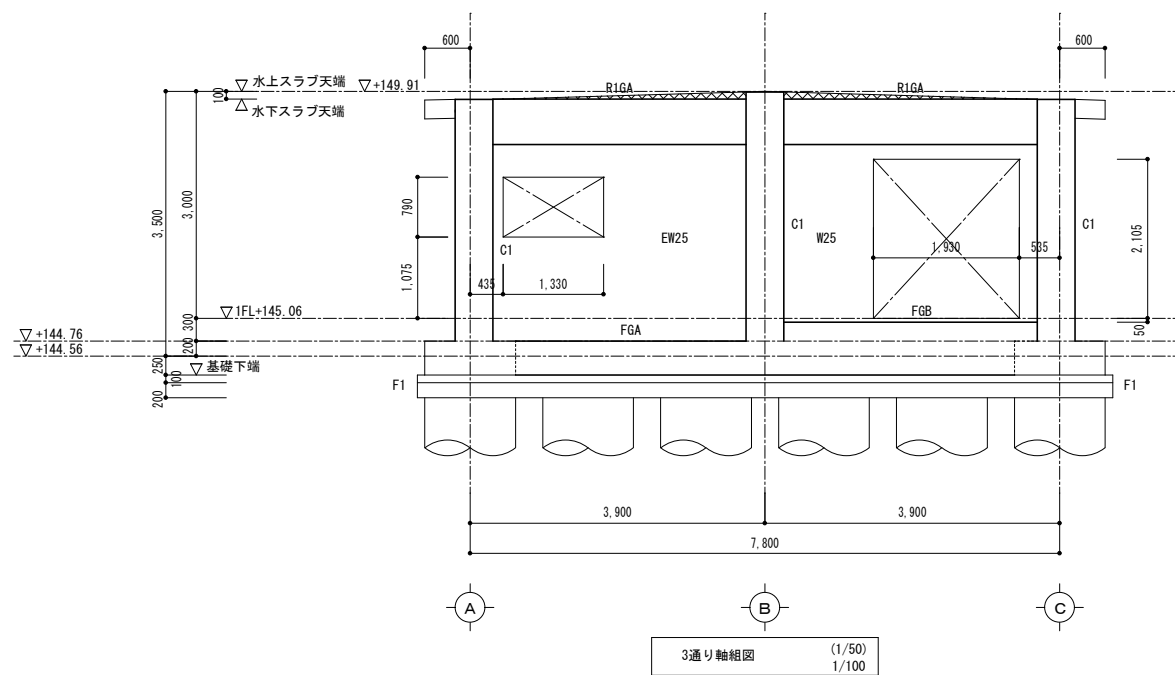
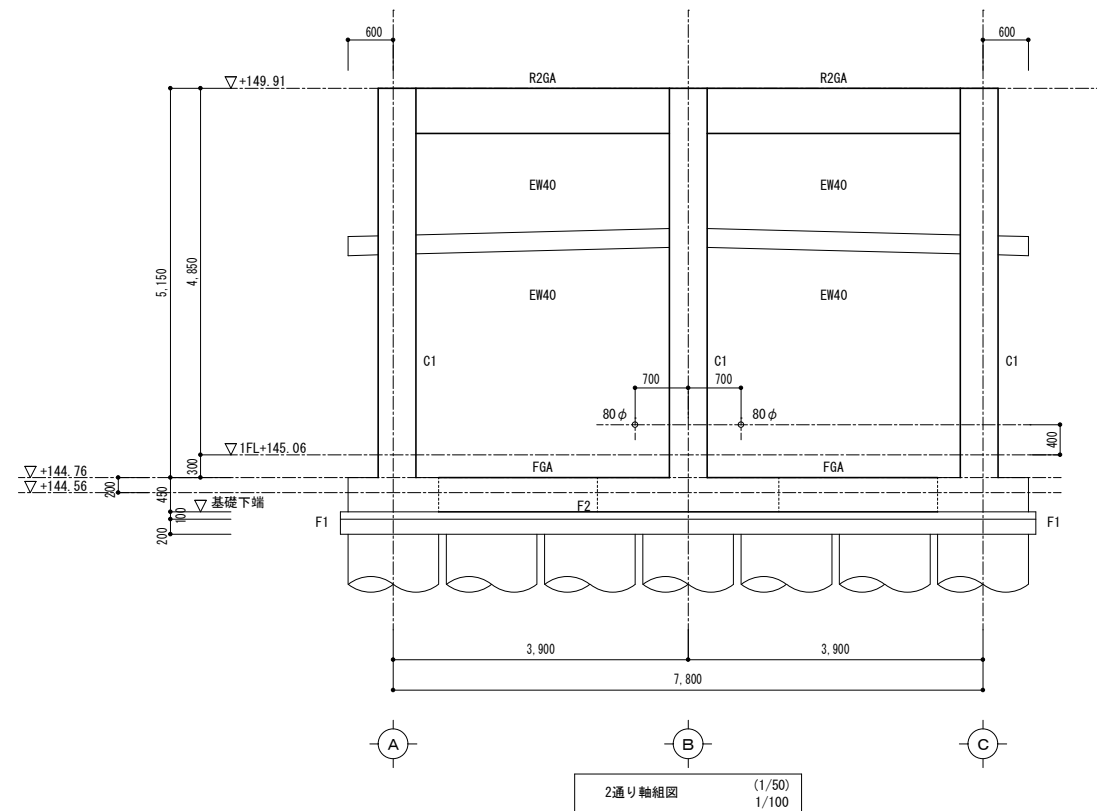
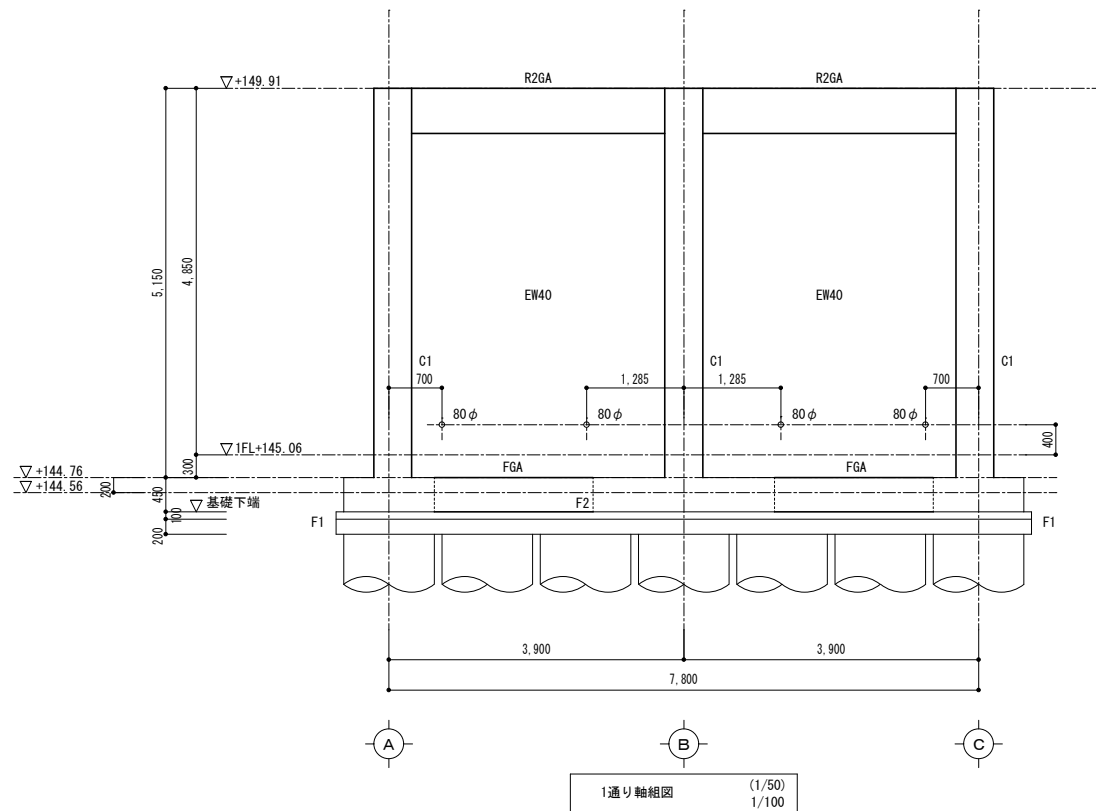
・GL = 1FL-300~-500=144.76~144.56

・基礎下端は1FL-750とする

・XXXX印は増打の範囲を示す

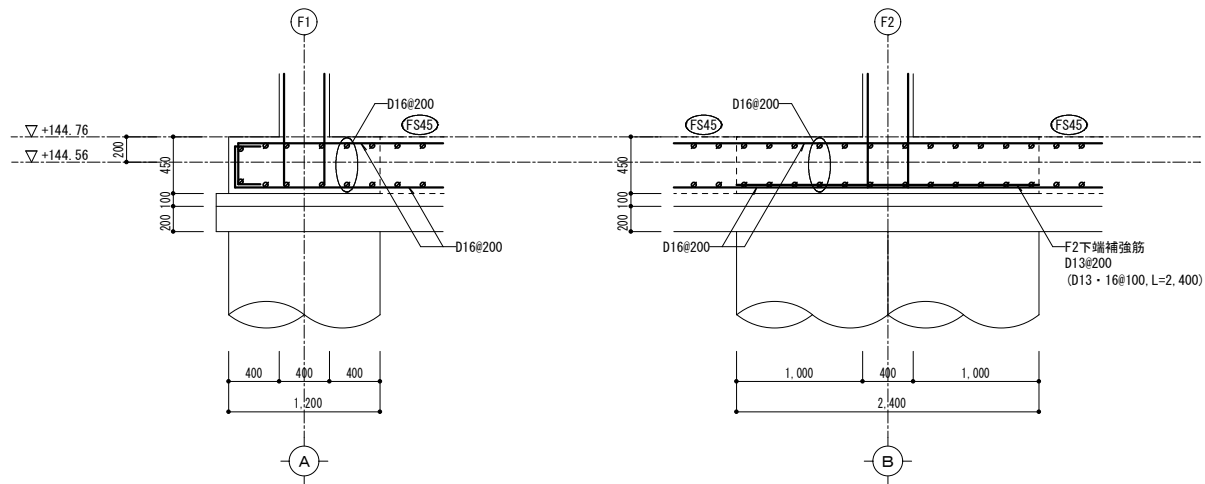
※ () 内の縮尺はA 1番出力時を示す。

一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10221号 株式会社NJS九州総合事務所 一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録 第293963号 島 哲郎	北部清掃工場新揚水ポンプ所（仮称）新築本体その他工事		
	新揚水ポンプ所	(1/50)	S-17
	軸組図-1	1/100	
	鹿児島市建設局建築部建築課		

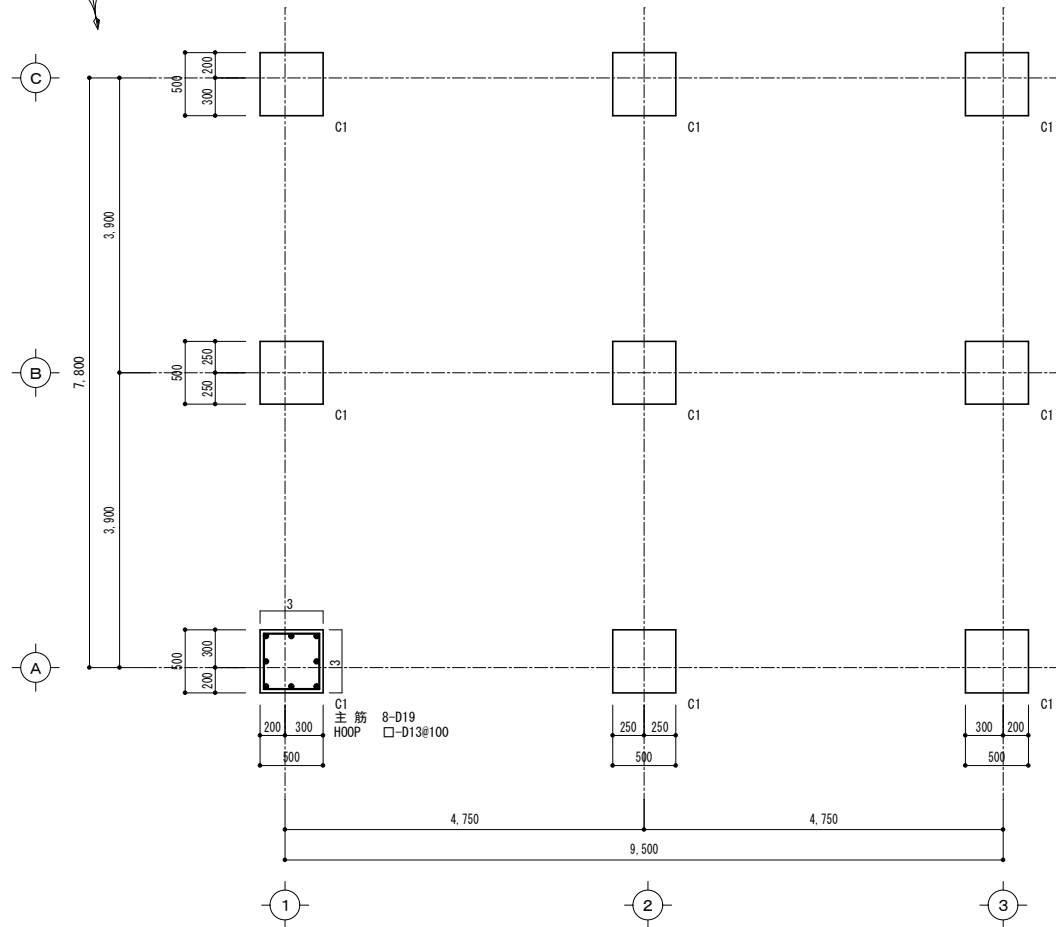
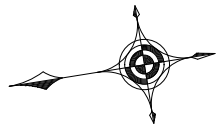
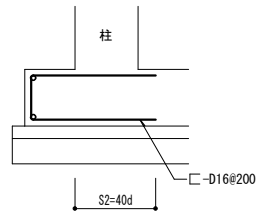


特記なき限り下記による
・GL = 1FL~300~-500=144.76~144.56
・基礎下端は1FL~750とする
・XXXX印は増打の範囲を示す

基礎リスト (1/30) 1/60



柱幅範囲F1配筋図 (1/30) 1/60



柱リスト (1/30, 50) 1/60, 100

特記なき限り
・仕口内H00Pは口-D13@150とする

地中梁リスト (1/30) 1/60 特記なき限り 巾止メ筋はD13@1,000とする。

記 号	FG1	FG2			FGA	FGB
位 置	全 断 面	2 端	中 央	3 端	全 断 面	全 断 面
部材寸法	400×450	1150×450			400×450	400×700
上端筋	3-D19	10-D19	8-D19	8-D19	3-D19	4-D19
断面						
下端筋	3-D19	8-D19	10-D19	8-D19	3-D19	4-D19
スタラップ	□ -D13@200	■ -D13@200			□ -D13@200	□ -D13@200
腹 筋	-	-			-	2-D13
備 考						

梁増打要領図	梁主筋上下位置図(屋根・梁)	梁主筋上下位置図(地中梁)
<ul style="list-style-type: none">斜線部分は増打を示すa ≥ 70		

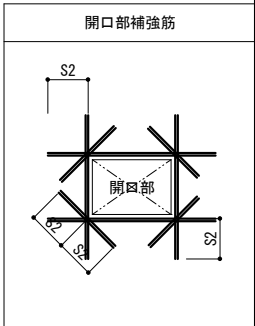
大梁リスト	(1/30) 1/60	注1) 巾止め筋は、D13@1,000とする。		
記 号	R1G1	R1GA	R2G1	R2GA
位 置	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面
部材寸法	350×600	350×600	400×600	400×600
上端筋	3-D19	3-D19	4-D19	4-D19
断面				
下端筋	3-D19	3-D19	4-D19	4-D19
スタラップ	□ -D13@200	□ -D13@200	□ -D13@200	□ -D13@200
腹 筋	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13
備 考				

スラブリスト

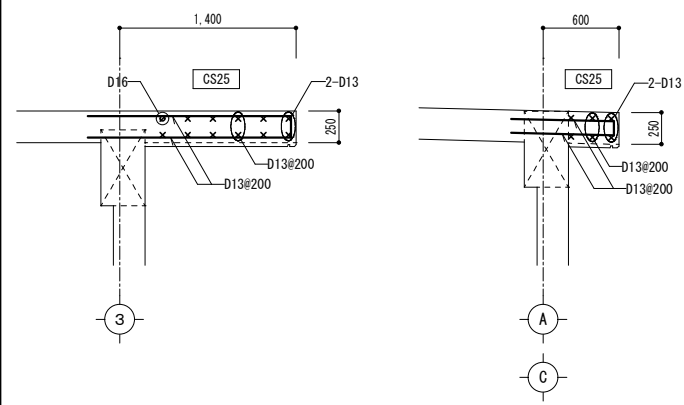
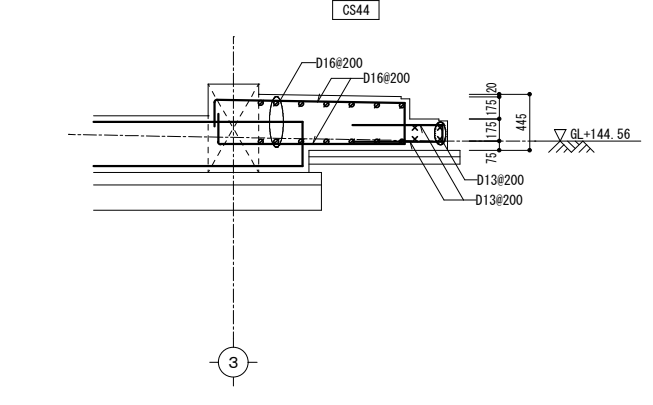
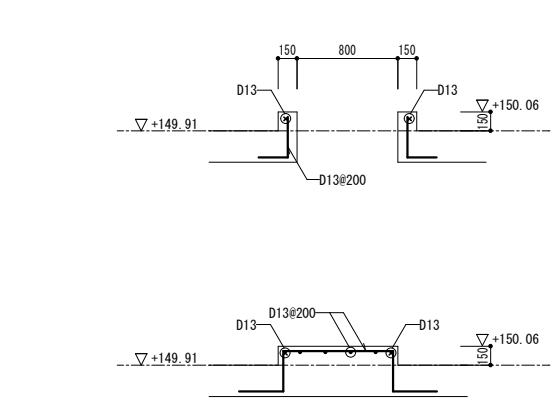
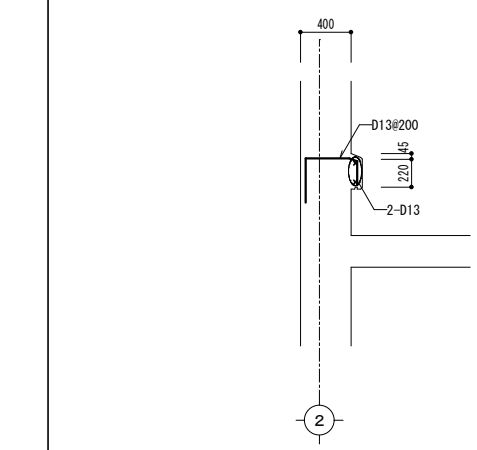
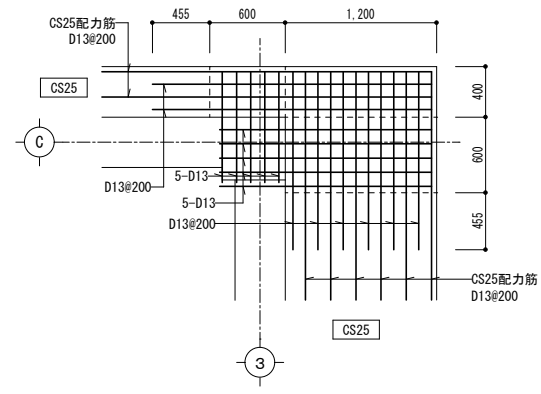
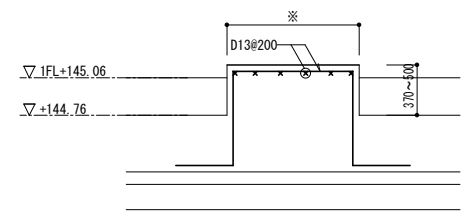
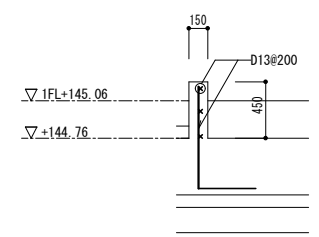
符 号	版 厚	位 置	主筋方向 (短辺方向)	配力筋方向 (長辺方向)	備 考
FS45	450	上端筋	D16@200	D16@200	開口補強筋 タテ・ヨコ筋 4-D16, ナナメ筋 2-D16
		下端筋	D16@200	D16@200	
S25	250	上端筋	D13@200	D13@200	
		下端筋	D13@200	D13@200	
CS25	250	上端筋	D13@200	D13@200	
		下端筋	D13@200	D13@200	
CS44	445~425	上端筋	D16@200	D16@200	
		下端筋	D16@200	D16@200	

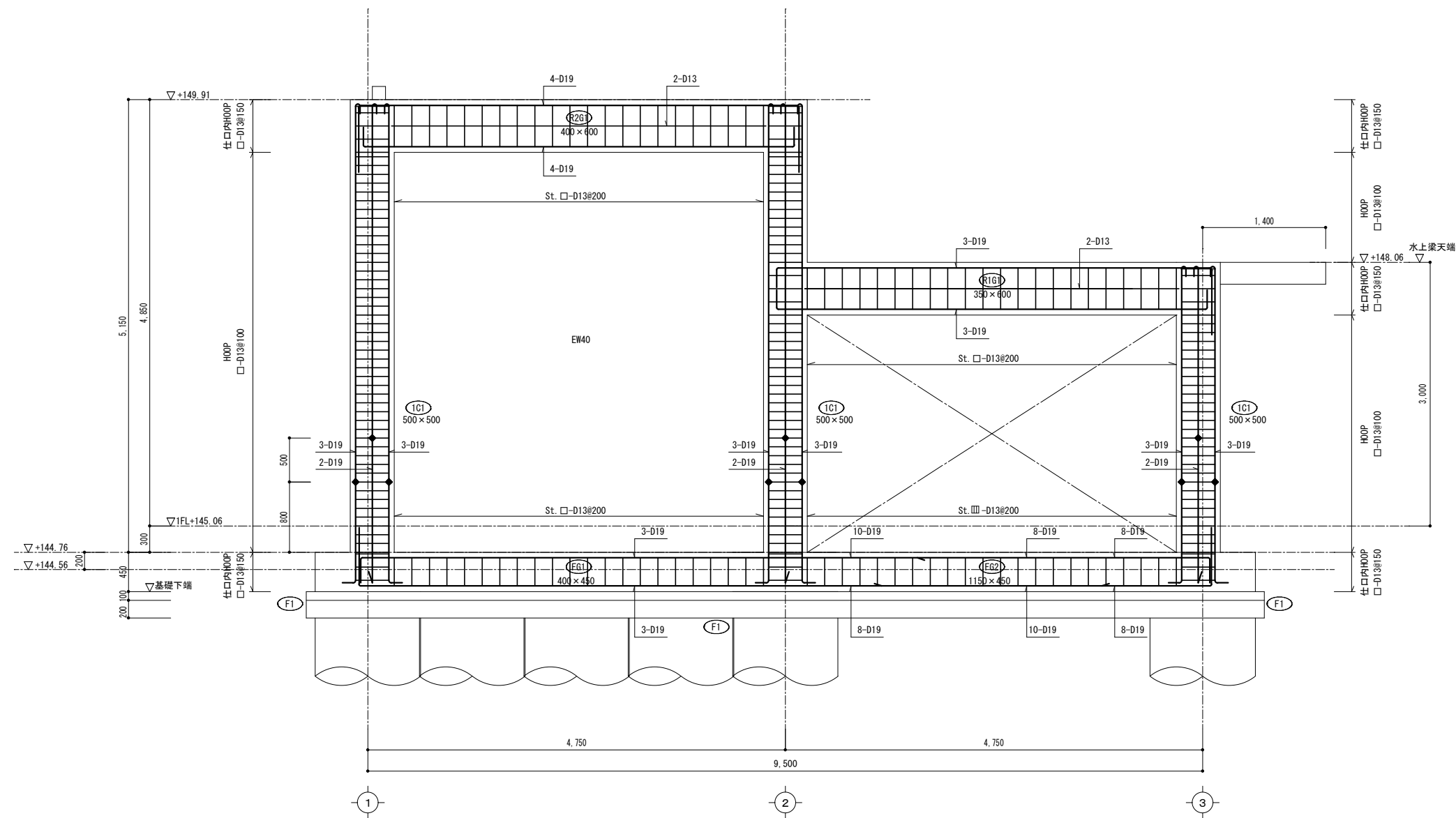
壁リスト (1/30) 1/60 特記なき限り 巾止メ筋はD13@1,000とする。

符 号	W25・EW25	EW40
壁 厚	250	400
断面		
タテ筋	D13@200 (D)	D16@200 (D)
ヨコ筋	D13@200 (D)	D16@200 (D)
開口部 補強筋	タテ筋 4-D16 ヨコ筋 4-D16 ナナメ筋 2-D16	4-D19 4-D19 2-D19
備考		



※ () 内の縮尺はA 1 番出力時を示す。

<div>CS25配筋図 (1/30) 1/60</div> 	<div>CS44配筋図 (1/30) 1/60</div> 	<div>屋根-2 立上り配筋図 (1/30) 1/60</div> 	<div>防水押さえ配筋図 (1/30) 1/60</div> 				
<div>屋根底CS25出隅部補強要領図 (1/30) 1/60</div> 	<div>設備基礎配筋図 (1/30) 1/60</div> <p>※寸法は基礎伏図参照</p> 	<div>防液堤配筋図 (1/30) 1/60</div> 					
<div>※ () 内の縮尺はA 1 番出力時を示す。</div> <table><tr><td>一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10221号 株式会社NJS九州総合事務所 一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録 第293963号 島 哲郎</td><td>北部清掃工場新揚水ポンプ所（仮称）新築本体その他工事 新揚水ポンプ所 雑配筋図 鹿児島市建設局建築部建築課</td><td>(1/30) 1/60</td><td>S-20</td></tr></table>				一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10221号 株式会社NJS九州総合事務所 一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録 第293963号 島 哲郎	北部清掃工場新揚水ポンプ所（仮称）新築本体その他工事 新揚水ポンプ所 雑配筋図 鹿児島市建設局建築部建築課	(1/30) 1/60	S-20
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10221号 株式会社NJS九州総合事務所 一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録 第293963号 島 哲郎	北部清掃工場新揚水ポンプ所（仮称）新築本体その他工事 新揚水ポンプ所 雑配筋図 鹿児島市建設局建築部建築課	(1/30) 1/60	S-20				

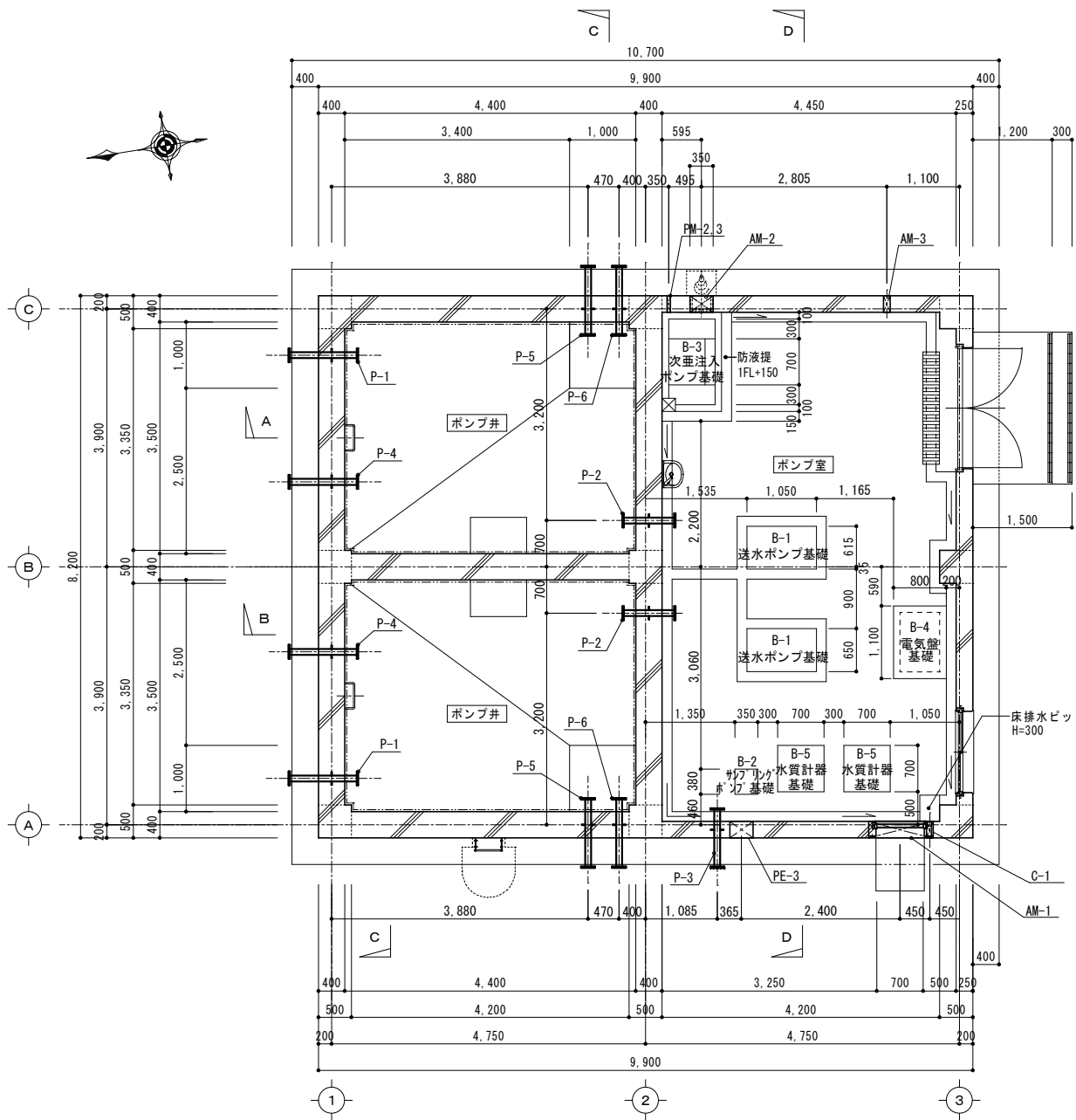


B通り架構詳細図 (1/30)
1/60

- 特記なき限り下記による
- ◆ 印は圧接を示す
 - ・ 仕口内HOOPIは□-D13@150とする
 - ・ 柱主筋柱頭部は全数フック付きとする

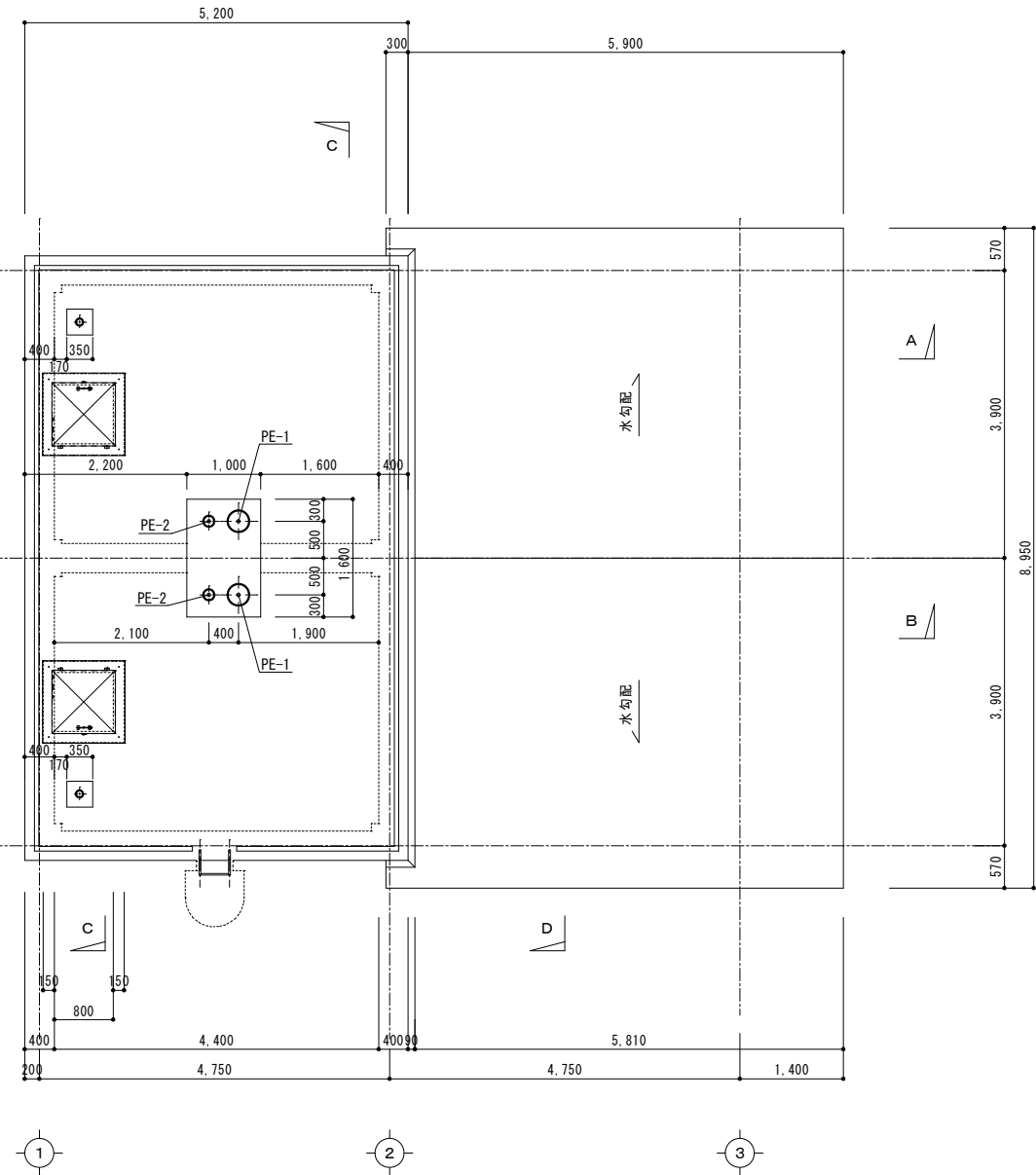
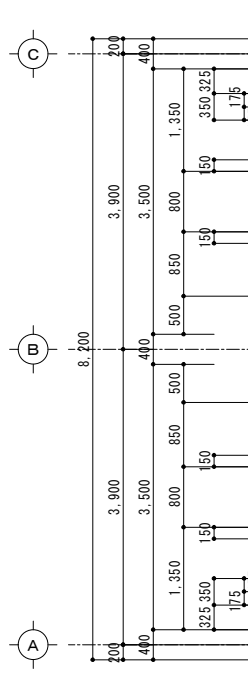
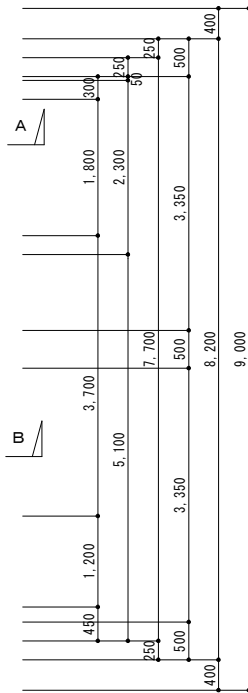
※ () 内の縮尺はA1番出力時を示す。

一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10221号 株式会社NJS九州総合事務所 一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録 第293963号 島 哲郎	北部清掃工場新揚水ポンプ所（仮称）新築本体その他工事	
	新揚水ポンプ所 B通り架構詳細図	(1/30) 1/60
	鹿児島市建設局建築部建築課	





1 階 平面図 (S=1/50)
S=1/100

符 号	名 称	数量	場 所		基礎天端レベル	機器運転重量	備 考
			ポンプ室	ポンプ井			
B-1	送水ポンプ	2	○		1FL+ 100	900 kg/台	・ 1FL±0 = +145.06m ・ 基礎天端レベルは仕上げモルタル (20mm) 施工前のレベルを示す
B-2	サンプリングポンプ	1	○		1FL+ 200		
B-3	次亜注入ポンプ	1	○		1FL+70~120		
B-4	電気盤	1	○		1FL+ 100		
B-5	水質計器	2	○		1FL+ 100		



屋根伏図 (S=1/50)
S=1/100

符 号	用 途	数量	場 所		管 仕 様			管 位 置			備 考
			ポンプ室	ポンプ井	寸 法	材 質	壁	天井	レベ ル		
P-1	流入管	2		○	80A × 1,050L	SUS304TP-Sch20S	両フランジ管 7.5kF	○		COP+145.46 (※) 井FL+700	<div></div> <div></div> <div>・ ポンプ室 1FL±0 = +145.06m</div> <div>・ ポンプ井 FL±0 = +144.76m</div> <div>RFL±0 = +149.91m</div> <div>・ 管は全てパドル付きとする。</div>
P-2	流出管①	2		○	80A × 800L	SUS304TP-Sch20S	両フランジ管 7.5kF×10kF	○		COP+145.46 (※) 井FL+700	
P-3	流出管②	1	○		80A × 900L	SUS304TP-Sch20S	両フランジ管 7.5kF×10kF	○		COP+145.46 (※) 室FL+400	
P-4	連通管	2		○	80A × 1,050L	SUS304TP-Sch20S	片フランジ管 7.5kF	○		COP+145.46 (※) 井FL+700	
P-5	越流管	2		○	80A × 1,050L	SUS304TP-Sch20S	両フランジ管 7.5kF	○		COP+144.95 (※) 井FL+190	
P-6	排泥管	2		○	80A × 1,050L	SUS304TP-Sch20S	片フランジ管 7.5kF	○		COP+144.95 (※) 井FL+190	

符 号	用 途	数量	場 所		穴寸法	貫通配管等	穴 位 置				備 考
			ポンプ室	ポンプ井			壁	床	天井	他	
C-1	床排水管用開口	1	○		φ100	HIVP φ50	○				COH+144.81 (※) 室1FL-250
PM-1	次亜注入管用開口	2		○	φ100	SUS316TP 50A				○	—
PM-2	次亜注入管用開口	1	○		φ50	VP φ25	○				COH+146.01 (※) 室1FL+950
PM-3	通気管用開口	1	○		φ50	HIVP φ25	○				COH+146.92 (※) 室1FL+1860
PE-1	水位計用開口	2		○	φ300	—				○	—
PE-2	電極用開口	2		○	φ150	—				○	—
PE-3	ケーブル用	1	○		350W x 200H	—	○				BOH+147.06 (※) 室1FL+2000
AM-1	換 気	1	○		950W x 920H	—	○				BOH+145.455 (※) 室1FL+395
AM-2	換 気	1	○		350W x 350H	—	○				BOH+146.885 (※) 室1FL+1825
AM-3	空 調	1	○		φ100	—	○				COH+147.06 (※) 室1FL+2000

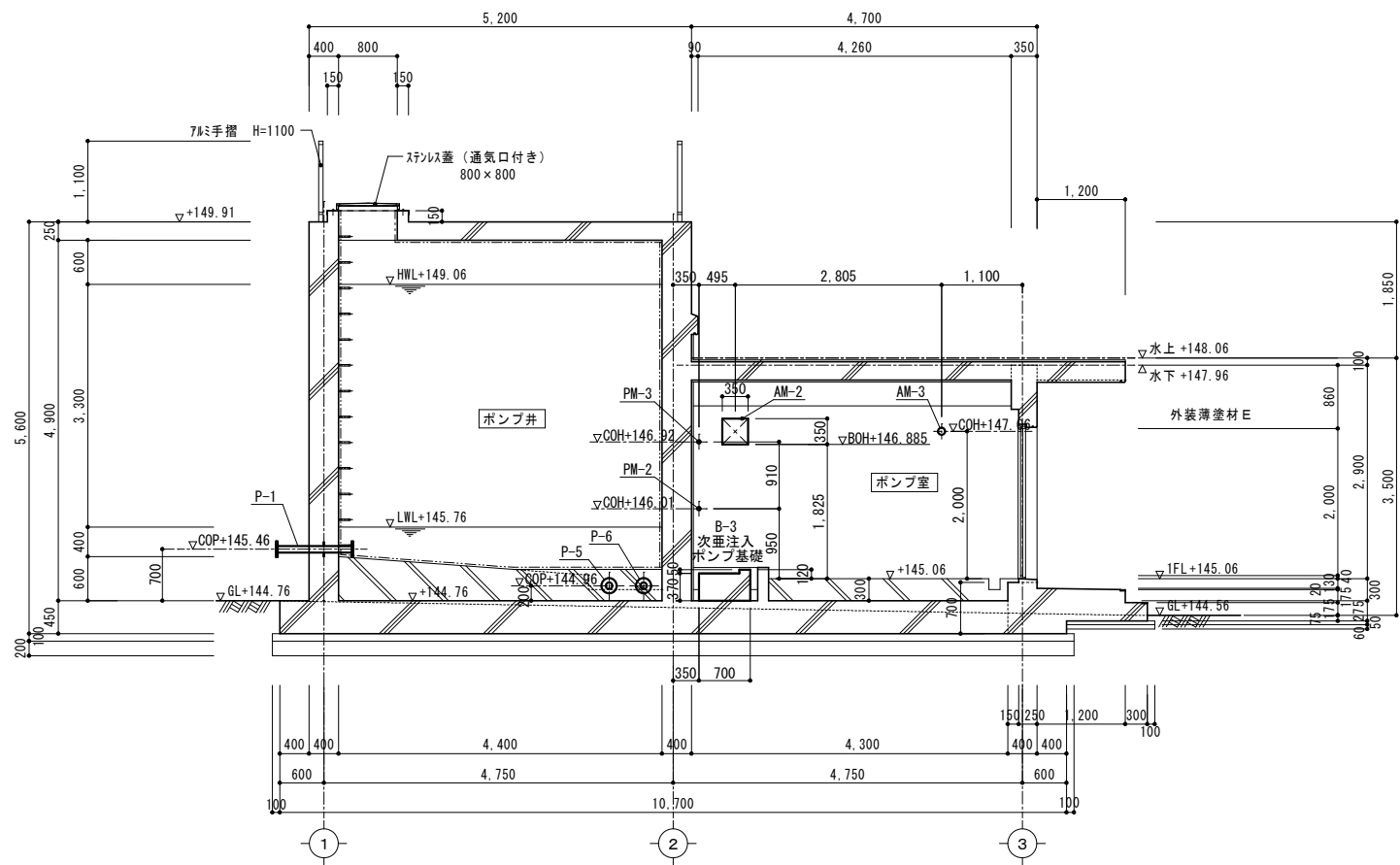
符 号	用 途	数量	場 所		管 仕 様	管 位 置			備 考
			ポンプ室	ポンプ井		寸 法	材 質	壁 天井 レベル	
P-1	流入管	2	○	○	80A x 1,050L	SUS304TP-Sch20S	両フランジ管 7.5kF	○	COP+145.46 (※) 井FL+700
P-2	流出管①	2	○	○	80A x 800L	SUS304TP-Sch20S	両フランジ管 7.5kFx10kF	○	COP+145.46 (※) 井FL+700
P-3	流出管②	1	○	○	80A x 900L	SUS304TP-Sch20S	両フランジ管 7.5kFx10kF	○	COP+145.46 (※) 室FL+400
P-4	連通管	2	○	○	80A x 1,050L	SUS304TP-Sch20S	片フランジ管 7.5kF	○	COP+145.46 (※) 井FL+700
P-5	越流管	2	○	○	80A x 1,050L	SUS304TP-Sch20S	両フランジ管 7.5kF	○	COP+144.95 (※) 井FL+190
P-6	排泥管	2	○	○	80A x 1,050L	SUS304TP-Sch20S	片フランジ管 7.5kF	○	COP+144.95 (※) 井FL+190

注記

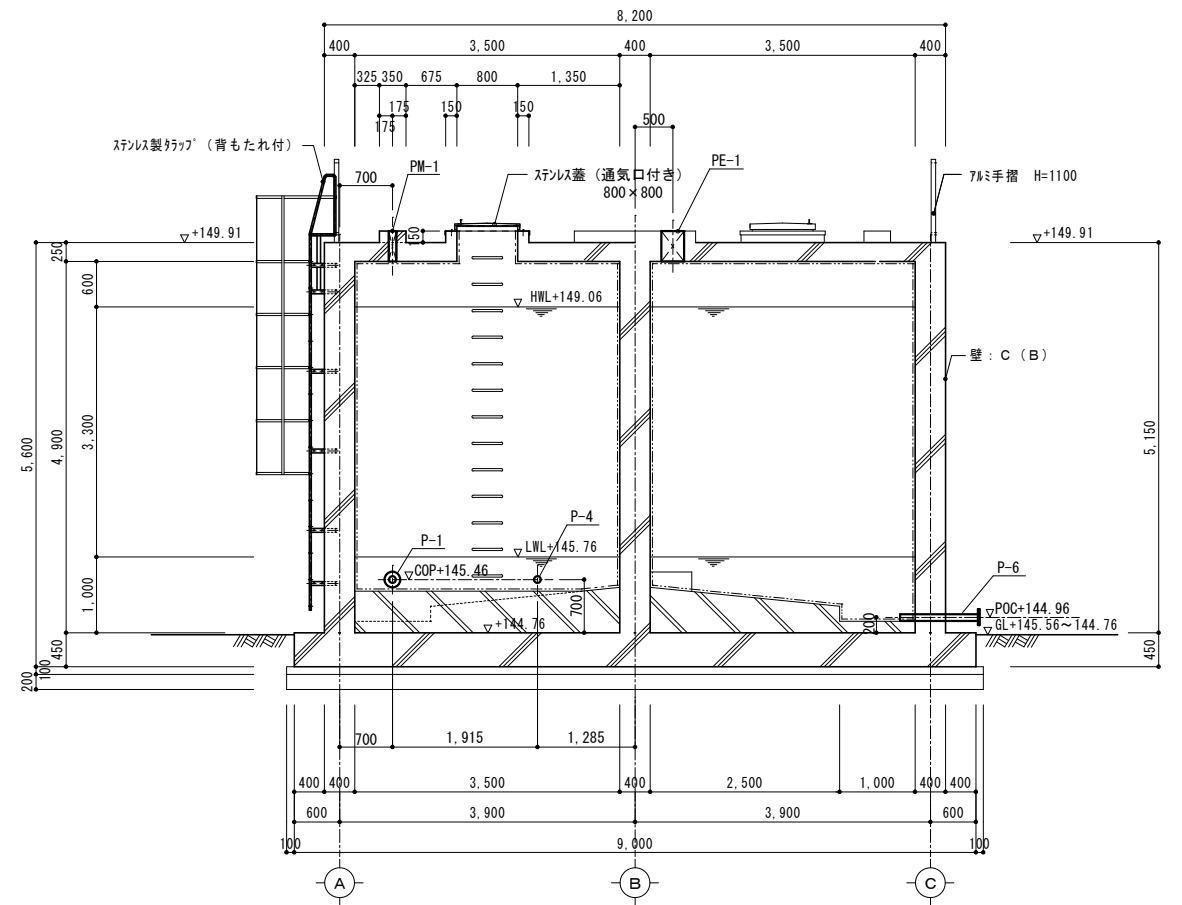
- 基礎リストにおいて、「基礎天端レベル」は、仕上げモルタル (20mm) 施工前のレベルを示す。
- レベルは、ポンプ室 1FL±0 = +145.06m、ポンプ井 FL±0 = +144.76m RFL±0 = +149.91m とする。
- 下記の工事は、建築工事範囲とする。
 - ・ポンプ室床面部
 - ・基礎
 - ・基礎
 - ・床面
 - ・側溝
 - ・無筋コンクリート打設・直均し仕上げ
 - ・側溝製作・勾配モルタル・直均し仕上げとする。
- 下記の工事は、機械設備工事範囲とする。
 - ・ポンプ室床面部
 - ・基礎
 - ・箱抜穴
 - ・埋込短管
 - ・仕上げモルタル・基礎ボルト取付
 - ・貫通配管等の施工後のモルタル充填・補修塗装等
 - ・製作手配・現地支給までとする (取付は建築工事とする)。

※ () 内の縮尺はA 1 番出力時を示す。

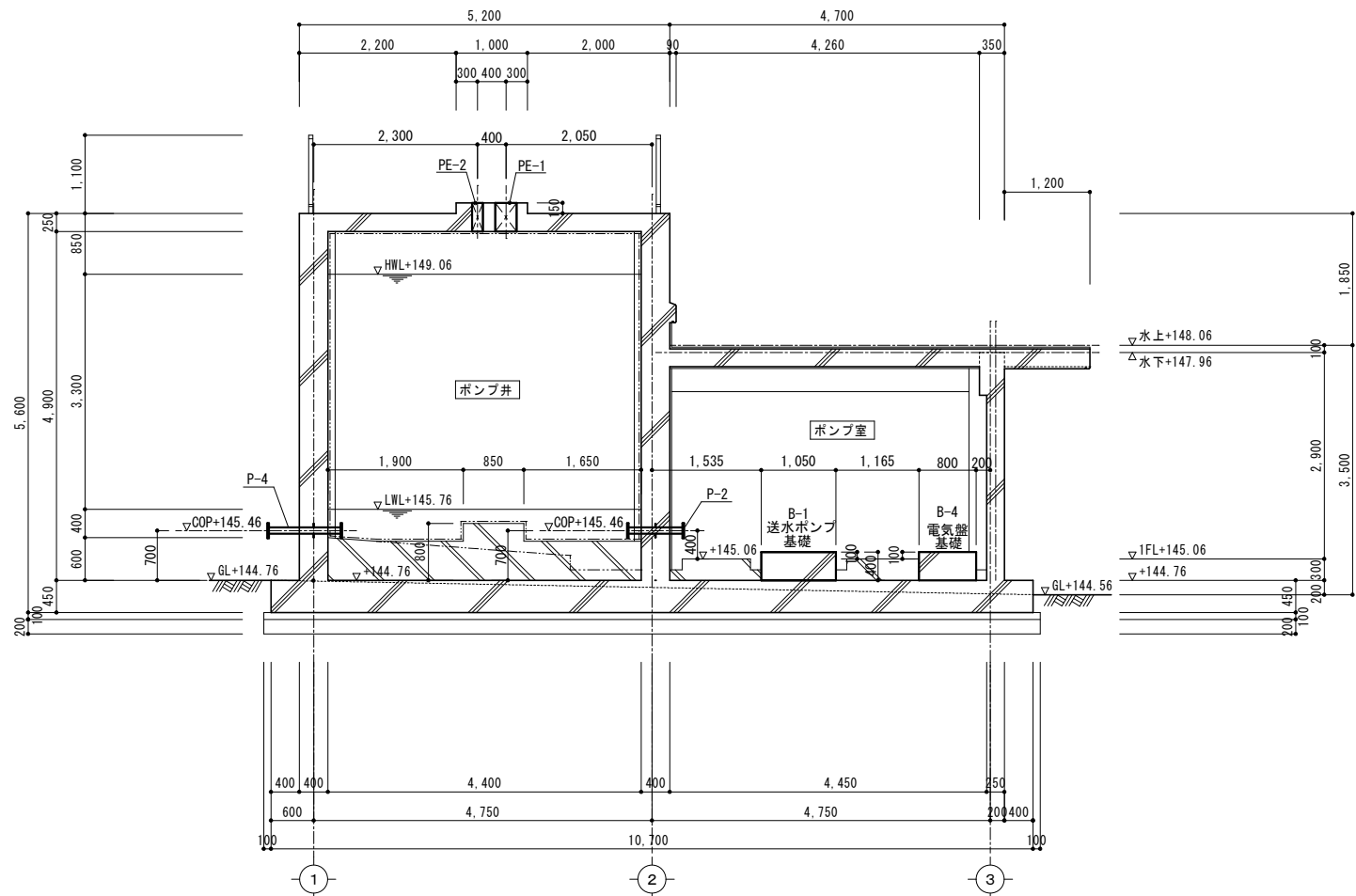
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10221号 株式会社NJS九州総合事務所 一級建築士事務所 一級建築士 大匠 登録 第293963号 島 哲郎	新揚水ポンプ所 (仮称) 新築本体その他工事	
	新揚水ポンプ所 機械基礎・箱抜穴明りリスト、箱抜平面図	(1/50) 1/100
	鹿児島市建設局建築部建築課	



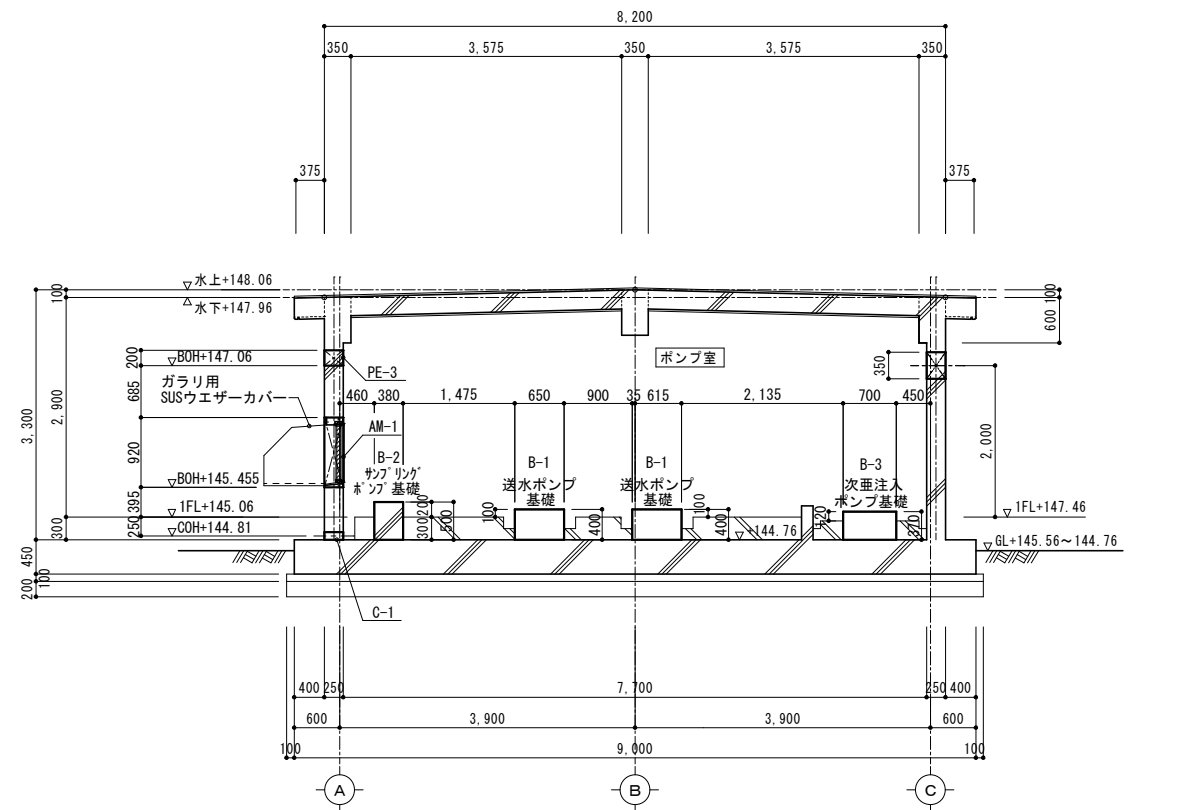
A-A断面図 (S=1/50)
S=1/100



C-C断面図 (S=1/50)
S=1/100



B-B断面図 (S=1/50)
S=1/100



D-D断面図 (S=1/50)
S=1/100

※ () 内の縮尺はA 1 番出力時を示す。

一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10221号 株式会社 N J S 九州総合事務所 一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録 第293963号 島 哲郎	新揚水ポンプ所 (仮称) 新築本体その他工事		H-2
	新揚水ポンプ所 箱抜断面図	(1/50) 1/100	
	鹿児島市建設局建築部建築課		

機械設備工事 特記事項

- (1) 特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共
建築工事標準仕様書（機械設備工事編）令和４年版、公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）
令和４年版、公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）令和４年版による。

機 器 表

記 号	名 称	系 統 名	仕 様	電 源	参考 消費電力	台	備 考
V-1	有圧扇	ポンプ室	300φ × 1390m3/h × 30Pa	1φ-100V	65W	1	低騒音型
			SUS製風圧シャッター、SUS製ウェザーカバー（防虫網、ガラリ付）、絶縁枠 共				
			温度スイッチ：参考型番（FS-6TE）				

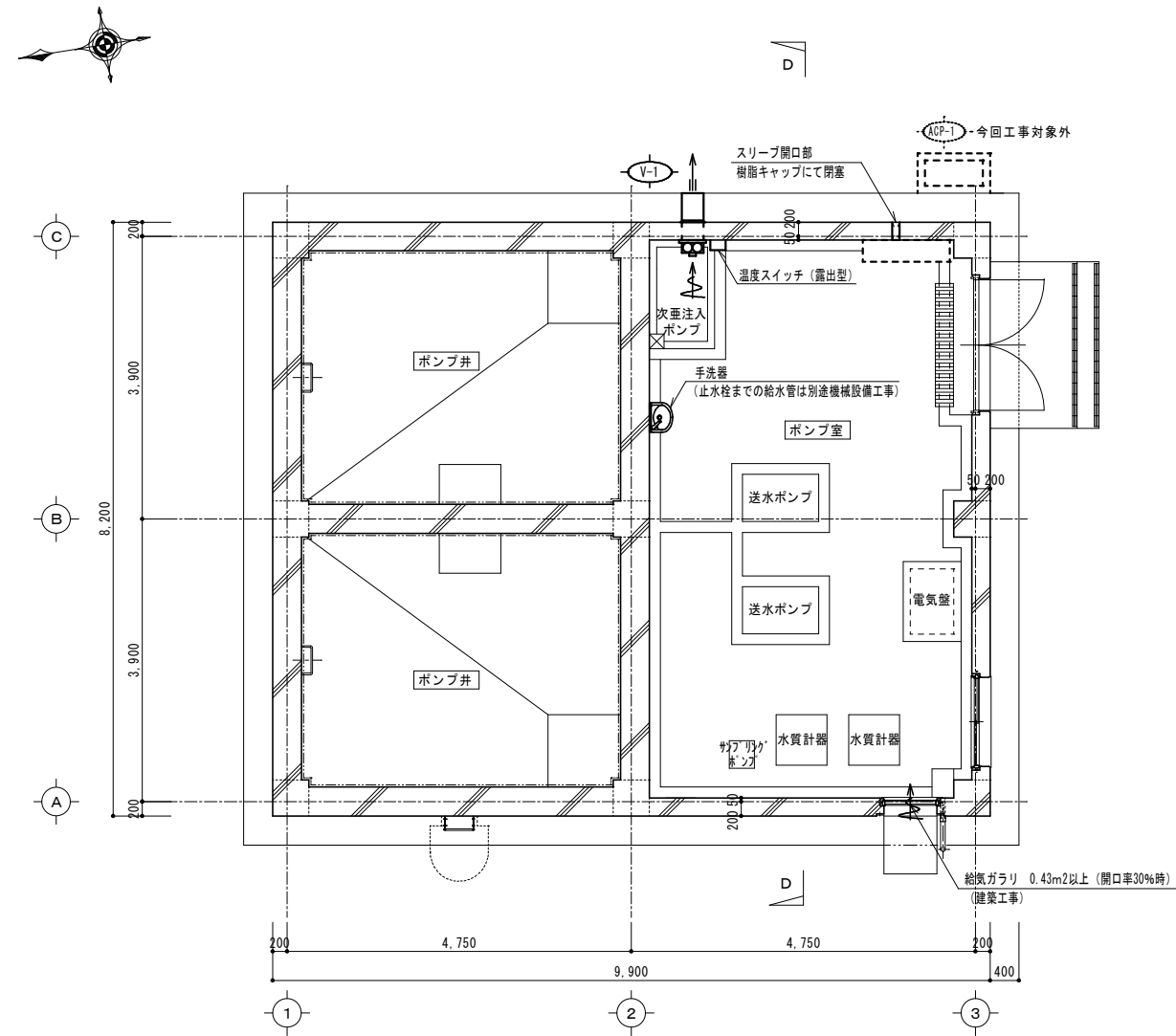
機器表（将来工事）

記 号	名 称	系 統 名	仕 様	電 源	参考 消費電力	台	備 考
ACP-1	空気熱源ヒートポンプ式 パッケージ型空調和機	ポンプ室	壁掛型 冷房能力 11.1kW	3φ-200V	2.72W	1	今回工事対象外

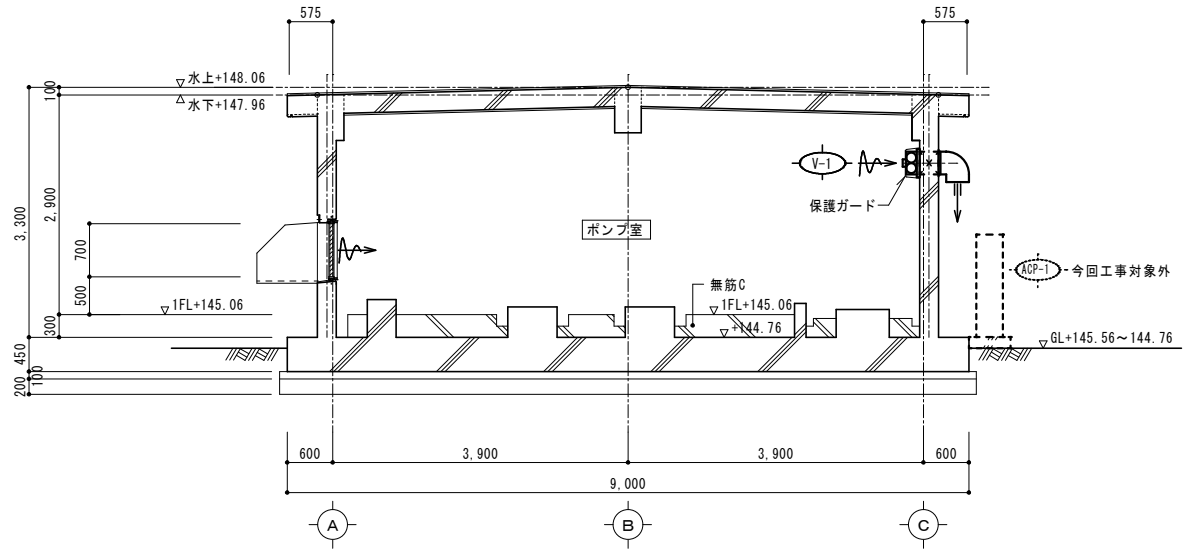
衛 生 機 器 表

名 称	参考品番	備 考	1階 ポンプ室	数量
手洗器	(TOTO) L30D (LIXIL) L-16AG、LF-1-U LF-3V、LF-10SAL KF-30DN、SF-5E	立水栓、Sトラップ、止水栓、他付属品共	1	1

※取付高さは発注者と協議のうえ決定すること。



1 階 平面図 (S=1/50)
S=1/100



D-D断面図

機 械 設 備

※（ ）内の縮尺はA 1番出力時を示す。

一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10221号 株式会社NJS九州総合事務所 一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録 第293963号 島 哲郎	新揚水ポンプ所（仮称）新築本体その他工事		
	新揚水ポンプ所 空調、換気設備 機器表 平面図 断面図	(1/50) 1/100	AM-1
	鹿児島市建設局建築部建築課		



電気設備工事 特記事項	
項 目	事 項
① 適用	(1) 本特記に規定する事項は、別の定めがある場合を除き、受注者の責任において履行すべきものとする。 (2) すべての設計図書は、相互に補完するものとする。ただし、設計図書間に相違がある場合の優先順位は、次のとおりとし、これにより難い場合は「疑義に対する協議等」による手続きによる。 ア 設計図書等に関する質疑応答書 イ 特記仕様書 ウ 図面 エ 公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編） 令和4年版 及び 公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編） 令和4年版（改修及び修繕に限る） (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修) オ 公共建築設備工事標準図（電気設備工事編） 令和4年版 (国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課監修)
② 遵守事項	工事は、電気設備技術基準、内線規程及び小売電気事業者の規程に従い施工する。なお、図面その他が諸規程と相違するときは、監督員の指示による。
③ 特殊な材料・工法	設計図書に記載されていない特殊な材料により施工する場合は、監督員の承諾を得る。なお、特殊な材料による施工は、当該製品の指定工法による。
④ 電気工作物の種類	事業用電気工作物

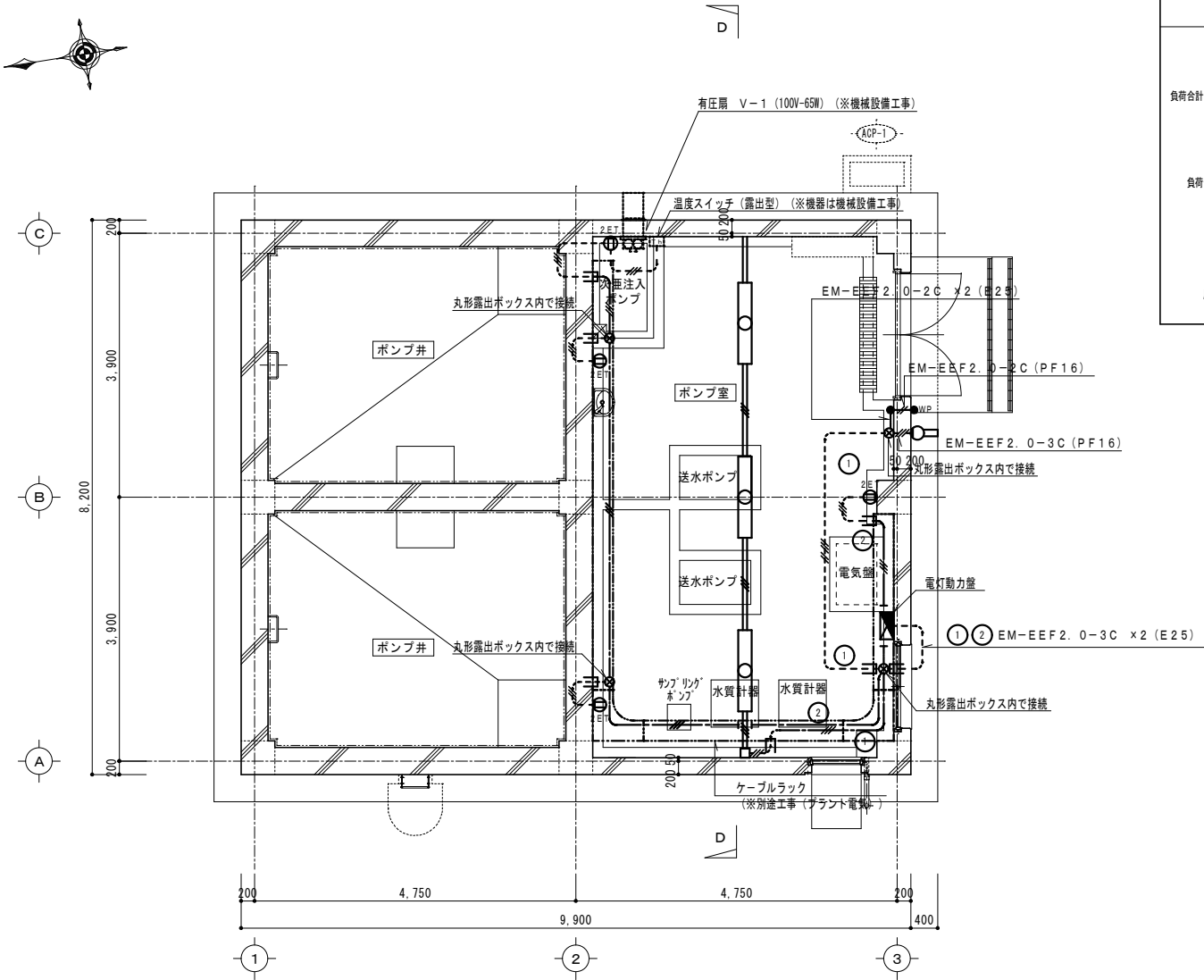
凡 例（電灯コンセント設備）

---	EM-EEF2. 0-3C（アース共）（E19） 露出
---	EM-EEF2. 0-2C+3C（アース共）（E25） 露出
---	EM-EEF2. 0-3C（アース共）（ケーブルラック）
=====	レースウェイのみ 露出
=====	EM-IE1.6x3（アース共）（レースウェイ） 露出

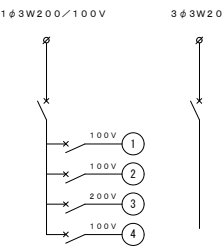
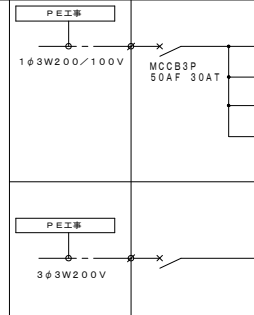
☑	電灯動力壁
○	LED照明器具 屋外ブラケット
○	LED照明器具
●	スイッチ 1P15A x 1
●WP	防水スイッチ 1P15A x 1
⊖2ET	コンセント 2P15A x 2、ET

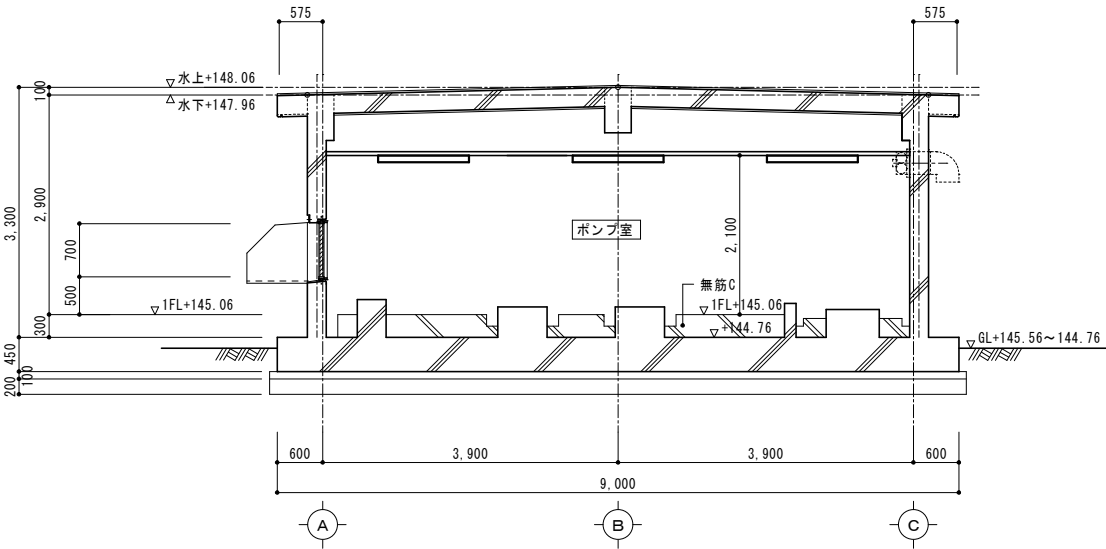
照明器具姿図

LSS1-4-65	LBF3MP/RP-2-13
	防雨、防湿タイプ 



1 階 平面図 (S=1/50)
S=1/100

壁 名 称	結 線 図	幹 線	回路番号	分岐遮断器	電圧	負荷名称	負荷容量 V A	附 属 機 器					備 考
								リモコン トランス	リモコン リレー	マグネット スイッチ	タイマー	COS	
電灯動力壁 負荷合計 1φ3W 100/200V 0.648KVA 負荷合計 3φ3W 200V 2.72KW 屋内、露出、壁掛け型 指定色塗装													
			①	MCCB2P 50AF 20AT	100V	照明	183						
			②	ELCB2P 50AF 20AT	100V	コンセント	465						
			③	MCCB2P 50AF 20AT	200V	予備							
			④	MCCB2P 50AF 20AT	100V	予備							
							KW						
						空調機用電源（※将来用）	2.72						



D-D 断面図 (S=1/50)
S=1/100

※（ ）内の縮尺はA1番出力時を示す。

一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10221号 株式会社NJS九州総合事務所 一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録 第293963号 島 哲郎	新揚水ポンプ所（仮称）新築本体その他工事		
	新揚水ポンプ所		(1/50)
	電灯コンセント設備 壁結線図 平面図 断面図		1/100
	鹿児島市建設局建築部建築課		
AE-1			